

ABBYY® FineReader 11

ユーザーズ ガイド

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、その内容について ABBYY は何ら責任を負いません。

本書で説明されているソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供されます。

同ソフトウェアは、契約条件に厳密に従った場合に限り、使用および複製が行えます。

使用許諾契約または機密保持契約で明確に許可されている場合を除き、ソフトウェアを何らかの媒体に複製することは、ロシア連邦の「ソフトウェアおよびデータベースの法的保護に関する」法律および国際法に違反します。

本書のいかなる部分も、書面による ABBYY

の明示的な許可を得ることなく、電子的またはその他のいかなる形式または方法によっても、その目的を問わず、複製または伝送を行ってはなりません。

© ABBYY Production LLC, 2013. All rights reserved.

ABBYY、ABBYY のロゴ、ABBYY FineReader、ADRT は、ABBYY Software Ltd. の登録商標または商標です。

© 1984–2008 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許により 保護されています: 5,929,866; 5,943,063; 6,289,364; 6,563,502; 6,185,684;

6,205,549; 6,639,593; 7,213,269; 7,246,748; 7,272,628; 7,278,168; 7,343,551; 7,395,503;

7,389,200; 7,406,599; 6,754,382; 特許申請中。

Adobe® PDF Library は、Adobe Systems Incorporated より使用許諾を受けています。

Adobe、Acrobat®、Adobe のロゴ、Acrobat のロゴ、Adobe PDF のロゴおよび Adobe PDF Library

は、米国および/またはその他の国々における Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

© 1996–2007 LizardTech, Inc. All rights reserved. DjVu® は米国 特許 No. 6,058,214.

により保護されています。外国特許申請中。

© 2008 Celartem, Inc. All rights reserved.

© 2011 Caminova, Inc. All rights reserved.

Powered by AT&T Labs Technology.

© 2011 University of New South Wales. All rights reserved.

Newton、Pragmatica、Courier フォント © 2001 ParaType, Inc.

OCR-v-GOST フォント © 2003 ParaType, Inc.

© 2002–2008 Intel Corporation.

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Outlook、Excel、PowerPoint、Windows Vista、Windows は、米国およびその他の国々における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

© 1991–2008 Unicode, Inc. All rights reserved.

© 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved

OpenOffice.org、OpenOffice.org のロゴは、Oracle

および/またはその関連会社の商標または登録商標です。

JasPer License Version 2.0:

© 2001–2006 Michael David Adams

© 1999–2000 Image Power, Inc.

© 1999–2000 The University of British Columbia

© 1996–2011, Amazon.com, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

KINDLE®、KINDLE のロゴおよびその他の Amazon.com のグラフィック、ボタン

アイコンは米国および/またはその他の国々における Amazon の登録商標、商標 またはトレードドレスです。

EPUB® は IDPF (International Digital Publishing Forum) の登録商標です。

iPad は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の 商標です。

他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

目次

ABBYY FineReader の概要	4
ABBYY FineReader とは	4
ABBYY FineReader 11 の新機能	5
ABBYY FineReader 11 のインターフェイス	6
メイン ウィンドウ	6
ツールバー	8
ABBYY FineReader ワークスペースのカスタマイズ	9
オプション ダイアログ ボックス	10
ABBYY FineReader での作業	13
ABBYY FineReader タスク	14
自動タスクの管理	21
ABBYY FineReader Step-by-Step	22
ABBYY FineReader ドキュメント	27
紙文書の特徴の検討	31
画像取得のヒント	34
OCR 品質を高めるためのヒント	44
認識したテキストの確認と編集	53
複合文字の言語での作業	58
結果の保存	62
拡張機能	79
他のアプリケーションでの作業	79
領域テンプレートの使用	80
調整を伴う認識	81
ユーザー言語と言語グループ	83
LAN でのグループ作業	86
ABBYY Hot Folder	88
付録	93
用語集	93
サポートされている画像形式	97
サポートされている保存形式	100
言語と各言語のフォント	101
正規表現	103
ショートカット	105
ABBYY 製品の購入方法	111
ABBYY について	111
ABBYY FineReader のライセンス認証と登録	112
ABBYY FineReader のライセンス認証	112
ABBYY FineReader の登録	113
プライバシー ポリシー	114
テクニカル サポート	115

ABBYY FineReader の概要

この章では、ABBYY FineReader とその機能の概要について説明します。

トピック

- ABBYY FineReader とは
- ABBYY FineReader の新機能

ABBYY FineReader とは

ABBYY FineReader は光学式文字認識（OCR）システムです。スキャンしたドキュメント、PDF ドキュメントや、デジタル写真を含む画像ファイルを編集可能な形式に変換するために使用します。

ABBYY FineReader の利点

高速かつ正確な認識

- ABBYY FineReader で使用されている OCR システムでは、あらゆるドキュメントの元の書式設定（背景画像の上のテキスト、色付きの背景の上の色付きのテキスト、画像を回り込むように配置されたテキストなど）を素早く正確に認識し、保持します。
- ABBYY の **ADRT®** (adaptive document recognition technology) により、ABBYY FineReader ではページ単位ではなく、ドキュメント全体を分析し、処理することができます。この手法により、書式、ハイパーリンク、電子メールアドレス、ヘッダーとフッター、画像や表のキャプション、ページ番号、脚注など、ソースドキュメントの構造が保持されます。
- ABBYY FineReader では、アラビア語、ベトナム語、韓国語、中国語、日本語、タイ語、ヘブライ語を含む **189 種の言語**のうち、1 つまたは複数の言語で書かれたドキュメントを認識できます。また、ABBYY FineReader はドキュメントの言語を自動検出する機能も備えています。
- さらに、ABBYY FineReader は印刷欠陥の影響をほとんど受けず、実質的にあらゆるフォントを認識できます。
- このプログラムは、出力データのオプションも豊富です。ドキュメントをさまざまな形式で保存したり、電子メールで送信したりすることもできますし、さらに処理するために他のアプリケーションに転送することも可能です。

使いやすさ

- ABBYY FineReader のインターフェイスは使い方が分かりやすく、直感的で結果重視型のため、追加的なトレーニングなしでプログラムを使用できます。新しいユーザーでも、主な機能をマスターするのにほとんど時間がかかりません。インターフェイス言語は、プログラムの中で直接変更できます。
- **ABBYY FineReader クイック** タスクには、スキャンしたドキュメント、PDF、画像ファイルを編集可能な形式に変換するために最も頻繁に使用されるタスクのリストが含まれており、マウスを 1 回クリックするだけで電子ドキュメントを検索できます。
- Microsoft Office と Windows エクスプローラとのシームレスな統合により、Microsoft Outlook、Microsoft Word、Microsoft Excel、および Windows エクスプローラから直接ドキュメントを認識できます。
- また、FineReader は、プログラムを使用して多数の複雑な変換関連タスクを実行する方法について例を示して説明するヘルプメニューも備えています。

ABBYY FineReader 11 の新機能

- **処理効率の向上**

新機能のモノクロ モードにより、FineReader 11 ではカラーが不要な場合に処理速度を 30% 高めることができます。さらに、マルチコア プロセッサの利点を活用して、変換を一段と高速化します。

- **柔軟性のある E ブック作成機能**

紙製の本をスキャンし、ePub または fb2 の形式に変換して、外出中でも iPad、タブレット機やお好みの携帯機器で本を読むことができます。あるいは、スキャンして変換した本をご使用の Kindle アカウントに直接送信することもできます。紙に印刷された本や記事を適切な E ブック形式に変換し、電子ライブラリまたはアーカイブに加えることができます。

- **OpenOffice.org Writer のネイティブ サポート**

FineReader 11 では、ドキュメントの画像や PDF ファイルを認識し OpenOffice.org Writer 形式 (ODT) に直接変換できるため、元のレイアウトと書式を正確に保持することが可能です。マウスを数回クリックするだけで、ドキュメントを *.odt アーカイブに簡単に追加できるようになりました。

- **ユーザー インターフェイスの機能強化**

- スタイル エディタの機能強化により、使いやすいウィンドウ 1 つですべてのスタイル パラメータをセットアップできます。すべての変更はドキュメント全体に一度に適用されます。
- FineReader ドキュメントの中のページを整理して、レイアウトをより正確に保持できます。
- プログラムが起動した後、直ちにドキュメント変換を開始できるだけでなく、基本的な変換タスクと高度なタスクをすべて簡単に使用できるようになりました。

- **パワフルで多様な画像編集ツールを備えた次世代カメラ OCR**

FineReader 11 は、明るさとコントラストのスライダー、レベル ツールなどの広範囲にわたる新しいパワフルな画像編集ツールを備えているため、画像の品質を高めて、より正確な結果を取得することができます。

- **改善された ADRT 2.0 による OCR 精度とレイアウト保持の向上**

ドキュメントのスタイル、脚注、ヘッダーとフッター、画像のキャプションを検出する機能の強化により、変換したドキュメントの編集に必要な時間が最低限度に短縮されました。

- **最適な PDF 出力**

PDF ファイル用に、最高品質、コンパクトなサイズ、バランス保持の 3 種類の画像設定があらかじめ定義されており、ユーザーのニーズに応じて最適な結果を提供します。

- **新たな認識言語* - アラビア語、ベトナム語、トルクメン語 (ラテン文字)**

- **名刺リーダーを利用して紙の名刺を電子的な連絡先情報に素早く変換 (Corporate Edition のみ)**

*製品のエディションにより、利用可能な認識言語のセットは異なることがあります。

ABBYY FineReader 11 のインターフェイス

ABBYY FineReader

のインターフェイスは使い方が分かりやすく、直感的で結果重視型のため、追加的なトレーニングなしでプログラムを簡単に使用できます。このため、新しいユーザーが主な機能をマスターするのにほとんど時間がかかりません。

ABBYY FineReader のインターフェイスはカスタマイズ可能です。

各ユーザーのニーズに合わせて、ワークスペースをカスタマイズできます。

- ウィンドウの位置とサイズを変更する
- 最も頻繁に使用するコマンドにアクセスするためのクイック アクセス バーを設定する
- キーボード ショートカットを設定する -
あらかじめ設定されているキーの組み合わせを変更したり、特定のプログラム
コマンドを実行するために独自のキーの組み合わせを追加したりできます
- 優先するインターフェイス言語を選択する、など

トピック

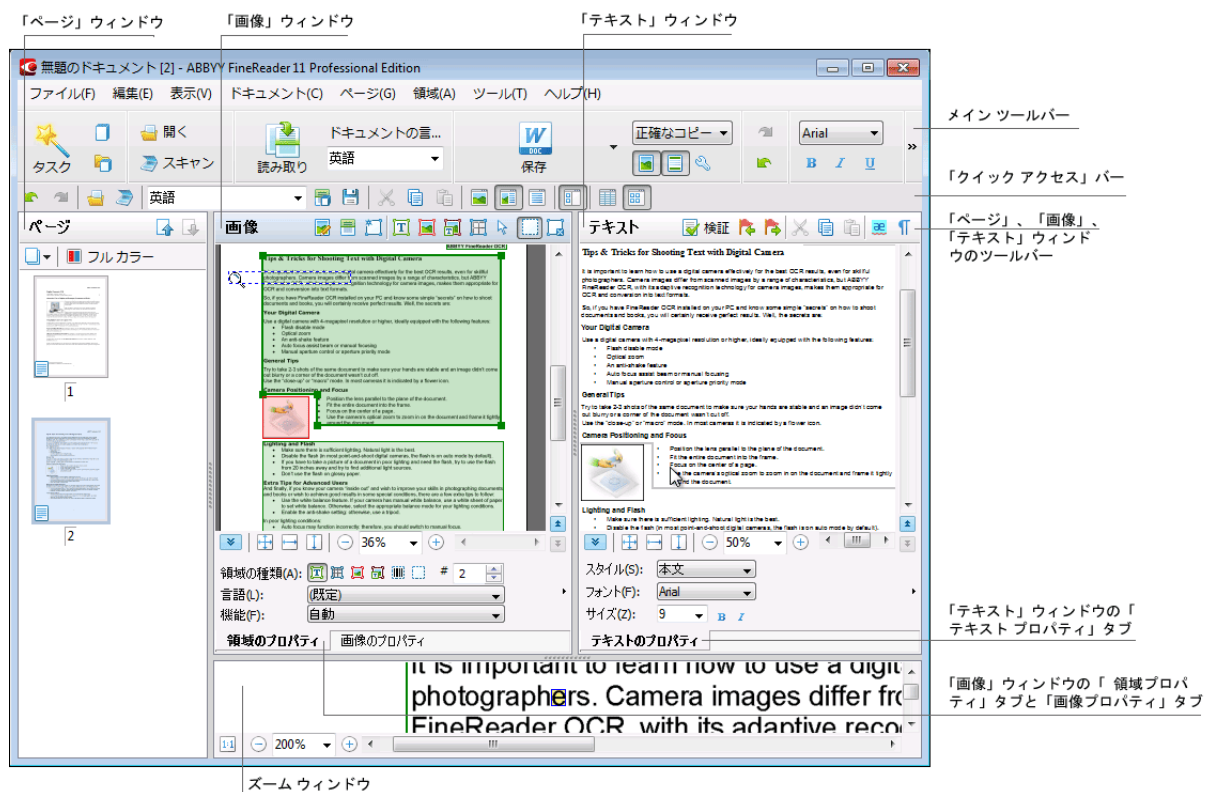
- メイン ウィンドウ
- ツールバー
- ABBYY FineReader ワークスペースのカスタマイズ
- 「オプション」ダイアログ ボックス

メイン ウィンドウ

ABBYY FineReader を起動すると、メイン ウィンドウとともに [新しいタスク]
ウィンドウが開き、組み込みのクイック
タスクやカスタムの自動タスクをセットアップして起動できます。

メイン ウィンドウには、現在開いている ABBYY FineReader
ドキュメントが表示されます。詳細については、「ABBYY FineReader
ドキュメント」を参照してください。

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド



- 「ページ」ウィンドウでは、現在の FineReader ドキュメントのページを確認できます。ページの表示モードは 2 種類あります。「アイコン」(小さな画像で表示)と、「ドキュメントのページとそのプロパティのリスト」です。表示モードの切り替えは、このウィンドウのショートカット メニュー、「表示」メニュー、および「オプション」ダイアログボックス（「ツール」>「オプション…」）で行えます。
- 「画像」ウィンドウには、現在のページの画像が表示されます。このウィンドウで、画像領域、ページ画像、テキスト プロパティを編集できます。
- 「テキスト」ウィンドウでは、認識したテキストを表示できます。また、認識したテキストのスペルチェックや書式設定、編集も「テキスト」ウィンドウで行えます。
- 「ズーム」ウィンドウには、現在編集している行または処理済み画像の拡大画像が表示されます。「画像」ウィンドウには全般的なページの外観が表示されますが、「ズーム」ウィンドウを使用すると、画像の詳細を簡単に表示して、領域の種類と位置を調整したり、不明瞭な文字を拡大画像と比較したりできます。「ズーム」ウィンドウの画像の縮尺は、ウィンドウ下部にあるパネルで変更可能です。

ヒント スペース バーを押しながらマウスを使用して、「画像」ウィンドウおよび「ズーム」ウィンドウ内の画像を移動できます。

ウィンドウ切り替えキー

- ウィンドウを切り替えるには **Ctrl+Tab** を押します
- 「ページ」ウィンドウをアクティブにするには **Alt+1** を押します
- 「画像」ウィンドウをアクティブにするには **Alt+2** を押します

- [テキスト] ウィンドウをアクティブにするには **Alt+3** を押します

詳細については、「キーボード ショートカット」を参照してください。

ツールバー

ABBYY FineReader のメイン ウィンドウは、複数のツールバーを備えています。ツールバー ボタンを使用すると、プログラムのコマンドに簡単にアクセスできます。プログラム メニューからでも、キーボード ショートカットを使っても、同じコマンドを実行できます。

メイン

ツールバーには、すべての基本的な操作のための、固定された一連のボタンがあります。これらのボタンでの操作は、ドキュメントを開く、画像を開く、ページのスキャン、ページの認識、結果の保存などです。



クイック アクセス バー は、メイン

メニューにあるほぼすべてのコマンドの代わりになる特別なボタンを追加してカスタマイズできます。既定では、このバーはメイン ウィンドウに表示されません。このバーを表示するには、[表示] > [ツールバー] の項目、またはメイン ツールバーのショートカット メニューで [クイック アクセス バー] を選択します。



[ページ]、[画像]、[テキスト] ウィンドウでは、ツールバーは上部に置かれています。[ページ] ウィンドウにあるツールバーのボタンは、変更できません。[画像] および [テキスト] ウィンドウにあるツールバーは、すべてカスタマイズ可能です。



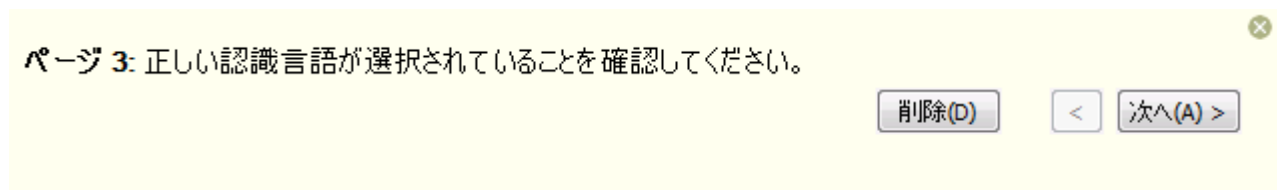
ツールバーをカスタマイズしてボタンの追加または削除を行うには

1. [ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > [カスタマイズ...])。
2. [ツールバー] タブの [カテゴリー] フィールドで、必要なカテゴリーを選択します。

注意: 異なるカテゴリーを選択すると、メイン メニューの一連のコマンドに応じて、[コマンド] リストのコマンドが変わります。

3. [コマンド] リストからコマンドを選択し、[>>] (または [<<]) ボタンをクリックします。選択したコマンドが、ツールバーのコマンド リストに表示 (またはコマンド リストから削除) されます。
4. 変更内容を保存するには、[OK] ボタンをクリックします。
5. クイック アクセス バーを既定の表示にリセットするには、[すべてリセット] ボタンをクリックします。

プログラムの実行中は [警告とエラー] ウィンドウ]にエラー警告およびポップアップ メッセージが表示されます。





警告とエラーのウィンドウを開くには、[表示] メニューまたはメイン ツールバーのショートカットメニューで [警告とエラー ウィンドウを表示] を選択します。

[ページ]

ウィンドウで現在選択されているページに関するエラーと警告が表示されます。警告とエラーをスクロールするには、< ボタンと 次へ(A) > ボタンを使用します。

ABBYY FineReader ワークスペースのカスタマイズ

- 使用しないウィンドウを一時的に非表示にできます。ウィンドウの表示/非表示を切り替えるには、[表示] メニューのオプションまたはキーボード ショートカットを使用します。
 - F5 で [ページ] ウィンドウを表示
 - F6 で [画像] ウィンドウを表示
 - F7 で [画像] ウィンドウと [テキスト] ウィンドウを表示
 - F8 で [テキスト] ウィンドウを表示
 - Ctrl+F5 で [ズーム] ウィンドウを表示
- ウィンドウ スペーサーをマウスでドラッグして、ウィンドウのサイズを変更できます。
- [ページ] ウィンドウと [ズーム] ウィンドウの位置を変更することもできます。[表示] メニューにあるコマンドまたはウィンドウ ショートカット メニューを使用します。
- プログラムを実行中に警告とエラーのメッセージを表示する方法をカスタマイズできます。[表示] メニューの [警告とエラー ウィンドウを表示] コマンドを使用すると、警告とエラー ウィンドウのオン・オフを切り替えることができます。
- [画像] ウィンドウまたは [テキスト] ウィンドウで [プロパティ] パネルの表示/非表示を切り替えるには、ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。あるいは、これらのウィンドウの下部にある  または  をクリックすることもできます。
- 一部のウィンドウ設定は、[オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブでカスタマイズできます。

インターフェイス言語の変更

インターフェイス言語は、ABBYY FineReader のインストール時に選択されます。この言語は、すべてのメッセージ、ダイアログ ボックス、ボタン、およびメニュー アイテムに使用されます。インターフェイス言語を変更するには、下記の指示に従ってください。

インターフェイス言語を切り替えるには、次の操作を行います。

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開き、[詳細設定] タブを開きます ([ツール] > [オプション...])。
2. [インターフェイス言語] ドロップダウン メニューで希望する言語を選択します。

3. **[OK]** ボタンをクリックします。
4. ABBYY FineReader を再起動します。

オプション ダイアログ ボックス

[オプション] ダイアログ

ボックスでは、ドキュメントの処理オプションを選択し、プログラムの外観をカスタマイズすることができます。

[オプション] ダイアログ ボックスを開くには、**[ツール] > [オプション...]**

を選択するか、または画面上部にあるツールバーのレンチ

アイコンをクリックします。あるいは、ツールバーを右クリックして、**[オプション...]**

を選択します。このダイアログ ボックスは、**[画像を開く]** および **[名前を付けて保存]** のダイアログ ボックスからもアクセスできます。

このダイアログ ボックスには 6 つのタブがあります。

- **ドキュメント**

このタブでは、次の選択を行うことができます。

- ドキュメントの言語
- ドキュメントの印刷タイプ
- カラー モード
- ドキュメント プロパティ

このタブには、現在の ABBYY FineReader ドキュメントへのパスも表示されます。

- **スキャン/開く**

このタブでは、画像とドキュメントの自動処理オプションを選択できます。

- 取得したページ画像を自動的に読み取る
- 取得したページ画像を自動的に分析する
- 画像の前処理を有効にする
- ページの向きを検出する
- 見開きページを分割する

また、スキャナのドライバおよびスキャンのインターフェイスを選択することもできます。

- **読み取り**

このタブでは認識オプションを選択できます。

- 綿密な読み取りまたは高速読み取り
- 組み込みパターンを使用する
- 認識されたテキストで使用するフォント
- バーコードを探す

ここでは、ユーザーパターンおよびユーザー言語をファイルに保存したり、ファイルから読み込んだりするかどうかも指定できます。

• 保存

このタブでは、認識したテキストを保存する出力形式を選択できます。

- RTF/DOC/DOCX/ODT
詳細については、「RTF/DOC/DOCX/ODT 形式での保存」を参照してください。
- XLS/XLSX
詳細については、「XLS/XLSX 形式での保存」を参照してください。
- PDF
詳細については、「PDF 形式での保存」を参照してください。
- PDF/A
詳細については、「PDF/A 形式での保存」を参照してください。
- HTML
詳細については、「HTML 形式での保存」を参照してください。
- PPTX
詳細については、「PPTX 形式での保存」を参照してください。
- TXT
詳細については、「TXT 形式での保存」を参照してください。
- CSV
詳細については、「CSV 形式での保存」を参照してください。
- E ブック
詳細については、「E ブックの保存」を参照してください。
- DjVu
詳細については、「DjVu」を参照してください。

• 表示

このタブでは、次の操作を行うことができます。

- [ページ] ウィンドウの外観をカスタマイズする ([サムネール] ビューまたは [詳細] ビューを選択)
- [テキスト]
ウィンドウをカスタマイズする。このウィンドウでは、認識された文字のうち信頼性の低いものをユーザーが設定した色で強調表示したり、印刷不可能な文字を表示/非表示にしたり、プレーン テキストに使用されるフォントを選択したりできます。
- [画像] ウィンドウに表示される領域を囲む枠の色と幅を選択する

• 詳細設定

このタブでは、次の操作を行うことができます。

- 正しく認識されなかった文字の検証オプションを選択する
- 句読点の前後のスペースを修正するかどうかを指定する

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

- ユーザー辞書を表示して編集する
- ABBYY FineReader で更新を自動的に確認してインストールするかどうか指定します
- FineReader メニューおよびメッセージの言語を選択する
- アプリケーションの起動時に前回使用した ABBYY FineReader ドキュメントを開くかどうかを指定する
- ドキュメントの警告を別のウィンドウに表示するかどうかを指定する
- ABBYY のソフトウェア改善プログラムに参加するかどうかを選択する
- オプションをプログラムの既定値にリセットする

ABBYY FineReader での作業

この章では、ABBYY FineReader の概要について説明します。具体的には、編集や使用に便利な形式で電子ドキュメントを素早く作成する方法、および複雑で標準的ではないテキスト認識タスクを実行する方法です。

トピック

- ABBYY FineReader クイック タスク
 - 主なクイック タスク
 - Microsoft Word タスク
 - Adobe PDF タスク
 - E ブック タスク
 - その他のクイック タスク
- カスタムの自動タスク
 - 新しい自動タスクの作成方法
 - タスクの手順
 - 自動タスクの管理
- ABBYY FineReader Step-by-Step
 - 画像の取得
 - 認識
 - 確認と編集
 - OCR 結果の保存
 - OCR 結果のメール送信
 - Kindle への OCR 結果の送信
- ABBYY FineReader ドキュメント
 - 全般
 - ABBYY FineReader ドキュメントでの作業
 - ABBYY FineReader ドキュメントの分割
 - ABBYY FineReader ドキュメントのページ番号付け
- 紙文書の特徴の検討
- 画像取得のヒント
- OCR 品質を高めるためのヒント
- 認識したテキストの確認と編集
- 複合文字の言語での作業
- さまざまな形式での結果の保存

詳細については、「拡張機能」を参照してください。

ABBYY FineReader タスク

ドキュメントの認識では、ドキュメントのスキャン、認識、特定の形式での結果の保存などのタスクが繰り返し行われることが少なくありません。ABBYY FineReader のクイックタスクを使用すると、最も一般的なタスクをクリック 1 回で実行して時間を節約することができます。

クイック タスクは、アプリケーションが読み込まれた後に既定により開く [新しいタスク] ウィンドウで起動します。[新しいタスク] ウィンドウが閉じている場合は、メインツールバーをクリックし、次に [新規タスク] ボタンをクリックします。



1. [新しいタスク] ウィンドウで、任意のタスクを選択します。
 - クイック タスク
 - Microsoft Word タスク
 - Adobe PDF タスク
 - E ブック タスク
 - その他のタスク
 - マイ タスク
2. [ドキュメントの言語] ドロップダウン メニューで、認識される言語を選択します。データを Microsoft Word ドキュメントまたは Adobe PDF ドキュメントに変換するために使用する自動タスク用のその他のオプションが利用できます (ウィンドウの下部にて)。
3. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
 - フル カラー 元の画像の色を保持します
 - モノクロ 画像をモノクロに変換し、ABBYY FineReader ドキュメントのサイズを縮小して OCR の速度を高めます

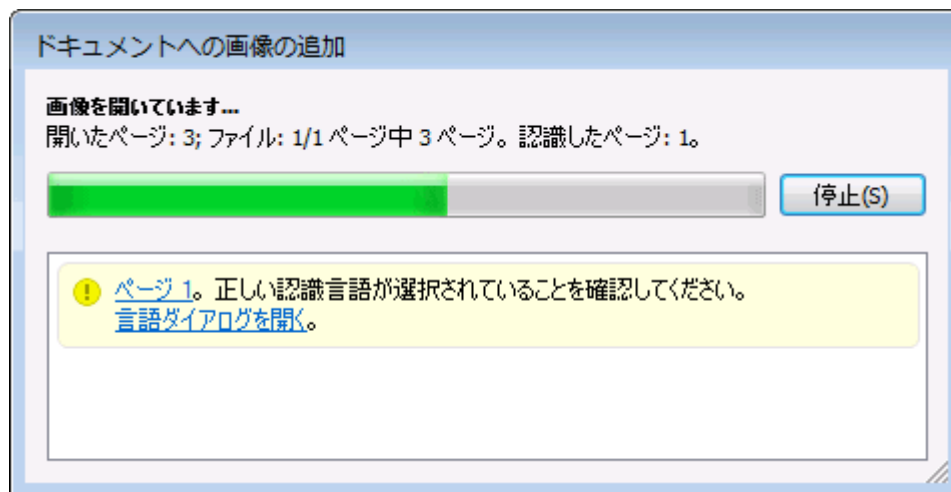
重要事項

ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。カラーのドキュメントを取得するには、カラー画像を含むファイルを開くか、または紙文書をカラー モードでスキャンします。

4. 自動タスクの適切なボタンをクリックします。

タスクを実行するときには、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) で選択したオプションが使用されます。

自動タスクの実行中、画面にはタスク実行インジケータ、自動タスクの手順リスト、ヒント、および警告を含む**タスク実行バー**が表示されます。



注意:

複雑な構造のドキュメントを認識するために、カスタマイズを行って各処理段階を手動で開始することができます。詳細については、「ABBYY FineReader Step-by-Step」を参照してください。

また、必要な手順をすべて選択して、カスタムの自動タスクを作成することもできます。詳細については、「自動タスクの管理」を参照してください。

主なクイック タスク

最も頻繁に使用するクイック タスクにアクセスするには、[新しいタスク] ウィンドウの [共通] タブをクリックします。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウンメニューでドキュメントの言語を選択します。
2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
重要事項 ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. 適切なタスクのボタンをクリックします。
 - **Microsoft Word 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、Microsoft Word ドキュメントに変換します
 - **ファイル (PDF/画像) を Microsoft Word に PDF**
ドキュメントおよび画像ファイルを Microsoft Word ドキュメントに変換します
 - **画像をスキャンして保存する**
ドキュメントをスキャンし、その画像を保存します。スキャンが完了すると、画像を保存するためのダイアログ ボックスが開きます。
 - **PDF 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、Adobe PDF ドキュメントに変換します

- **写真を Microsoft Word に** デジタル写真を Microsoft Word ドキュメントに変換します
 - **スキャン** 紙文書をスキャンします
 - **開く** PDF ドキュメントまたは画像ファイルを開きます
 - **ドキュメントの作成**… 新しい ABBYY FineReader ドキュメントを作成します
4. 処理が完了すると、認識されたテキストの新しいドキュメントが、選択したアプリケーションで開きます。[**画像をスキャンして保存する**] タスクが完了すると、画像保存ダイアログボックスが開きます。

重要事項 重要!

組み込みタスクが起動するときには、その時点で選択されているオプションが使用されます。オプションの調整を行った場合はタスクを再度起動し、新しいオプションを使用してテキストを認識してください。

Microsoft Word タスク

[**新しいタスク**] ウィンドウの [Microsoft Word] タブにあるタスクは、ドキュメントを Microsoft Word ドキュメントに変換する上で役立ちます。

1. ウィンドウの上部にある [**ドキュメントの言語**] ドロップダウンリストでドキュメントの言語を選択します。
2. [**カラー モード**] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
重要事項 ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. ウィンドウの下部で、必要な変換設定を選択します。
 - **ドキュメント形式保存モード**
 - 変換後のドキュメントで画像を保持する必要がある場合は、[**画像を保持する**] を選択します
 - 変換後のドキュメントでヘッダーとフッターを保持する必要がある場合は、[**ヘッダーとフッターを維持する**] を選択します
4. 適切なタスクのボタンをクリックします。
 - **Microsoft Word 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンして変換します
 - **ファイル (PDF/画像) を Microsoft Word に** PDF ドキュメントおよび画像ファイルを変換します
 - **写真を Microsoft Word に** デジタル写真を変換します
5. ドキュメントの処理が完了すると、認識されたテキストを含む新しい Microsoft Word ドキュメントが開きます。
注意: ご使用のコンピュータに Microsoft Word がインストールされていない場合は、[**名前を付けて保存**] ダイアログ ボックスで [ドキュメントを保存した後で開く] オプションをクリアします。

重要事項 クイック

タスクを実行するとき、データはプログラムのその時点におけるオプションに基づいて変換されます。アプリケーションのオプションを変更した場合はタスクを再度実行し、新しいオプションを使用してテキストを認識してください。

Adobe PDF タスク

[新しいタスク] ウィンドウの [Adobe PDF] タブにあるタスクは、さまざまな画像を Adobe PDF 形式に変換する上で役立ちます。

1. ウィンドウの上部にある [**ドキュメントの言語**] ドロップダウン リストでドキュメントの言語を選択します。
2. [**カラー モード**] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
重要事項 ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. ドキュメント保存モードを選択します。
 - **テキストと画像のみ**
このオプションでは、認識したテキストと関連する画像のみが保存されます。ページは完全に検索可能で、PDF ファイルのサイズは小さくなります。作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。
 - **ページ画像の上にテキスト**
このオプションでは、元のドキュメントの背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF には [**テキストと画像のみ**] の PDF より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF ドキュメントは、完全に検索可能です。場合によって、作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。
 - **ページ画像の下にテキスト**
このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置されます。外見が元のドキュメントとほぼ同じで、完全に検索可能なドキュメントを作成するには、このオプションを使用します。
 - **ページ画像のみ**
このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF ドキュメントは、元のドキュメントとほとんど見分けがつかませんが、検索可能なファイルにはなりません。
4. [画像] ドロップダウン リストで、ドキュメント内の画像に必要な品質を選択します。
5. PDF または PDF/A を選択します。
6. 使用するタスクをクリックします。
 - **PDF 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、Adobe PDF に変換します
 - **ファイル (画像) を PDF に** PDF ドキュメントまたは画像ファイルを検索可能な Adobe PDF ドキュメントに変換します
 - **写真を PDF に** デジタル写真を Adobe PDF ドキュメントに変換します
7. 作成された PDF ドキュメントが PDF 表示用アプリケーションで開きます。
注意: ご使用のコンピュータに PDF 表示用アプリケーションがインストールされていない場合は、[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスで [**ドキュメントを保存した後で開く**] オプションをクリアします。

重要事項 クイック

タスクを実行するとき、データはプログラムのその時点におけるオプションに基づいて変換されます。アプリケーションのオプションを変更した場合はタスクを再度実行し、新しいオプションを使用してテキストを認識してください。

ヒント スキャンしたドキュメントを PDF 形式で保存する場合、パスワードを設定して PDF ドキュメントが不正に開かれたり、印刷、編集されたりしないように保護することができます。詳細については、「PDF のセキュリティ設定」を参照してください。

E ブック タスク

[新しいタスク] ウィンドウの [E ブック]

タブにあるタスクを使用して、電子ブックに広く利用されている ePub、FB2、または HTML 形式に画像を変換します。ePub および FB2 の形式は XML に基づいており、それぞれの E ブックを 1 つのファイルに保存します。これらの形式は、多数の E ブック読み取り用アプリケーションや機器と互換性があります。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウンメニューでドキュメントの言語を選択します。
2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
重要事項 ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. E ブックの形式 (ePub、FB2 または HTML) を選択します。
4. 使用するタスクの名前が付いているボタンをクリックします。
 - **ePub/FB2/HTML 形式でスキャン** 紙文書をスキャンし、選択した E ブック形式に変換します
 - **ファイル (PDF/画像) を ePub/FB2/HTML に PDF** ドキュメントおよび画像ファイルを変換します
 - **写真を ePub/FB2/HTML に デジタル写真** を変換します
5. 認識したテキストを含むドキュメントが適切なアプリケーションで開きます。
注意: ご使用のコンピュータに E ブック読み取り用アプリケーションがインストールされていない場合は、[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスで [ドキュメントを保存した後で開く] オプションをクリアします。

重要事項

組み込みタスクが起動するときには、その時点で選択されているオプションが使用されます。オプションの調整を行った場合はタスクを再度起動し、新しいオプションを使用してテキストを認識してください。

その他のクイック タスク

ABBYY FineReader で利用できるその他のクイック タスクにアクセスするには、[新しいタスク] ウィンドウの [その他] タブを使用します。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウンリストでドキュメントの言語を選択します。
2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロを選択します。
重要事項 ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. 適切なタスクのボタンをクリックします。
 - **その他の形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、サポートされている任意の形式に変換します
 - **ファイル (PDF/画像) を他の形式に PDF** ドキュメントまたは画像ファイルを、サポートされている任意の形式に変換します
 - **写真を他の形式に** デジタル写真を、サポートされている任意の形式に変換します
4. 認識されたテキストを含む新しいドキュメントが開きます。

重要事項 クイック

タスクを実行するとき、データはプログラムのその時点におけるオプションに基づいて変換されます。

アプリケーションのオプションを変更した場合はタスクを再度実行し、新しいオプションを使用してテキストを認識してください。

ヒント

目的に合ったタスクがない場合は、独自の自動タスクを作成できます。作成方法の詳細については、「自動タスク」を参照してください。

カスタムの自動タスク

(ABBYY FineReader Corporate Edition のみ)

カスタム自動タスクでは、組み込みのクイックタスクに比べてより多くの処理手順が利用できます。タスクの手順は、ABBYY FineReader でのドキュメント処理段階に対応します。

- 新しい自動タスクの作成方法
- タスクの手順
- 自動タスクの管理

新しい自動タスクの作成方法

[新規タスク] ウィンドウの [マイ タスク]

タブで、特定の目的のための独自のタスクを作成できます。

1. [作成...] ボタンをクリックします。このタブでタスクを作成した後は、ボタンの名前が [タスクの作成/編集/表示...] に変わります。

ヒント [ツール] > [タスク マネージャ...] を起動することも可能です。

2. [タスク マネージャ] ツールバーで [新規] ボタンをクリックし、タスクの名前を入力します。
3. [知覚・分析] の左側のペインで、利用可能な手順をいずれか 1 つ選択します。選択した手順が右側のペインに移動します。
4. それぞれの手順に必要なオプションを選択します。

注意:

ボタンをクリックすると、タスクから手順が削除されます。一部の手順は他の手順に依存するため、個別に削除することはできません。たとえば、[分析] の手順を削除すると、[読み取り] の手順も削除されます。

5. すべての手順を追加し、それぞれのオプションを選択したら、[完了] をクリックします。

タスクの手順

カスタムの自動タスクを作成するには、各手順で利用可能な操作をいずれか 1 つ選択します。

1. FineReader ドキュメント

これは自動タスクで常に最初に行われる手順です。この手順を選択すると、右側のペインに移動します。

次のコマンドのうちいずれか 1 つを選択します。

- **新しいドキュメントを作成する**
タスクの起動時に新しい ABBYY FineReader ドキュメントが作成されます。
ドキュメントの作成、画像の処理、およびテキストの認識に使用するオプションを指定します。

- **タスクの開始時にプログラムで選択されているドキュメント オプションを使用する**
- **カスタムのドキュメント オプションを使用する**
- **既存のドキュメントを選択する**
処理する画像を含む FineReader ドキュメントを指定します。
- **開いているドキュメントを使用する**
開いている FineReader ドキュメントからの画像が処理されます。

2. 画像を取得する

この手順は、前の手順で [**既存のドキュメントを選択する**] または [**開いているドキュメントを使用する**] を選択した場合のオプションです。

- **画像/PDF を開く**
タスクの起動時に取得する画像のあるフォルダを指定します。
- **スキャン**
スキャンの実行時に ABBYY FineReader で選択されているスキャン設定が使用されます。

注意:

- a. **すでに画像を含んでいるドキュメントに画像が追加された場合、新たに追加された画像のみが処理されます。新しいドキュメントが追加された場合は、そのドキュメント内のすべての画像が処理されます。**
- b. **処理する ABBYY FineReader**
ドキュメントに、すでに認識されたページとすでに分析されたページが含まれている場合、認識済みのページが新たに処理されることはなく、分析済みのページが認識されます。

3. 分析

この手順では、画像を分析してテキスト領域、画像領域、表領域、またはバーコード領域を識別します。[**読み取り**] の手順を選択した場合は、[分析] の手順が自動的に追加されます。

- **レイアウトを自動的に分析した後で、領域を手動で調整する**
ABBYY FineReader により画像を分析し、画像にある適切な領域を識別します。
- **領域を手動で描画する**
ABBYY FineReader による案内に従って適切な領域を手動で描画します。
- **領域テンプレートを使用する**
ABBYY FineReader が画像の分析に使用する領域テンプレートを指定します。領域テンプレートの詳細については、「領域テンプレートの使用」を参照してください。

4. 読み取り

画像の認識に使用されるオプションは、[FineReader ドキュメント] の手順で選択したオプションによって異なります。

5. 保存/送信

この手順では、認識結果を保存する形式を選択できます。また、ABBYY FineReader で設定を行って、特定のアプリケーションに結果を送ったり、取得した画像やテキストを電子メールで送信したり、ABBYY FineReader ドキュメントのコピーを作成したりすることも可能です。自動タスクには、複数の保存手順が設定

できます。
使用する保存オプションを指定します。

- **タスクの開始時にプログラムで選択されている保存オプションを使用する**
- **カスタムの保存オプションを使用する**
- **ドキュメントを保存する**
ファイルの名前と形式、ファイルを保存するフォルダを指定できます。

注意:

タスクが起動されるたびに新しいフォルダを指定する手間を省くには、[タイムスタンプ付きのサブフォルダを作成する]を選択します。

- **ドキュメントを送信する**
作成されるドキュメントを開くアプリケーションを選択できます。
- **ドキュメントを電子メールで送信する**
ファイルの名前、形式、送信先の電子メール アドレスを指定できます。
- **画像を保存する**
ファイルの名前と形式、画像ファイルを保存するフォルダを指定できます。

注意: すべての画像を 1 つのファイルに保存するには、[複数ページからなる 1 つの画像ファイルとして保存する]を選択します (TIFF と PDF の場合のみ)。

- **画像を電子メールで送信する**
ファイルの名前と形式、画像ファイルの送信先の電子メール アドレスを指定できます。
- **FineReader ドキュメントを保存する**
ABBYY FineReader ドキュメントを保存するフォルダを指定できます。

自動タスクの管理

ABBYY FineReader

の自動タスクは、連続した一連の手順です。それぞれの手順は、ドキュメント認識段階のいずれかに対応します。タスクを使用して、類似した操作を自動化することができます。

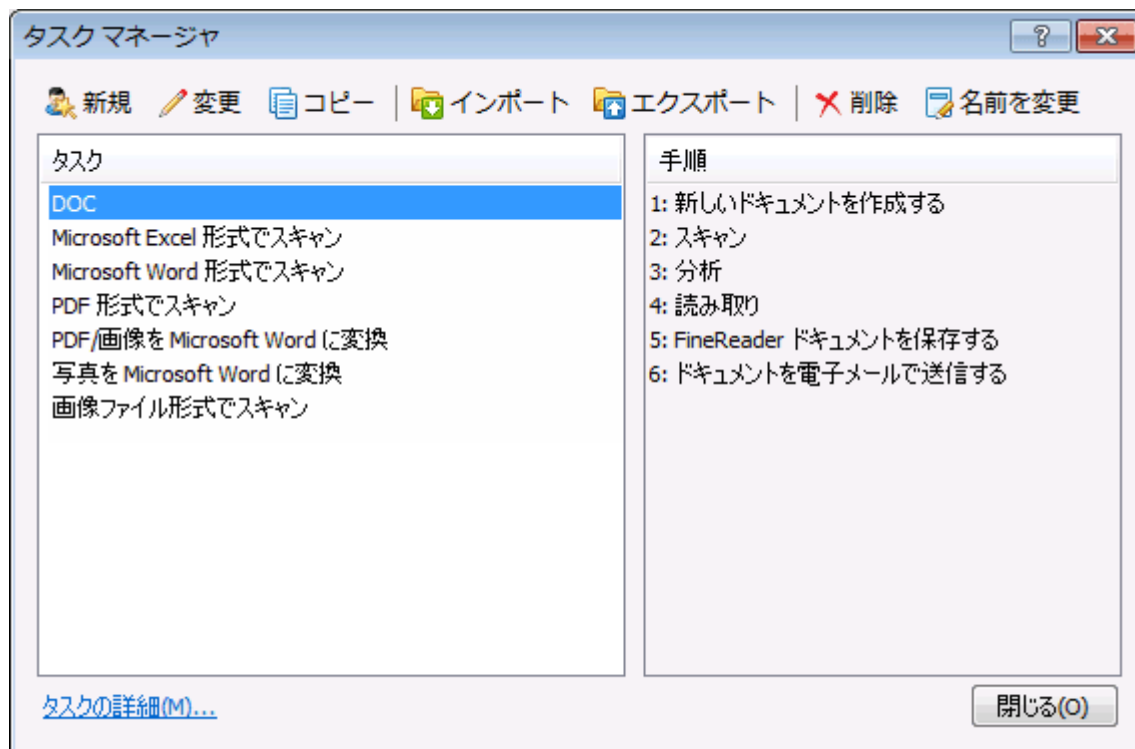
自動タスクの管理には、カスタム自動タスクの作成、編集、開始、および削除が含まれます。タスクは、[タスク マネージャ] ダイアログ ボックスを経由して管理します。

[タスク マネージャ] ダイアログ ボックスを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- [新規タスク] ウィンドウで [マイ タスク] タブをクリックし、[タスクの作成/編集/表示…]
- [ツール] メニューで [タスク マネージャ…] を選択する
- Ctrl+T を押す

[タスク マネージャ]

の上部にあるツールバーには、タスクの作成、修正、コピー、削除、インポート、およびエクスポートのためのボタンがあります。



ドキュメントの処理を開始するには、[新規タスク] ウィンドウの [マイ タスク] タブでタスクを実行します。

ABBYY FineReader Step - by - Step

ABBYY FineReader

でのドキュメント処理には、画像の取得、画像の認識、認識結果の確認、結果の保存の 4 つの段階があります。このセクションでは、これらの手順について詳しく説明します。

- 画像の取得
- 認識
- 確認と編集
- 結果の保存
- 結果の電子メール送信
- Kindle への OCR 結果の送信

画像の取得

OCR

プロセスを開始するには、ドキュメントの画像を取得する必要があります。画像を作成する方法は、次のような複数の方法があります。

- 紙文書のスキャン
- 既存の画像ファイルまたは PDF ドキュメントを開く
- テキストの写真撮影

紙文書のスキャン

1. スキャナが正しく接続されており、電源が入っていることを確認します。

スキャナのマニュアルを参照して、スキャナが正しくセットアップされていることを確認してください。必ずスキャナ付属のソフトウェアをインストールしてください。スキャナの機種によっては、コンピュータの電源を入れる前にスキャナの電源を入れなければならない場合があります。

2. スキャンするページをスキャナにセットします。スキャナが自動ドキュメントフィーダを備えている場合は、複数ページのドキュメントを処理する必要がある場合に、複数のページをスキャナに給紙できます。
3. **「スキャン」** をクリックするか、または **「ファイル」** メニューで **「ページのスキャン…」** を選択します。

スキャン ダイアログ

ボックスが開きます。適切な設定を選択し、スキャンを開始します。スキャンされたページが ABBYY FineReader の **「ページ」** ウィンドウに追加されます。

ヒント 印刷された一般的な事務書類は、300 dpi

のグレースケールでスキャンすると最適の結果が得られます。

OCR 結果の品質は、元のドキュメントの品質と、選択したスキャン

オプションによって決まります。画像の品質が低いと、認識結果に影響を及ぼすことがあります。認識の正確さを最大限に高めるには、ドキュメントの特性を考慮に入れて、適切なスキャンオプションを選択することが大切です。

画像ファイルまたは PDF ドキュメントを開く

PDF ドキュメントおよび画像ファイルを開くことができます
(詳細については「サポートされている画像形式」を参照)。

画像または PDF ファイルを開く方法

- ABBYY FineReader で、**「開く」** をクリックするか、または **「ファイル」** メニューで **「PDF ファイル/画像を開く…」** を選択します。


ダイアログ ボックスで、**「画像を開く」** を選択します。

1. 1 つまたは複数の画像を選択します。
2. 複数ページ ドキュメントの場合、ページ範囲を指定します。
3. 画像を開く際にページ レイアウトを自動的に検出するには、**「ページの向きを検出する」** オプションを有効にします。
4. 画像を開く際に、見開きページを個別の画像に自動的に分割するには、**「見開きページを分割する」** オプションを有効にします。
5. 画像を開いたときに画像の自動前処理を実行するには、**「画像の予備処理を有効にする」** オプションを有効にします。

注意 ページ画像が初めて開かれるか、またはスキャンされると、新しい FineReader

ドキュメントに追加され、**「ページ」**

ウィンドウに表示されます。その後で開かれるか、またはスキャンされたページは、開いている FineReader ドキュメントに追加されます。

- **Windows エクスプローラ** で、適切な画像ファイルを右クリックし、ショートカット メニューから **「ABBYY FineReader で開く」** を選択します。
- **Microsoft Outlook** で、開く画像または PDF の添付書類のある電子メールメッセージを選択し、ツールバーで  をクリックします。表示されたダイアログボックスで、開くファイルを選択します。

- **Microsoft Outlook** または **Windows エクスプローラ**で、必要な画像ファイルを ABBYY FineReader のメイン ウィンドウにドラッグします。画像が現在の ABBYY FineReader ドキュメントに追加されます。

注: PDF

ファイルの作成者は、ファイルへのアクセス権限を制限できます。たとえば、作成者はパスワードを指定したり、テキストおよびグラフィックを展開する機能など、特定の機能を制限することができます。著作権ガイドラインを遵守するため、ABBYY FineReader では、このようなファイルを開く際にはパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

カメラを用いたテキストの写真撮影

ABBYY FineReader では、デジタル カメラで作成された画像で OCR を実行することができます。

1. テキストの写真を撮影します。

注意 質の高い OCR 結果は、質の高い画像を用いることによってのみ得られます。

2. 写真をハードディスクに保存します。

3. **「開く」** ボタンをクリックするか、または **「ファイル」** メニューで **「PDF ファイル/画像を開く…」** を選択します。

認識

ABBYY FineReader

では、光学式文字認識テクノロジーを使用して、ドキュメント画像を編集可能なファイルに変換します。OCR

を実行する前に、ドキュメント全体の構造の分析と、テキスト、バーコード、画像、および表を含む領域の検出が行われます。

既定により、ABBYY FineReader ドキュメントは自動的に分析されます。自動認識にはその時点におけるプログラム設定が使用されます。

ヒント 新たに追加した画像の自動分析および自動 OCR は、**「オプション」** ダイアログ ボックス (**「ツール」** > **「オプション…」**) の **「スキャン/開く」** タブで無効にすることができます。

最も高い OCR

品質を得るには、認識言語、認識モード、および認識されるテキストの印刷タイプについて適切なオプションを選択します。

場合によっては、OCR

プロセスを手動で開始することができます。たとえば、自動認識を無効にし、画像上の領域を手動で選択するか、または **「オプション」** ダイアログ ボックス (**「ツール」** > **「オプション…」**) で次の設定を変更した場合です。

- **「ドキュメント」** タブの認識言語
- **「ドキュメント」** タブのドキュメントの印刷タイプ
- **「ドキュメント」** タブのカラー モード
- **「読み取り」** タブの認識設定
- **「読み取り」** タブで使用するフォント

OCR プロセスを手動で起動するには

- メイン ツールバーの **「読み取り」** ボタンをクリックするか、または
- **「ドキュメント」** メニューで **「読み取り」** を選択します

ヒント 選択した領域またはページを認識するには、[ページ] および [領域] メニューで適切なオプションを使用するか、またはショートカット メニューを使用します。

確認と編集

認識結果は [テキスト]

ウィンドウに表示されます。不明瞭な文字は、このウィンドウにカラーで強調表示されます。これにより、エラーの可能性のある箇所を簡単に見つけて、素早く修正できます。

出力ドキュメントは、[テキスト] ウィンドウで直接編集するか、または組み込みの [検証] ダイアログ ボックス ([ツール] > [検証…]) を用いて編集できます。このダイアログ ボックスでは、不明瞭な単語の参照、スペル エラーの検索、辞書への新しい単語の追加、辞書言語の変更が可能です。

ABBYY FineReader では、認識したテキストの書式を調整することもできます。

認識したテキストは、[テキスト] ウィンドウでメイン ツールバーおよび [テキストのプロパティ] パネルのツールを使用して編集できます。このパネルは、[テキスト] ウィンドウの内部を右クリックし、ショートカット メニューで [プロパティ] を選択してアクセスできます。

注: ABBYY FineReader で OCR

を実行する際には、ドキュメントのスタイルが自動的に検出されます。選択されたスタイルはすべて [テキストのプロパティ]

パネルに表示されます。スタイルを編集することにより、テキスト全体の書式を簡単に変更できます。

ABBYY FineReader では、テキストを RTF/DOC/DOCX/ODT

形式で保存する際にすべてのスタイルが保持されます。

結果の保存

認識結果は、ファイルへの保存、他のアプリケーションへの送信、クリップボードへのコピー、電子メールでの送信が行えます。また、OCR 結果を Kindle.com に送信することもできます。Kindle.com に結果を送信すると、Kindle 形式に変換されて、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。ドキュメント全体、または選択したページのみを保存することができます。

重要事項 [保存] をクリックする前に、必ず適切な保存オプションを選択してください。

認識したテキストを保存するには

1. メイン ツールバーのドロップダウン メニューで、形式保存モードを選択します。

ドキュメント形式保存モード

- a. **正確なコピー**

元のドキュメントの書式に対応する書式を持つドキュメントを取得することができます。このモードは、販売促進用パンフレットなどの複雑な書式を持つドキュメントに推奨されます。ただし、このオプションでは出力ドキュメントのテキストと書式を変更する機能が制限されることにご注意ください。

- b. **編集可能なコピー**

元のドキュメントの書式とわずかに異なる書式のドキュメントが作成されます。このモードで作成したドキュメントは、簡単に編集できます。

- c. **書式付きテキスト**

フォント、フォント

サイズ、および段落は保持されますが、正確なピッチやページ上のオブジェクトの位置は保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります。右から左方向に読むテキストは、右側の余白に揃えられます。

注: このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

d. **プレーン テキスト**

このモードでは、テキストの書式は保持されません。

e. **柔軟なレイアウト**

オブジェクトの位置が、元のドキュメントでの位置に技術的に最も近くなるようにした HTML ドキュメントが作成されます。

重要事項 選択した保存形式により、利用可能なオプションのリストは異なることがあります。

2. [保存] ダイアログ ボックスの [保存] タブで、必要な保存オプションを選択し、[OK] をクリックします。
3. メイン ツールバーの [保存] ボタンの右側にある矢印をクリックして適切なオプションを選択するか、または [ファイル] メニューのコマンドを使用します。

注: ABBYY FineReader

では、ページ画像を保存することができます。詳細については、「ページの画像の保存」を参照してください。

結果の電子メール送信

ABBYY FineReader を利用すると、サポートされているいずれかの形式 (HTML を除く) で認識結果をメール送信できます。

ドキュメントを送信するには

1. [ファイル] メニューで [電子メール] > [ドキュメント] を選択します。
2. ダイアログ ボックスで、次の選択を行います。
 - ドキュメントを保存する形式
 - 次の保存オプションのうち 1 つ: すべてのページを 1 つのファイルに保存する、各ページを個別のファイルに保存する、または空白ページに基づいてドキュメントをファイルに分割する
3. [OK] をクリックします。添付ファイルのある電子メールメッセージが作成されます。受信者を指定して、メッセージを送信します。

また、ドキュメント ページの画像を電子メールで送信することもできます。

ページ画像を送信するには

1. [ファイル] メニューで、[電子メール] > [ページ画像] を選択します。
2. ダイアログ ボックスで
 - ドキュメントを保存する形式を選択します。
 - 複数ページのファイルとして画像を送信する必要がある場合は、[複数ページの画像ファイルとして送信する] を選択します。
3. [OK] をクリックします。添付ファイルのある電子メールメッセージが作成されます。受信者を指定して、メッセージを送信します。

Kindle への OCR 結果の送信

ABBYY FineReader では、認識結果を Kindle.com のサーバーに電子メールで送信できます。Kindle.com に結果を送信すると、Kindle 形式に変換されて、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。

重要事項 この機能を使用するには、Kindle.com の Kindle アカウントが必要です。

1. メイン ツールバーの **[保存]** ボタンの横にある矢印をクリックし、**[Kindle に送る…]** を選択します。
2. 次の項目を指定します。
 - ご使用の **アカウント**
 - 次の保存オプションのうちいずれか 1 つ: すべてのページを 1 つのファイルに保存する、各ページを個別のファイルに保存する、または空白ページに基づいてドキュメントをファイルに分割する
3. **[OK]** をクリックします。
添付書類付きの電子メール メッセージが作成されます。この電子メール メッセージを Kindle.com に送信すると、まもなく変換済みのファイルが作成されて、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。

ABBYY FineReader ドキュメント

ABBYY FineReader ドキュメントには、ソースドキュメント画像と認識されたテキストの両方が含まれています。ほとんどのプログラム設定（ユーザーが選択したスキャンと OCR のオプション、パターン、言語、および言語グループ）は、ABBYY FineReader ドキュメント全体に適用されます。

- 全般
[ページ] ウィンドウにページ画像がどのように表示されるか、およびメインウィンドウの外観をカスタマイズする方法について説明します。
- ABBYY FineReader ドキュメントでの作業
ABBYY FineReader ドキュメントを開く、削除する、および閉じる方法、ドキュメントに画像を追加する方法、ドキュメントまたはドキュメント オプションを保存する方法に関する情報を提供します。
- ABBYY FineReader ドキュメントの分割
- ABBYY FineReader ドキュメントのページ番号付け

全般

ABBYY FineReader を起動すると、既定により新しい ABBYY FineReader ドキュメントが開きます。それを使用するか、または既存の ABBYY FineReader ドキュメントを開くことができます。

ドキュメントのページは、すべて [ページ] ウィンドウに表示されます。[ページ] ウィンドウにあるページ サムネールは、選択した表示モードに従って表示されます。

サムネールの表示モードを変更するには

- **[表示] > [ページ] ウィンドウ**を開きます。次に、**[サムネール]** または **[詳細]** を選択します。
- **[ページ] ウィンドウ**のショートカット メニューで、**[ページ ウィンドウ ビュー]** を選択します。次に、**[サムネール]** または **[詳細]** のいずれかを選択します。


- [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [表示] タブで、[ページ ウィンドウ] グループから [サムネール] または [詳細] のいずれかを選択します。

ページ ドキュメントを表示するには、[ページ] ウィンドウでそのサムネールをクリックするか ([サムネール] モード)、またはその番号をダブルクリックします ([詳細] モード)。[画像] ウィンドウにページ画像が表示され、[テキスト] ウィンドウには認識結果が表示されます (ドキュメントが認識された場合)。

注: ABBYY FineReader の以前のバージョンで作成された FineReader ドキュメントを開いた場合、プログラムにより新しい形式への変換が試行されます。この変換は元に戻すことができないため、変換されたドキュメントを新しい名前で保存するように求めるメッセージが表示されます。認識済みのテキストは、この処理中にすべて失われます。

ABBYY FineReader ドキュメントでの作業

ABBYY FineReader ドキュメントでは、次の作業が行えます。

- **新しいドキュメントを作成する**
 - [ファイル] メニューで [新しい FineReader ドキュメント] をクリックするか、または
 - メイン ツールバーで  をクリックします。
- **現在のドキュメントからページを削除する**
 - [ページ] ウィンドウで、削除するページを選択し、[ページ] メニューで [ドキュメントからページを削除] を選択します。または、
 - [ページ] ウィンドウで、削除するページを右クリックし、ショートカット メニューで [ドキュメントからページを削除] を選択します。または、
 - [ページ] ウィンドウで、削除するページを選択し、[削除] キーを押します。

複数のページを選択するには、Ctrl キーを押しながら、任意のページをそれぞれ順番にクリックします。


- **ドキュメントを開く**

ABBYY FineReader の起動時には、新しいドキュメントが自動的に作成されます。

注意: 前回の作業で最後に使用したドキュメントを自動的に開くには、[ツール] > [オプション…] を選択し、[詳細設定] タブをクリックして、[前回使用した FineReader ドキュメントをプログラムの起動時に開く] を選択します。

ドキュメントを開くには

1. [ファイル] メニューで [FineReader ドキュメントを開く…] をクリックします
2. [ドキュメントを開く] ダイアログ ボックスで、必要なドキュメントを選択します。

注意: ABBYY FineReader ドキュメントを Windows エクスプローラから直接開くこともできます。その場合は、任意のドキュメント フォルダ (ドキュメント フォルダは  として表示されます) を右クリックし、ショートカット メニューから [ABBYY FineReader で開く] を選択します。

- **現在のドキュメントに画像を追加する**
 - [ファイル] メニューで [PDF ファイル/画像を開く…] をクリックします

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

- **「画像を開く」** ダイアログ ボックスで、必要な画像を選択して **「開く」** をクリックします。現在のドキュメントの最後に画像が追加され、ドキュメントが保存されているフォルダにドキュメントのコピーが保存されます。

注意: Windows エクスプローラから直接画像を追加することもできます。

- Windows
エクスプローラで、必要な画像ファイルを選択して右クリックし、ショートカットメニューから **「ABBYY FineReader で開く」** を選択します。

ABBYY FineReader

が実行中であれば、選択したファイルが現在のドキュメントに追加されます。ABBYY FineReader が実行中でなければ、ABBYY FineReader が起動して、選択したファイルが新規ドキュメントに追加されます。

- **現在のドキュメントを保存する**

0. **「ファイル」** メニューで **「FineReader ドキュメントを保存…」** をクリックします
1. **「ドキュメントの保存」** ダイアログ
ボックスで、ドキュメントの名前を入力して保存場所を指定します。

注意: ABBYY FineReader

ドキュメントを保存すると、ページ画像、認識済みのテキスト、調整済みのパターン、およびユーザー言語（ある場合）が保存されます。

- **現在のドキュメントを閉じる**

- 現在のドキュメントのページを閉じるには、そのページを選択し、**「ドキュメント」** メニューから **「現在のページを閉じる」** を選択します。
- ドキュメント全体を閉じるには、**「ファイル」** メニューから **「FineReader ドキュメントを閉じる」** を選択します。

- **ユーザー パターンとユーザー言語を保存する**

ユーザー パターンとユーザー言語を 1 つのファイルに保存するには

0. **「ツール」** > **「オプション…」** を選択し、**「読み取り」** タブをクリックします。
1. **「ユーザー パターンとユーザー言語」** の項目で、**「ファイルに保存…」** ボタンをクリックします。
2. **「保存オプション」** ダイアログ
ボックスで、ファイルの名前を入力して保存場所を指定します。

このファイルには、ユーザー言語、ユーザー言語グループ、ユーザー辞書、およびユーザーパターンが保存されているフォルダへのパスが含まれます。

- **ユーザー パターンとユーザー言語を読み込む**

0. **「ツール」** > **「オプション…」** を選択し、**「読み取り」** タブをクリックします。
1. **「ユーザー パターンとユーザー言語」** の項目で、**「ファイルから読み込む…」** ボタンをクリックします。
2. **「読み込みオプション」** ダイアログ ボックスで、必要なユーザー
パターンとユーザー言語を含むファイルを選択し、**「開く」** をクリックします。

ABBYY FineReader ドキュメントの分割

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

複数ページのドキュメントを多数処理する場合、まずドキュメントをすべてスキャンしてから、分析と認識を行う方が実用的であることが少なくありません。しかし、それぞれの紙文書の元の書式を保持するためには、各文書を個別の FineReader ドキュメントとして処理する必要があります。ABBYY FineReader

は、スキャンしたページを、それぞれのページが属する個別のドキュメントにグループ分けするツールを備えています。

ABBYY FineReader ドキュメントを複数のドキュメントに分割するには

1. [ファイル] メニューで [複数のドキュメントに分割...] をクリックするか、または [ページ] ウィンドウでページを選択し、選択範囲を右クリックして [選択したページを使用して新規ドキュメントを作成...] を選択します。
2. [ドキュメントの分割] ダイアログ ボックスで、[ドキュメントを追加] をクリックして、必要な数の FineReader ドキュメントを作成します。
3. 次の 3 つの方法のいずれかを使用して、[ページ] ウィンドウから [新しいドキュメント] ウィンドウ内の適切なドキュメントにページを移動します。
 - ページを選択し、マウスでドラッグします。
注意:
ドラッグ&ドロップを使用して、ドキュメント間でページを移動することもできます。
 - [移動] ボタンをクリックして、選択したページを [新しいドキュメント] ウィンドウにある現在のドキュメントに移動します。選択したページを現在のドキュメントから削除するには、[戻す] ボタンをクリックします。
 - **Ctrl+**
右矢印を押して、現在のドキュメントにページを移動します。選択したページを現在のドキュメントから削除するには、**Ctrl+** **左矢印**または [削除] を押します。
4. 新しい FineReader ドキュメントへのページの移動が完了したら、[すべて作成] ボタンをクリックしてすべてのドキュメントを一度に作成するか、または各ドキュメントで個別に [作成] ボタンをクリックします。

注意: [ページ] ウィンドウから他の任意の ABBYY FineReader ウィンドウに、選択したページをドラッグ&ドロップすることもできます。これらのページの新しい ABBYY FineReader ドキュメントが作成されます。

ABBYY FineReader ドキュメントのページ番号付け

ドキュメントのページにはすべて番号が付けられます。ページ番号は、[ページ] ウィンドウにあるページ サムネールの横に表示されます。

ページ番号を付け直すには

1. [ページ] ウィンドウで、1 つのページまたは複数のページを選択します。
2. [ページ] ウィンドウのショートカット メニューで、[ページ番号の付け直し...] をクリックします。
3. 表示されたダイアログ ボックスで、次のいずれかを選択します。
 - **ページ番号を付け直す (元に戻すことはできません)**
選択したページ以降、すべてのページ番号が連続して変更されます。
 - **二重スキャンの後で元のページ番号を復元する**
このオプションでは、自動フィード付きのスキャナを使用して最初に奇数番号のページをすべてスキャンし、次に偶数番号のページをスキャンした場合に、両面ページのドキュメ

ントの元のページ番号付けを復元します。偶数番号のページについては正順と逆順のいずれかを選択できます。

重要事項 このオプションは、連続したページ番号のページが少なくとも 3 ページ以上ある場合のみ機能します。

- **ブックのページを差し替える**

このオプションは、左から右方向に書く文字で書かれた本をスキャンして見開きページを分割したものの、言語を正しく指定しなかった場合に役立ちます。

重要事項 このオプションは、少なくとも 2 ページの見開きページを含む、連続したページ番号のページが少なくとも 2 ページ以上ある場合のみ機能します。

注意: この操作を取り消すには、[直前の処理を元に戻す] を選択します。

4. [OK] をクリックします。

新しい番号付けに従って、[ページ] ウィンドウのページの順序が変わります。

注意:

1. 特定のページの番号を変更するには、[ページ] ウィンドウでその番号をクリックし、フィールドに新しい番号を入力します。
2. [サムネール] モードでは、選択したページをドキュメント中の任意の場所にドラッグするだけで、ページの番号付けを変更できます。

紙文書の特徴の検討

OCR

の品質は、ソース画像の品質に大きく左右されます。必要なスキャン結果が得られるかどうかを確かめるには、次の要素を検討してください。

- **印刷タイプ**
印刷物を作成するためには、タイプライターや FAX など、さまざまな機器が用いられます。これらのドキュメントの認識品質は、それぞれ異なる可能性があります。このセクションでは、適切な印刷タイプを選択するための推奨事項について説明します。
- **印刷品質**
OCR
の品質は、低品質のドキュメントに時折発生する「ノイズ」によって大幅に損なわれることがあります。このセクションでは、これらのドキュメントをスキャンする際の推奨事項について説明します。
- **カラー モード**
ドキュメントはカラーまたはモノクロです。OCR のカラー モードを選択する方法についての詳細。
- **ドキュメントの言語**
ドキュメントのテキストは、複数の言語で書かれていることがあります。このセクションでは、認識言語を選択する際の推奨事項について説明します。


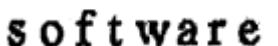
印刷タイプ

タイプライターで作成されたテキストまたは FAX を認識する場合、[オプション] ダイアログボックスで対応する**印刷タイプ**を選択することにより、OCR の品質を高めることができます。

ABBYY FineReader 11 ユーザーズガイド

ほとんどのドキュメントの場合、印刷タイプはプログラムによって自動的に検出されます。印刷タイプの自動検出を行うには、[オプション] ダイアログ ボックスの [ドキュメントの印刷タイプ] の項目で [自動] オプションを選択する必要があります ([ツール] > [オプション...] > メニュー、そして [ドキュメント] タブ)。ドキュメントは、フルカラーまたはモノクロ モードで処理できます。

また、必要に応じて手動で印刷タイプを選択することもできます。

	<p>タイプライターで書かれたテキストの例です。文字の幅がすべて等しくなっています (たとえば、「w」と「t」を比較してください)。このタイプのテキストの場合、[タイプライター (モノクロ モードのみ)] を選択します。</p>
	<p>FAX 機で作成されたテキストの例です。この例に見られるように、ノイズと歪みに加えて、場所によっては文字が不鮮明です。このタイプのテキストの場合、[FAX (モノクロ モードのみ)] を選択します。</p>

ヒント タイプライターで作成されたテキストまたは FAX
を認識した後、通常の印刷物进行处理する前に、必ず [自動] を選択してください。

印刷品質

「ノイズ」

(すなわち、不均一な黒い点や斑点)、ぼやけてむらのある文字、傾いた行や表の罫線のある低品質のドキュメントは、特定のスキャン設定が必要な場合があります。



低品質のドキュメントは、グレースケールでスキャンするのが最善です。グレースケールでスキャンする場合、プログラムにより最適な明るさの値が自動的に選択されます。

グレースケールの スキャン

モードでは、品質が中レベルから低レベルのドキュメントを認識する場合の OCR



結果を高めるために、スキャンするテキストの文字についてより多くの情報を保持します。また、画像エディタで利用可能な画像編集ツールを使用して、一部の欠陥を手動で修正することもできます。

カラー モード

フルカラーのドキュメントの元の色を保持する必要がある場合は、ドキュメントをモノクロモードで処理できます。これにより、処理によって作成される ABBYY FineReader ドキュメントのサイズが大幅に小さくなり、OCR 処理も高速になります。ただし、コントラストの低い画像をモノクロで処理すると、OCR 品質が低くなることがあります。また、写真、雑誌のページ、および中国語、日本語、韓国語のテキストの場合は、モノクロ処理をお勧めしません。

注意: [オプション] ダイアログ ボックスの [読み取り] タブにある [高速読み取り] オプションを選択して、カラーおよびモノクロのドキュメントの認識を高速化することもできます。認識モードについての詳細は、「OCR オプション」を参照してください。

カラー モードを選択するには

- [新しいタスク] ウィンドウの [カラー モード] ドロップダウン リストを使用するか、または
- [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [ドキュメント] タブにある [カラー モード] のオプションを使用するか、または
- [ページ] ウィンドウで  **フルカラー** または  **モノクロ** をクリックします。

重要事項

ドキュメントをモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。カラーのドキュメントを取得するには、カラー画像を含むファイルを開くか、または紙文書をカラー モードでスキャンします。

ドキュメントの言語

ABBYY FineReader では、単一言語と多言語 (2 カ国語で書かれている場合など) の両方のドキュメントを認識できます。多言語のドキュメントの場合は、複数の認識言語を選択する必要があります。

ドキュメントの OCR 言語を指定するには、メイン ツールバーの [ドキュメントの言語] ドロップダウン リスト (または、クイック タスクを使用している場合は [新しいタスク] ウィンドウ) で、次のうち 1 つを選択します。

- **自動選択**
ユーザー定義の言語リストから適切な言語が自動的に選択されます。このリストに変更を加えるには
 1. その他の言語…] を選択します。
 2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[次の一覧からドキュメントの言語を自動選択します] オプションを選択します。
 3. [指定…] ボタンをクリックします。
 4. [言語] ダイアログ ボックスで、必要な言語を選択します。
- **1 つの言語または言語の組み合わせ**
1 つの言語または言語の組み合わせを選択します。言語のリストには、英語、ドイツ語、フランス語のほか、コンピュータで最も頻繁に使用される言語が含まれています。
- **その他の言語…**
必要な言語がリストに見当たらない場合は、このオプションを選択します。

[言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[言語を手動で指定する]

オプションを選択し、必要な言語のボックスにチェックを付けて、その言語を選択します。特定の言語の組み合わせを頻繁に使用する場合は、その言語の新しいグループを作成できます。

言語がリストに挙げられていない場合には、次のような理由があります。

1. その言語は、ABBYY FineReader ではサポートされていません。
2. ご使用のソフトウェア製品はこの言語をサポートしていません。

画像取得のヒント

OCR 品質は、元の画像の品質と、スキャン

プロセスで使用する設定によって変わります。このセクションでは、ドキュメントのスキャンおよび写真撮影を行う場合の推奨事項について説明します。スキャンした画像およびデジタル写真によく発生する欠陥の修正について、いくつかのアドバイスも行います。

- スキャンおよび画像を開く設定のカスタマイズ
- スキャン インターフェイスの選択
- スキャンの推奨事項
- ドキュメントの写真撮影
- 画像の自動前処理
- 画像の手動編集

スキャンおよび画像を開く設定のカスタマイズ

ABBYY FineReader

では、グローバル処理オプションと、個別のページをスキャンして開くためのオプションを両方選択できます。たとえば、スキャン インターフェイスを選択して、自動ドキュメント分析、OCR、および画像の前処理を有効/無効にすることができます。

必要なオプションは、画像を開くダイアログ ボックスまたはスキャン ダイアログ

ボックスから直接選択するか（ドキュメントのスキャンに ABBYY FineReader

インターフェイスを使用している場合）、または [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [スキャン/開く] タブで選択できます。

重要事項 [オプション] ダイアログ

ボックスで設定を変更した後で、画像を再スキャンするか、または再度開く必要があります。

[スキャン/開く] タブでは、次の設定を行うことができます。

- 取得した画像の自動分析および認識の起動

ABBYY FineReader

は、既定によりドキュメントの分析と認識を自動的に行うように設定されています。これらの設定は、必要に応じて変更できます。次のオプションが使用できます。

- **取得したページ画像を自動的に読み取る**
ドキュメントの分析と認識が自動的に実行されます。
- **取得したページ画像を自動的に分析する**
ドキュメントの分析は自動的に行われますが、認識にはユーザー操作が必要となります。
- **取得したページ画像の読み取りと分析を自動的に行わない**
スキャンされた画像または開かれた画像は、FineReader

ドキュメントに追加されます。ユーザーがドキュメントの分析と認識を手動で開始する必要があります。このモードは、構造が複雑なドキュメントの処理に使用します。

- 画像処理の方法
 - **画像の前処理を有効にする**
書籍またはテキスト ドキュメントのデジタル写真の OCR
行う必要がある場合は、画像の前処理を有効にします。この機能を有効にすると、入力画像の種類によって実行する処理が自動的に決定され、修正が適用されます。デジタル写真のノイズ除去、傾きの修正、モーション
ブラーの削除、テキスト行の直線化、台形歪みの修正などの調整処理が行われます。
 - **ページの向きを検出する**
FineReader
ドキュメントに追加されたページの向きを自動的に検出するには、この機能を有効にします。
 - **見開きページを分割する**
見開きページをスキャンする場合、または開く場合は、この機能を有効にします。FineReader ドキュメントに追加する前に、ページが自動的に分割されます。

注：画像の前処理機能は、FineReader で開いた画像を処理するために、[画像の編集] ダイアログ ボックスでのみ使用できます。スキャン中、またはドキュメント ページを開く際には使用できません。詳細については、「画像の編集」を参照してください。

- スキャンの際に使用するスキャナ インターフェイス

スキャン インターフェイスの選択

既定では、スキャン オプションの調整には ABBYY FineReader のスキャン ダイアログ ボックスが使用されます。何らかの理由により ABBYY FineReader のスキャン ダイアログ ボックスに、ご使用のスキャナの機種との互換性がない場合は、スキャナのダイアログ ボックスが使用されます。

1. ABBYY FineReader のスキャン ダイアログ ボックス

この場合、**ABBYY FineReader** インターフェイスを使用してスキャン モードのセットアップを行います。次の設定が使用できます。

- 解像度、明るさ、およびスキャン モード
- 画像の前処理オプション
 - a. **ページの向きを検出する**
スキャン中にページの向きを自動的に検出するには、この機能を有効にします。
 - b. **見開きページを分割する** 見開きページを個別の画像に自動的に分割するには、この機能を有効にします。
 - c. **画像の予備処理を有効にする** スキャンした画像の自動処理を実行するには、この機能を有効にします。
- 複数ページ ドキュメントのスキャン オプション
 - a. 自動ドキュメント フィーダ (ADF) を使用する
 - b. 自動二重スキャンを適用する (スキャナがサポートしている場合)
 - c. ページ スキャンの遅延時間を秒単位で設定する

注意: スキャナの機種によっては、[ABBYY FineReader インターフェイスを使用する] オプションは利用できない場合があります。

2. スキャナに付属の TWAIN または WIA インターフェイス

この場合、スキャン オプションは スキャナのドライバのダイアログボックスで選択します。ダイアログボックスおよびそのコンポーネントの詳細については、スキャナに付属の技術資料をご覧ください。

重要事項

スキャナを適切に設定したことを確認するには、スキャナの使用説明書をご覧ください。スキャナ付属のソフトウェアを必ずインストールしてください。

既定では、ABBYY FineReader スキャン インターフェイスが使用されます。

スキャン インターフェイスを変更するには

1. [スキャン/開く] タブから [オプション] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > [オプション...])。
2. [スキャナ] グループの切り替えスイッチを、[ABBYY FineReader インターフェイスを使用する] または [ネイティブのインターフェイスを使用する] のいずれかに設定します。

スキャンのヒント

スキャン オプションは、ABBYY FineReader スキャン ダイアログ ボックスまたはスキャナ ドライバダイアログ ボックスで設定できます。ダイアログ ボックスについての詳細は、「スキャン インターフェイスの選択」セクションを参照してください。

- ご使用のスキャナが正しく接続され、スイッチが入っていることを確認してください。スキャナの使用説明書を参照して、スキャナが正しくセットアップされていることを確認してください。必ずスキャナ付属のソフトウェアをインストールしてください。スキャナの機種によっては、コンピュータの電源を入れる前にスキャナの電源を入れなければならない場合があります。
- 文字が書かれた面を下向きにしてスキャナに原稿をセットします。原稿はきちんと置いてください。画像が歪んでいると、正しく変換されません。
- 印刷物はグレースケール、300 dpi でのスキャンが最適です。変換品質は、原稿の品質とスキャンパラメータによって変わります。画像品質が低いと、変換の品質が悪くなる可能性があります。必ず原稿に適したスキャン パラメータを選択してください。

いくつかのスキャン オプションについての詳細は、次のセクションに記載されています:

- 明るさの調整
- フォントが小さすぎる場合
- 画像解像度の調整
- 見開きページのスキャン

明るさの調整

ABBYY FineReader

では、明るさの設定が正しくない場合、スキャン中に警告メッセージが表示されます。また、モノクロモードでスキャンする場合も、明るさ設定を調整する必要があります。

明るさを調整するには

1. [スキャン] ボタンをクリックします。

2. ダイアログ ボックスで、必要な明るさを指定します。
使用しているスキャン インターフェイスによって、ABBYY FineReader スキャン ダイアログ ボックスまたはスキャナのドライバのダイアログ ボックスが開きます。ほとんどの場合、50% 前後の中間の値が適しています。
3. ドキュメントのスキャンを行います。

取り込んだ画像にかすれた文字やつぶれた文字が多数ある場合は、下の表を参考にして対処してください。

画像の外見	推奨事項
brightness	この画像は OCR に適しています。
brightness 文字がかすれている	<ul style="list-style-type: none"> 明るさを下げて、画像をもっと暗くしてください。 グレースケールでスキャンしてください。明るさは自動調整されます。
brightness 文字がつぶれている、またはつながっている	<ul style="list-style-type: none"> 明るさを上げて、画像をもっと明るくしてください。 グレースケールでスキャンしてください。明るさは自動調整されます。

フォントが小さすぎる場合

最適な OCR

結果を得るためには、非常に小さなフォントで印刷されたドキュメントは、高い解像度でスキャンします。

1. [スキャン] ボタンをクリックします。
2. ダイアログ ボックスで、必要な解像度を指定します。
使用しているスキャン インターフェイスによって、ABBYY FineReader スキャン ダイアログ ボックスまたはスキャナのドライバのダイアログ ボックスが開きます。
3. ドキュメントのスキャンを行います。

同じドキュメントを異なる解像度で取得した画像を、[ズーム] ウィンドウで [Pixel-to-Pixel] モード ([表示] > [ズーム ウィンドウ] > [スケール] > [Pixel-to-Pixel]) で開いて比較することができます。

ソース画像	推奨解像度
FineReader	通常のテキスト (10 pt 以上のフォントサイズで印刷されているテキスト) の場合は 300 dpi

FineReader

小さいフォント（9 pt 以下）で印刷されているテキストの場合は
400 ～ 600 dpi

画像解像度の調整

OCR 品質は、ドキュメントをスキャンする解像度の影響を受けます。解像度が低いと、OCR 品質に悪い影響が出る場合があります。

ドキュメントのスキャンは 300 dpi で行うことをお勧めします。

重要事項 OCR で最適な結果を得るためには、垂直解像度と水平解像度が同じである必要があります。

設定した解像度が高すぎると（600 dpi 以上）

、認識時間が長くなります。解像度を高めても、認識結果が大幅に向上することはありません。非常に低い解像度（150 dpi 未満）を設定すると、OCR 品質が低下します。

次のような場合は解像度を調整する必要があります。

- 画像の解像度が 250 dpi 未満または 600 dpi 以上。
- 画像の解像度が標準外。
たとえば、FAX の解像度は 204 x 96 dpi であることがあります。

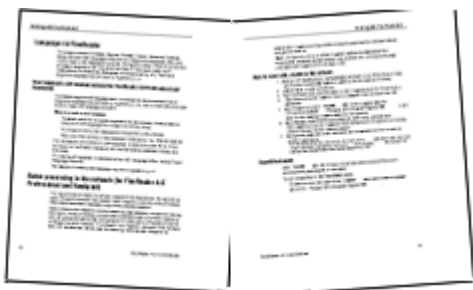
解像度を調整するには

1. [スキャン] ボタンをクリックします。
2. 使用しているスキャン インターフェイスによって、ABBYY FineReader インターフェイスまたはスキャナのドライバのインターフェイスが開きます。
スキャン ダイアログ ボックスで、必要な解像度を選択します。
3. ドキュメントをスキャンします。

ヒント 解像度は画像エディタ（[ページ] > [ページ画像の編集...]）で調整することもできます。

見開きページのスキャン

書籍の見開きページをスキャンした場合、両ページが 1 つの画像に表示されます。サンプル画像を表示



OCR 品質を高めるには、見開きページを 2 つの画像に分割します。ABBYY FineReader は、見開きページ 2 ページを ABBYY FineReader ドキュメント内の 2 つのファイルに自動的に分割する特別なモードを備えています。

見開きページのスキャン

1. [スキャン/開く] タブから [オプション] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > [オプション...])。
2. [画像処理] グループで [見開きページを分割する] オプションにチェックを付けます。
3. ページをスキャンします。

自動分割オプションは、**画像を開くダイアログ** ([ファイル] > [PDF ファイル/画像を開く...]) および ABBYY FineReader の **スキャン ダイアログ** ボックスでも利用可能です。詳細については、「スキャン インターフェイスの選択」を参照してください。

重要事項 画像に中国語または日本語のテキストが含まれている場合は、[画像の編集] ダイアログ ボックスを使用して、ページを手動で分割してください。これらの種類の画像は、自動ページ分割機能でサポートされていません。

見開きページを手動で分割するには

1. [画像の編集] ダイアログ ボックスを開きます ([ページ] > [ページ画像の編集...])。
2. [分割] グループのオプションを使用して、ページを分割します。

ドキュメントの写真撮影

- カメラの要件
- 光量
- 写真撮影
- もう 1 枚写真を撮る必要がある場合

カメラの要件

正しく認識できるドキュメント画像を得るためには、カメラが以下の要件を満たしている必要があります。

推奨されるカメラの特性

- 画像センサー: A4 のページで 500 万ピクセル
名刺などの小さなドキュメントを撮影する場合は、小さなセンサーで十分です。
- フラッシュをオフにする機能
- 手動口径制御、すなわち、Av または フル手動モードが使用可能
- 手動のピント合わせ
- 手ブレ防止機能、または三脚を使用する機能
- 光学ズーム

最小要件

- 画像センサー: A4 のページで 200 万ピクセル
- 可変焦点距離。ドキュメントの撮影には、固定焦点カメラ (レンズの焦点が無限遠) は使用しないでください。このタイプのカメラは、一般に携帯電話や PDA に組み込まれています。

注意: カメラの詳細については、機器に付属のマニュアルを参照してください。

光量

ABBYY FineReader 11 ユーザーズガイド

光量は撮影する写真の質を大きく左右します。

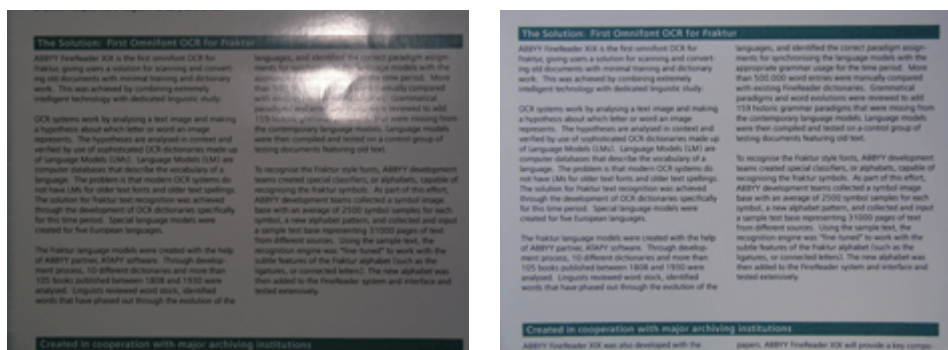
最もよい結果が得られるのは、均等に行き渡る明るい光を利用した場合で、望ましいのは昼光です。よく晴れた明るい日には、絞り値を大きくして鮮明な画像を得ることができます。

フラッシュおよび追加光源の使用

- 人工照明で撮影する場合は、影やギラつきが生じないように 2 つの光源を配置して使用します。
- 光量が十分な場合はフラッシュをオフにして、極端な明暗が生じないようにします。照明が不十分な条件下でフラッシュを使用する場合は、必ず 50 cm ほど離れた位置から撮影してください。

重要事項

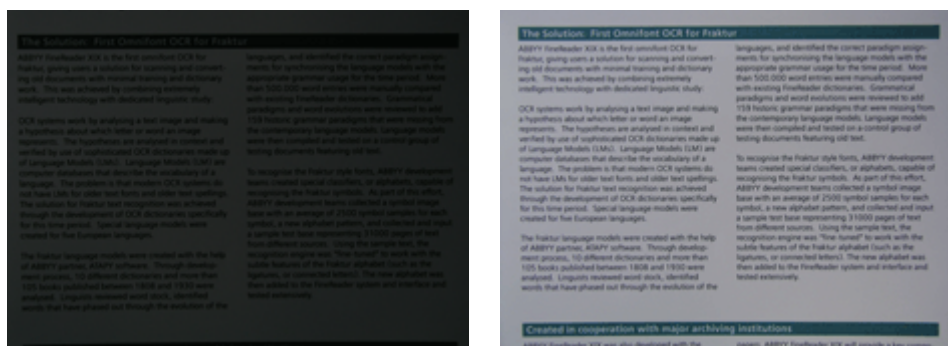
光沢のある紙に印刷されたドキュメントの撮影には、フラッシュを使用しないでください。ギラつきのある画像と品質の高い画像を比べてみてください：



画像が暗すぎる場合

- 絞り値を小さくして、絞りを開きます。
- ISO 値を高く設定します。
- オートフォーカスが機能せず、画像がぼやける可能性があるため、手動フォーカスを使用します。

暗すぎる画像と品質の高い画像を比べてみてください：



写真撮影

品質の高いドキュメントの画像を得るには、カメラを必ず正しい位置に置いて、次に挙げる簡単な推奨事項に従ってください。

- 三脚が使用できる場合は、必ず使用します。
- レンズがページと平行になるようにし、ドキュメントの中央に向けます。拡大したときにページ全体がフレーム内に収まるように、カメラからドキュメントまでの距離を選択する必要があります。ほとんどの場合、この距離は 50～60 cm です。
- 紙文書または本のページを平らにします
(特に厚い本の場合)。テキストの行は、20° 以上傾けないでください。傾きすぎていると、テキストが正しく変換されないことがあります。
- 鮮明な画像を得るには、画像の中心にピントを合わせます。



- 光量が不十分な条件下で露光時間が長くなると、画像がぼやける可能性があるため、手ブレ防止機能をオンにします。
- 自動シャッター機能を使用します。これにより、シャッターボタンを押したときに生じるカメラのブレを防ぐことができます。三脚を使用している場合も、自動シャッター機能の利用をお勧めします。

もう 1 枚写真を撮る必要がある場合

ご使用のカメラが技術的な要件を満たしていることを確認し、「光量」および「写真撮影」のセクションに記載されている簡単な推奨事項に従ってください。

状況に応じて画像を改善する方法

- 画像が暗すぎるか、コントラストが低すぎる
解決策: 明るい照明を使用します。あるいは、絞り値を小さくして、絞りを開きます。
- 画像の鮮明さが不十分
解決策:
光量が不十分だったり、至近距離で撮影したりすると、オートフォーカスが正しく機能しないことがあります。明るい照明を使用します。効果が見られない場合は、手動で焦点を合わせます。画像のぼやけ方が軽度な場合は、画像エディタに備えられている「**画像修正**」ツールの利用をお試しください。詳細については、「画像の手動編集」のセクションを参照してください。
- 画像が部分的にぼやけている
解決策:
絞り値を大きくします。光学ズームを最大にして、より離れた位置から撮影します。画像の中心から端までの任意の位置にピントを合わせます。
- フラッシュのためにギラつきが生じる
解決策:
フラッシュをオフにするか、または他の光源を使用し、カメラからドキュメントまでの距離を長くします。

画像の自動前処理

OCR

品質は、つぶれたテキストの行、ドキュメントの傾き、ノイズ、およびスキャンした画像とデジタル写真に一般的に見られるその他の欠陥によって影響を受けることがあります。

ABBYY FineReader

は、この種類の画像欠陥に対処するために、画像の前処理機能を備えています。画像前処理機能をアクティブにすると、入力画像の種類によって実行する処理を自動的に判断し、修正を適用します。デジタル写真のノイズ除去、傾きの修正、テキスト行の直線化、台形歪みの修正などの調整処理が行われます。

注：これらの処理には非常に時間がかかることがあります。

画像をスキャンして開く際に自動前処理を起動するには

1. **〔オプション〕** ダイアログ ボックスを開きます（**〔ツール〕** > **〔オプション…〕**）。
2. **〔スキャン/開く〕** タブで、**〔画像処理〕** グループの **〔画像の前処理を有効にする〕** オプションに必ずチェックを付けます。

重要事項 自動前処理オプションは、画像を開くダイアログ ボックス（**〔ファイル〕** メニュー > **〔PDF ファイル/画像を開く…〕**）および ABBYY FineReader スキャン ダイアログ ボックスでも使用できます。詳細については、「スキャン インターフェイスの選択」を参照してください。

注：画像をスキャンする際、または開く際に **〔画像の前処理を有効にする〕** オプションが無効になっていた場合、**〔画像の編集〕** ダイアログ ボックスを使用して、画像を手動で処理することができます。

画像の手動編集

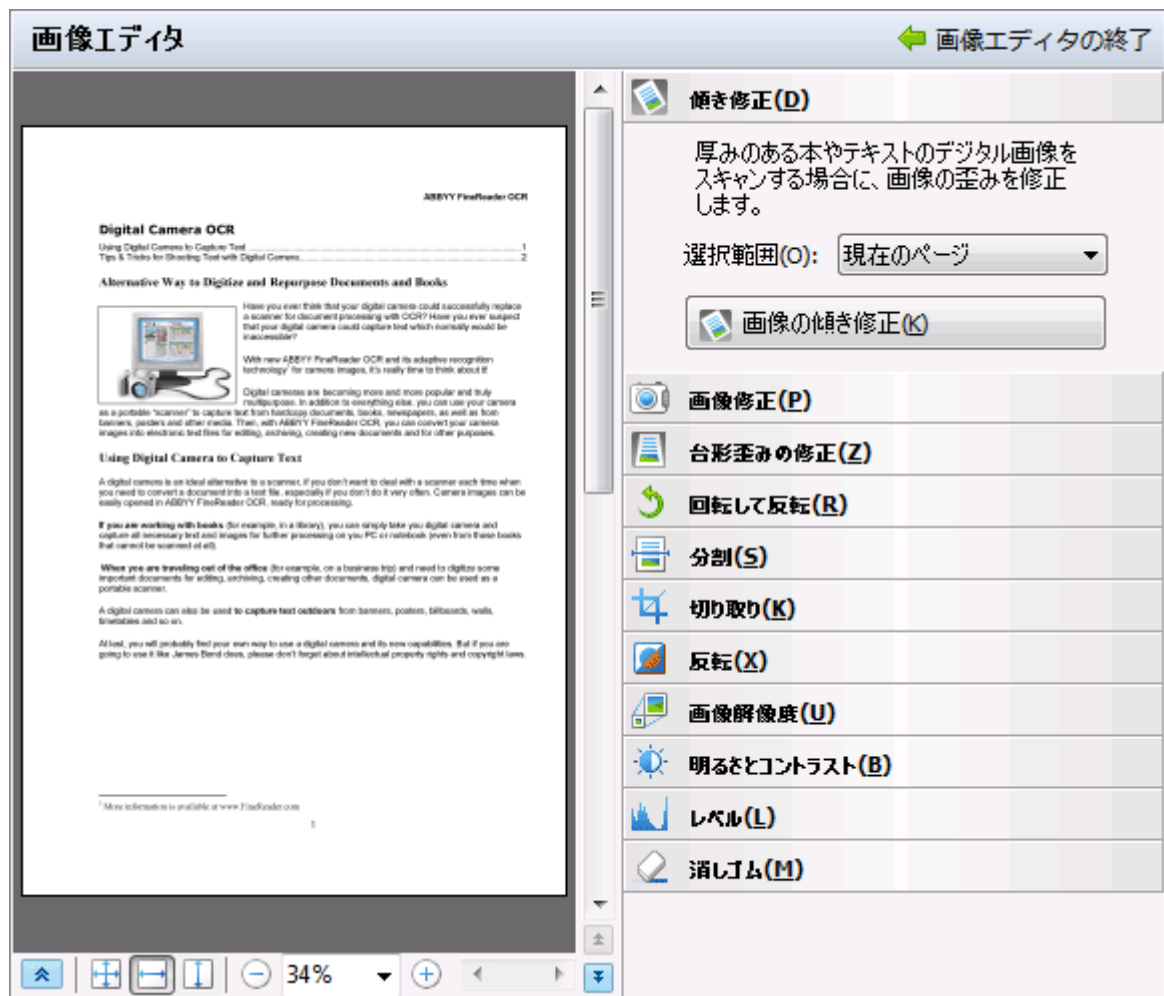
ABBYY FineReader 11

は、画像の自動前処理機能を備えています。この機能では、何らかの修正が必要かどうかをプログラムが判断し、画像に修正を適用します。

ただし、画像によっては手動の編集を必要とすることがあります。たとえば、画像の一部のみを認識する必要がある場合や、ドキュメント中の一部のページのみを処理する必要がある場合です。

画像を編集するには

1. **〔ページの選択〕** > **〔ページ画像の編集…〕**



「画像エディタ」の左側に、現在の ABBYY FineReader ドキュメントのアクティブなページが表示され、右側に画像編集ツールが表示されます。

2. 画像編集ツールの概要

- **傾き修正** 画像の傾きを修正します。
- **画像修正** テキストの行をまっすぐに揃え、モーションブラーを除去し、ノイズを低減させます。
- **台形歪みの修正** 遠近の歪みを修正します。
このツールを選択すると、格子線の入った枠が画像に重ねて表示されます。枠の角をドラッグ&ドロップして、ページ画像の角に合わせます。横の格子線がテキストの行と平行になっていることを確認します。その後で、「この画像を修正」をクリックします。
- **回転して反転** テキストが通常読まれる状態（すなわち、行が水平で、文字が左から右方向に並んでいる状態）になるように、画像を回転させて、左から右、または右から左に反転させます。
- **分割** 画像（見開きページなど）を個別の部分に分割します。
- **切り取り** 画像の端の不要な部分を切り取るのに使用します。
- **反転** ドキュメントの色（薄い色の背景に濃い色のテキスト）の標準的な反転を有効にします。
- **画像解像度** 画像解像度を変更します。

- **明るさとコントラスト** 最適な明るさとコントラストの値を選択して、画像の品質を高めることができます。
- **レベル** 影、ハイライト、ヒストグラムの中間調のレベルを選択して、画像の色調の値を調整できます。
画像のコントラストを上げるには、入力レベル
ヒストグラムにある右と左のスライダーを動かします。左のスライダーの位置に対応する色調が、画像の中で最も黒い部分で、右のスライダーの位置に対応する色調が、画像の中で最も白い部分に相当します。スライダー間の残りのレベルは、レベル 0 からレベル 255 の間に分けられます。中央のスライダーを右に動かすと画像が暗くなり、左に動かすと明るくなります。
画像のコントラストを下げるには、出力レベルのスライダーを調節します。
- **消しゴム** 画像の一部を消去します。

使用するツールのボタンをクリックします。ほとんどのツールは、すべてのページまたは選択したページのいずれかに適用できます。編集するページは、ツールの [**選択範囲**] ドロップダウンリストを使用して指定するか、または [**ページ**] ウィンドウで選択することができます。

3. 画像の編集を終えたら、[**画像エディタの終了**] をクリックします。

OCR 品質を高めるためのヒント

この章では、ドキュメントの構造に最も適した OCR オプションと、標準外の状態に対応する適切な設定を選択するためのアドバイスを提供します。

- OCR オプション
- 紙文書の複雑な構造が電子ドキュメントで再現されない場合
- 領域の形と境界の調整
- 画像が検出されない場合
- バーコードが検出されない場合
- 表が検出されない場合
- 表のセルが正しく検出されない場合
- テキスト領域プロパティの調整
- 縦書きのテキストまたは反転したテキストが正しく認識されない場合
- 装飾的な（標準以外の）フォントを含む紙文書
- 認識されたテキストのフォントが正しくないか、一部の文字が「?」または「□」で置き換えられている場合

OCR オプション

正確な結果を素早く得るには、適切な OCR オプションを選択することが大切です。完璧で高速な OCR を実現するには
使用するオプションを決める際に、ドキュメントの種類と複雑さだけでなく、結果をどのように使用する予定であるかについても考慮してください。

OCR オプションは、[**オプション**] ダイアログ ボックス ([**ツール**] > [**オプション...**]) の [**読み取り**] タブにまとめられています。

重要事項 ABBYY FineReader では、FineReader

ドキュメントに追加されたページを自動的に認識します。認識には、現在選択されているオプションが使用されます。新たに追加した画像の自動分析および自動 OCR は、**「オプション」** ダイアログボックス (**「ツール」** > **「オプション…」**) の **「スキャン/開く」** タブで無効にできます。

注意 ドキュメントを認識した後で OCR オプションを変更した場合は、OCR プロセスを再度実行し、新しいオプションでドキュメントを認識してください。

「オプション」 ダイアログ ボックスの **「読み取り」** タブで、次の OCR オプションを変更できます。

- **読み取りモード**

読み取りモードを選択します。

使用できる読み取りモードは 2 種類あります。

- **綿密な読み取り**

このモードでは、ABBYY FineReader

は単純なドキュメントと、複雑なレイアウトのドキュメントの両方の分析と認識を行います。これには、カラーまたはラスターの背景に印刷されたテキストのあるドキュメントや、複雑な表（白い格子線のある表、カラーのセルのある表を含む）のあるドキュメントが含まれます。

注意: **「高速」** モードに比べて、**「綿密」**

モードは時間がかかりますが、認識品質は確実に高くなります。

- **高速読み取り**

このモードは、レイアウトがシンプルで、画像の品質が高く、サイズの大きなドキュメントの処理に推奨されます。

ニーズに最も適したモードを選択してください。

- **調整**

パターン調整は、既定では無効になっています。ABBYY FineReader でページの OCR を実行する際に新しい文字の調整を行うには、**「調整を伴う読み取り」** オプションを選択します。

パターン調整は、次の種類のテキストに役立ちます。

- 修飾的なフォントで印刷されたテキスト
- 特殊な文字（数学記号など）を含むテキスト
- 大きなドキュメント（100 ページ以上）で印刷の品質が低いもの

組み込みの文字パターンを使用するか、またはユーザー独自のパターンを作成することができます。**「調整」** の項目で必要なオプションを選択します。

- **ユーザー パターンとユーザー言語**

ユーザー パターンとユーザー言語をファイルに保存したり、保存済みのユーザーパターンとユーザー言語を読み込んだりできます。

ユーザーが作成するユーザー

パターンとユーザー言語のファイルには、ユーザーの言語、言語グループ、辞書、パターンが入っているフォルダへのパスが保存されます。

ユーザー パターンとユーザー言語を保存するには

1. **「ファイルに保存…」** ボタンをクリックします。
2. **「保存オプション」** ダイアログ ボックスで、ファイルの名前を入力し、**「保存」** をクリックします。

ユーザー パターンとユーザー言語を読み込むには

3. [ファイルから読み込む...] ボタンをクリックします。
4. [読み込みオプション] ダイアログ ボックスで、必要な *.fbt ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

- **フォント**

ここでは、認識したテキストを保存する際に使用するフォントを選択できます。

フォントを選択するには

1. [フォント] ボタンをクリックします。
2. 必要なフォントを選択し、[OK] をクリックします。

- **その他**

ドキュメントにバーコードが含まれており、画像として保存する代わりに文字と数字の列に変換する場合は、[バーコードを探す] を選択します。このオプションは、既定では無効になっています。

紙文書の複雑な構造が電子ドキュメントで再現されない場合

ドキュメントの認識プロセスを実行する前に、ABBYY FineReader ではドキュメントの論理的構造の分析を行い、テキスト、画像、表、およびバーコードを含む領域を検出します。そして、この分析に基づいて、領域を識別し、認識順序を決定します。この情報は、元のドキュメントの書式を再生する上で役立ちます。

既定により、ABBYY FineReader

ではドキュメントを自動的に分析します。ただし、書式設定が非常に複雑な場合は一部の領域が正しく検出されないことがあります。その場合は、それらの領域を手動で修正できます。

領域を修正するには、次のツールを使用します。

- [画像] ウィンドウにある領域の手動調整ツール
- [画像] ウィンドウまたは [ズーム] ウィンドウで選択した領域を右クリックして使用できるショートカット メニューのコマンド
- メインの [領域] メニューのコマンド

必要な調整を行った後で OCR プロセスを再起動します。

- 領域の形と境界の調整 - 領域ツール。
- 表が検出されない場合 - 表領域およびページ上の表を個別の領域に変えるためのガイドライン。
- 表のセルが正しく検出されない場合 - 表の手動マークアップ用ツール。
- 画像が検出されない場合 - 画像領域およびページ上の画像を専用の領域に分けるためのガイドライン。
- バーコードが検出されない場合 - バーコードおよびページ上のバーコードを専用の領域に分けるためのガイドライン。

領域の形と境界の調整

ABBYY FineReader

では、認識の前にページ画像を分析し、テキスト、画像、表、バーコードの領域など、画像にあるさまざまな種類の領域を検出します。この分析により、認識される領域と認識の順序が決まります。ユーザー インターフェイスでは、さまざまな領域の種類がそれぞれ異なる色の境界線で区別されます。

ある領域をクリックすると、その領域が強調表示されてアクティブになります。また、Tab キーを押して、領域間を移動することもできます。すべての領域には、選択される順序を決定する番号が付いています。既定では、これらの番号は「画像」ウィンドウに表示されず、**「領域を並べ替える」** ツールを選択した場合のみ表示されます。

領域のテキストが境界線内に収まらない場合

(この状況は、認識されたテキストを編集すると発生する可能性があります)、アクティブではない領域の境界線の外にあるテキストは、画面に表示されないことがあります。領域の境界線に表示される赤いマーカーは、テキストが表示されていないことを示します。領域がアクティブになると、境界が拡張されてテキスト全体が画面に収まるようになります。

領域の描画と編集を手動で行うためのツールは、**「画像」**

ウィンドウと、**テキスト**、**画像**、**背景画像**、および**表**の領域のポップアップ ツールバーにあります (ポップアップ ツールバーはアクティブな領域の横に表示されます)。

重要事項 領域の編集を終えた後で、OCR プロセスを再度実行します。

新しい領域の作成

1. **「画像」** ウィンドウでツールを選択します。



認識領域を描画します。



テキスト領域を描画します。



画像領域を描画します。



背景画像領域を描画します。



表領域を描画します。

2. マウスを使用して領域を描画します。

新しい領域は、**「画像」**

ウィンドウのツールバーでツールを選択せずに描画できます。次のキーを押しながら、画像に領域を描画します。

- Ctrl + Shift で**テキスト**領域を描画します。
- Alt + Shift で**画像**領域を描画します。
- Ctrl + Alt で**表**領域を描画します。
- Ctrl + Shift + Alt で**バーコード**領域を描画します。

領域の種類を変更できます。選択した領域を右クリックし、ショートカット メニューで**「領域の種類変更」**を選択してから、任意の領域の種類を選択します。



領域の境界線の調整

1. マウスのカーソルを領域の境界線上に置きます。
2. 左クリックして任意の方向にドラッグします。
3. 調整が完了したら、マウス ボタンから指を離します。

注意: マウス

カーソルを領域の角に置いて、領域の縦と横の境界線を同時に調整することができます。





領域部分の追加/削除...

1. テキスト、画像または背景画像領域のポップアップ ツールバーで  /  ツールを選択します。
2. 領域内にマウスのカーソルを置き、画像の一部を選択します。その部分が領域に追加されるか、または領域から削除されます。
3. 必要に応じて、領域の境界線を調整します。

注意:

4. これらのツールは、テキスト、画像または背景画像の領域にのみ適用できます。表領域またはバーコード領域の一部を追加または削除することはできません。
5. 領域の境界線は、頂点（分割点）を追加して調整することもできます。作成された部分は、マウスを使って任意の方向にドラッグできます。新しい頂点を追加するには、Ctrl + Shift を押しながら（これによりカーソルが矢印から十字に変化）、境界線上の任意の位置にカーソルを移動して、クリックします。領域の境界線に新しい頂点が表示されます。

1 つまたは複数の領域の選択...

- [画像] ウィンドウのツールバーで、、、 または  ツールのいずれかを選択し、Ctrl キーを押しながら、任意の領域をクリックします。選択を解除するには、選択した領域をもう一度クリックします。

領域の移動...

- 領域を選択し、Ctrl キーを押しながら移動します。


領域の番号の付け直し...

1. [領域] メニューで [領域を並べ替える] を選択します。
2. 出力ドキュメントに必要な順序で領域を選択します。

注意:

自動ページ分析の際に、画像上のテキストの向きにかかわらず、領域には左から右方向に自動的に番号が付けられます。

領域の削除...

-  ツールを選択し、削除する領域をクリックします。
- 削除する領域を選択し、ショートカット メニューで [領域の削除] をクリックします。
- 削除する領域を選択し、削除キーを押します。

領域をすべて削除するには

- [画像] ウィンドウのショートカット メニューで、[領域とテキストをすべて削除] を選択します。

重要事項 すでに認識された画像から領域を削除すると、対応する [テキスト] ウィンドウのすべてのテキストが削除されます。

テキストの向きの変更...

- [領域のプロパティ] ツールバー ([領域のプロパティ] ショートカット メニュー) の [向き] ドロップダウン メニューで、任意のテキストの向きを選択します。


詳細については、「テキスト プロパティの変更」を参照してください。

領域の境界線の色の変更...


1. **[表示]** タブ (**[ツール]** > **[オプション…]**) で **[オプション]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. **[外観]** の項目で領域の種類を選択し、**[カラー]** パレットで色を選択します。

画像が検出されない場合

画像領域は、ドキュメントに含まれる画像を示します。テキストの一部を認識したくない場合は、**[画像]** 領域を使用することもできます。画像が自動的に検出されない場合は、**[画像]** ツールを使用して画像を囲む画像領域を手動で描画します。

1. **[画像]** ウィンドウの上部にあるツールバーで  ツールを選択し、マウスを使って画像を囲む四角形を描画します。
2. OCR プロセスを再起動します。

画像に重ねて印刷されたテキストがドキュメントにある場合は、その画像を囲む **[背景画像]** 領域を描画します。

1. **[画像]** ウィンドウで、ツールバーにある  ツールを選択し、画像の周囲に枠を描画します。
注意:
このツールがツールバーに表示されていない場合は、追加してください。追加方法の詳細については、**[ツールバー]** を参照してください。
2. OCR 処理を開始します。

既存の領域を **[画像]** または **[背景画像]** に変更できます。領域を右クリックし、**[領域の種類変更]** > **[画像]** または > **[背景画像]** を選択します。

バーコードが検出されない場合

バーコード領域は、ドキュメントに含まれるバーコードを示します。ドキュメントにバーコードが含まれており、それを画像としてではなく、文字と数字の列として表示する場合は、そのバーコードを選択し、領域の種類を **[バーコード]** に変更します。

注意: バーコード認識は、既定では無効になっています。バーコード認識を有効にするには、**[ツール]** > **[オプション…]** を選択して **[読み取り]** タブをクリックし、**[バーコードを探す]** を選択します。

バーコード領域を描画するには

1. **[画像]** ウィンドウまたは **[ズーム]** ウィンドウで、**Ctrl + Shift + Alt** を押しながら、マウスを使って領域を選択します。
2. OCR プロセスを実行します。

ABBYY FineReader 11 でサポートされているバーコードの種類...

Code 3 of 9	Code 128	Check Interleaved 2 of 5	UPC - A	QR code
Check Code 3 of 9	EAN 8	Matrix 2 of 5	UPC - E	Patch code
Code 3 of 9 without asterisk	EAN 13	Postnet	PDF417	
Codabar	IATA 2 of 5	Industrial 2 of 5	Aztec code	
Code 93	Interleaved	UCC - 128	Data	



注: 既定のバーコードの種類は **[自動検出]**

です。これは、バーコードの種類が自動的に検出されることを意味します。しかし、すべてのバーコードが自動的に検出できるわけではないため、時として **[領域のプロパティ]** パネルで適切な種類を手動で選択する必要がある場合があります。

ABBYY FineReader では、次の種類のバーコードを自動的に検出できます: コード 3/9、コード 93、コード 128、EAN 8、EAN 13、Postnet、UCC - 128、UPC - E、PDF417、UPC-A、QR code。

表が検出されない場合

表領域は、表または表形式で配置されたテキストを示します。表が自動的に検出されない場合は、**[表]** ツールを使用して表を囲む表領域を手動で描画します。

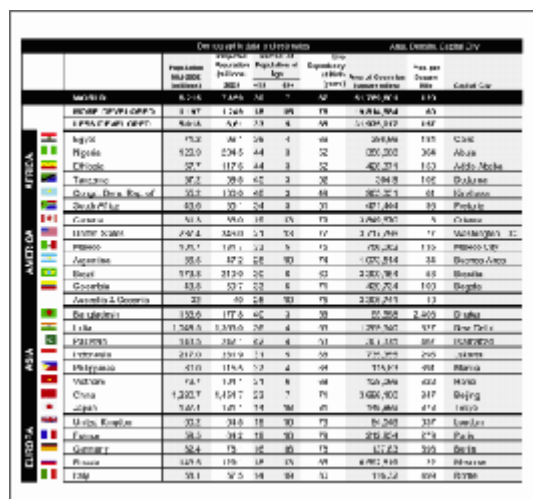
1. **[画像]** ウィンドウの上部にあるツールバーで  ツールを選択し、マウスを使って画像にある表を囲む四角形を描画します。
2. 表のショートカット メニューで **[表構造の分析]** を選択するか、または表領域のポップアップ ツールバーにある  ボタンをクリックします。
3. ポップアップ ツールバー、表のショートカット メニュー、またはメインの **[領域]** メニューのコマンドを使用して、結果を編集します。
4. OCR プロセスを再度実行します。

すでに認識された領域の種類を変更できます。領域の種類を **[表]** に変更するには、その領域を右クリックし、ショートカット メニューで **[領域の種類を変更]** > **[表]** を選択します。

表のセルが正しく検出されなかった場合

ABBYY FineReader

で表の行と列が自動的に正しく検出されなかった場合は、レイアウトを手動で調整して OCR プロセスを再度実行することができます。




	Country	Population	Area	Capital	Language	Religion	Government	Independence	Independence Day
AFRICA	Algeria	34,400,000	2,381,477	Algiers	Arabic	98%	Republic	1962	July 5
	Angola	17,000,000	824,696	Luanda	Portuguese	99%	Republic	1975	November 11
	Botswana	2,000,000	30,355	Gaborone	English	90%	Republic	1966	September 30
	Burkina Faso	15,000,000	274,000	Ouagadougou	French	96%	Republic	1986	August 4
	Burundi	7,000,000	27,834	Gitega	Kirundi	90%	Republic	1962	July 1
	Cameroon	18,000,000	475,339	Yaounde	French	97%	Republic	1960	January 1
	Cote d'Ivoire	17,000,000	322,462	Yamoussoukro	French	96%	Republic	1960	August 4
	Egypt	78,000,000	1,001,450	Cairo	Arabic	90%	Republic	1922	February 28
	Ethiopia	75,000,000	1,104,308	Addis Ababa	Amharic	98%	Republic	1991	May 8
	Ghana	20,000,000	238,533	Accra	English	99%	Republic	1946	March 6
ASIA	China	1,300,000,000	9,596,961	Beijing	Mandarin	96%	People's Republic	1949	October 1
	India	1,000,000,000	3,287,263	New Delhi	Hindi	80%	Republic	1947	August 15
	Japan	125,000,000	377,915	Tokyo	Japanese	99%	Constitutional Monarchy	1947	May 3
	Korea	45,000,000	100,000	Seoul	Korean	90%	Republic	1948	August 15
	Malaysia	20,000,000	330,848	Kuala Lumpur	Malay	90%	Federal Monarchy	1957	August 31
	Philippines	80,000,000	300,000	Manila	Tagalog	90%	Republic	1946	July 4
	Singapore	3,000,000	710	Singapore	English	90%	Republic	1965	August 9
	Thailand	60,000,000	513,120	Bangkok	Thai	95%	Constitutional Monarchy	1932	September 24
	Vietnam	75,000,000	331,212	Hanoi	Vietnamese	90%	Republic	1945	September 2
	Yemen	20,000,000	527,970	Sana'a	Arabic	90%	Republic	1990	May 22
EUROPE	France	65,000,000	640,800	Paris	French	90%	Republic	1792	July 14
	Germany	82,000,000	357,021	Berlin	German	90%	Republic	1990	October 3
	Italy	60,000,000	301,330	Rome	Italian	90%	Republic	1946	May 4
	Spain	45,000,000	505,000	Madrid	Spanish	90%	Constitutional Monarchy	1978	June 25
	United Kingdom	60,000,000	244,820	London	English	90%	Constitutional Monarchy	1947	July 1
	Poland	38,000,000	312,685	Warsaw	Polish	90%	Republic	1989	November 9
	Czech Republic	10,500,000	78,867	Prague	Czech	90%	Republic	1989	January 1
	Slovakia	5,400,000	49,035	Bratislava	Slovak	90%	Republic	1993	January 1
	Hungary	10,500,000	93,030	Budapest	Hungarian	90%	Republic	1989	May 10
	Romania	22,000,000	237,500	Bucharest	Romanian	90%	Republic	1989	December 1


[画像] ウィンドウまたは **[ズーム]** ウィンドウにある表の編集

- **[領域]** メニューのコマンドまたはショートカット メニューのコマンドを使用して、次の操作を行います。
 - **表構造の分析** (表の構造を自動的に分析して、縦横の罫線を引く手間を省きます)
 - **セルの分割、セルの結合、または行の結合** (正しく識別されなかった行または列を修正できます)

- 選択した表のポップアップ ツールバーを使用して、次の操作を行います。

縦または横の罫線の追加、表の罫線の削除、表構造の分析、表のセルの分割、または表のセルもしくは行の結合（**〔表〕** 領域をクリックし、ポップアップ

ツールバーから適切なツールを選択します：）。

ヒント ポップアップ ツールバーで  ツールをクリックし、オブジェクトを選択します。

注意

1. セル分割のコマンドは、それ以前に結合した表のセルにのみ適用可能です。
2. 表のセルまたは行を結合するには、画像上でセルまたは行を選択してから、適切なツールまたはメニュー コマンドを選択します。
3. 表に縦のテキスト
セルが含まれている場合は、まずテキストのプロパティを変更しなければならないことがあります。
4. 表のセルに画像のみが含まれている場合は、**〔領域のプロパティ〕** パネルで **〔選択したセルを画像として扱う〕** オプションにチェックマークを入れます（**〔領域のプロパティ〕** ショートカット メニュー）。
セルに画像とテキストの組み合わせが含まれている場合は、画像を選択してセル内の専用の領域に変えます。

テキスト領域プロパティの調整

自動ドキュメント分析を実行する際に、ABBYY FineReader ではドキュメント ページ上の **さまざまな領域の種類**（表、画像、テキスト、バーコードなど）

を検出します。また、ドキュメント構造の分析を行い、見出しのほか、ヘッダーとフッター、画像と図のキャプションなど、その他のレイアウト要素を識別します。

一部の **〔テキスト〕** 領域および **〔表〕**



領域で正しく定義されていないプロパティを手動で変更することができます。

1. **〔画像〕** ウィンドウまたは **〔ズーム〕** ウィンドウで領域を選択し、**〔画像〕** ウィンドウの **〔領域のプロパティ〕** パネルでプロパティを調整します。

〔領域のプロパティ〕 パネルでは、次のプロパティを設定できます。

- **言語** - 詳細については、「ドキュメントの言語」を参照してください。
- **機能** ヘッダーまたはフッター、見出しなど、テキストの機能を表示します（**〔テキスト〕** 領域のみに適用）。
- **向き** -
詳細については、「縦書きまたは横書きのテキストが正しく認識されない場合」を参照してください。
- **印刷タイプ** - 詳細については、「印刷タイプ」を参照してください。
- **反転** -
詳細については、「縦書きまたは横書きのテキストが正しく認識されない場合」を参照してください。
- **判読できないテキストの向き** -
詳細については、「複数の言語で書かれたドキュメントの認識」を参照してください。

注:

- a. **「画像」** ウィンドウが狭く、プロパティ パネル全体を表示できない場合は、/ ボタンを使用して、プロパティ パネル内を左右に移動します。
 - b. 一部のテキスト プロパティは、**「テキスト」** 領域を右クリックして利用可能なショートカットメニューを使用して修正できます。
- 必要な変更を行った後で OCR プロセスを再起動します。

縦書きのテキストまたは反転したテキストが正しく認識されない場合

認識されたテキストのほんの一部について、テキストの向きが正しく検出されなかったり、テキストが反転している（すなわち、暗い色の背景に明るい色のテキストが印刷されている）場合、そのテキストには多数のエラーが含まれる可能性があります。

この問題を解決するには

1. **「画像」** ウィンドウで、縦書きまたは反転したテキストを含む領域または表のセルを選択します。
2. **「領域のプロパティ」** パネル
(このパネルを表示するには、領域を右クリックして **「領域のプロパティ」** を選択) の **「画像」** ウィンドウで、次の項目を選択します。
 - **「横書き」** ドロップダウン リストで **「判読できないテキストの向き」** または **「縦書き」** または
 - **「反転」** ドロップダウン リストで **「反転済み」**
3. OCR プロセスを再起動します。

装飾的な（標準以外の）フォントを含む紙文書

調整モードは、装飾的なフォントのあるドキュメントや、特別な文字（数学記号など）を含むドキュメントの OCR 品質を高めます。

調整モードでは、テキスト全体の OCR を実行する際に使用できるユーザー パターンが作成されます。

ドキュメントの認識にパターンを使用するには

1. **「オプション」** ダイアログ ボックスを開いて ([ツール] > [オプション…])、**「読み取り」** タブをクリックします。
2. **「調整」** の項目で、**「ユーザー パターンのみを使用する」** オプションを選択します。

注: **「ユーザー パターンとビルトイン パターンを使用する」** を選択すると、ABBYY FineReader では ユーザー パターンと、工場で初期設定された OCR のパターンの両方を使用します。

3. **「パターン エディタ…」** ボタンをクリックします。
4. **「パターン エディタ」** ダイアログ ボックスで、必要なパターンを選択して **「OK」** をクリックします。
5. ABBYY FineReader のメイン ウィンドウで、**「読み取り」** ボタンをクリックします。

認識されたテキストのフォントが正しくないか、一部の文字が「？」または「□」で置き換えられている場合

「テキスト」

ウィンドウで、文字が「？」または「□」で置き換えられている場合は、認識されたテキストを表示す

るために選択したフォントに、テキストで使用されている文字がすべて含まれているかどうか確認してください。

OCR プロセスを再起動せずに、認識されたテキストのフォントを変更することができます。

短いドキュメントのフォントを変更するには

1. テキストの中で一部の文字が正しく表示されていない部分を選択します。
2. 選択部分を右クリックし、ショートカット メニューで **［プロパティ］** を選択します。
3. **［テキストのプロパティ］**
パネルで、必要なフォントを選択します。選択したテキスト部分のフォントが変更されます。

スタイルが使用されている長いドキュメントのフォントを変更するには

1. **［ツール］** メニューで、**［スタイル エディタ…］** を選択します。
2. **［スタイル エディタ］** ダイアログ ボックスで、必要なスタイルを選択し、フォントを変更します。
3. **［OK］**
をクリックします。そのスタイルが使用されているすべてのテキスト部分のフォントが変更されます。

重要事項 ABBYY FineReader

ドキュメントが別のコンピュータで認識または編集された場合、ご使用のコンピュータではそのドキュメントのテキストが正しく表示されないことがあります。このような場合には、そのドキュメントで使用されているすべてのフォントが、ご使用のコンピュータにインストールされていることをご確認ください。

認識したテキストの確認と編集




OCR プロセスが完了すると、見直しと編集のために、認識されたテキストが **［テキスト］** ウィンドウに表示されます。このセクションでは、認識したテキストでの作業に関する情報を提供します。

- **［テキスト］** ウィンドウでのテキストの確認
- スペル チェック
- ユーザー辞書：単語の追加と削除
- スタイルの使用
- 機密情報の削除
- ハイパーリンクの編集
- 表の編集

［テキスト］ ウィンドウでのテキストの確認

［テキスト］ ウィンドウで、認識した結果の確認、編集、および書式設定を行うことができます。

ウィンドウの上部にある **［テキスト］** ウィンドウ ツールバーを使用すると、**［検証］** ダイアログ ボックスを開くことができます。このダイアログ ボックスでは、スペル チェックを起動することができます。スペル チェックは、**［テキスト］** ウィンドウにあるスペルチェッカー操作ボタンを使用して実行することもできます。

次の、または前の不明瞭な単語または文字に移動するには、 ボタンまたは  ボタンを使用します。不明瞭な文字が強調表示されていない場合は、[テキスト] ウィンドウのツールバーにある  ボタンをクリックします。

[テキスト] ウィンドウで不明瞭な単語を確認するには

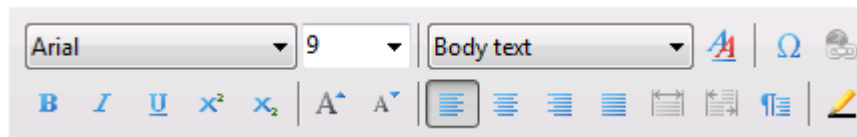
1. [テキスト] ウィンドウでその単語をクリックします。[画像] ウィンドウにその単語の位置が表示され、[ズーム] ウィンドウにその単語の拡大画像が表示されます。
2. 必要に応じて、[テキスト] ウィンドウで単語に変更を加えます。

この方法は、ソース ドキュメントと処理後のドキュメントを比較する必要がある場合に便利です。



メイン ツールバーを使用すると、ドロップダウンの保存オプション メニューにアクセスできます。

認識したテキストの書式設定を行うためのツールは、次の場所で利用可能です。

- メイン ツールバーの右側



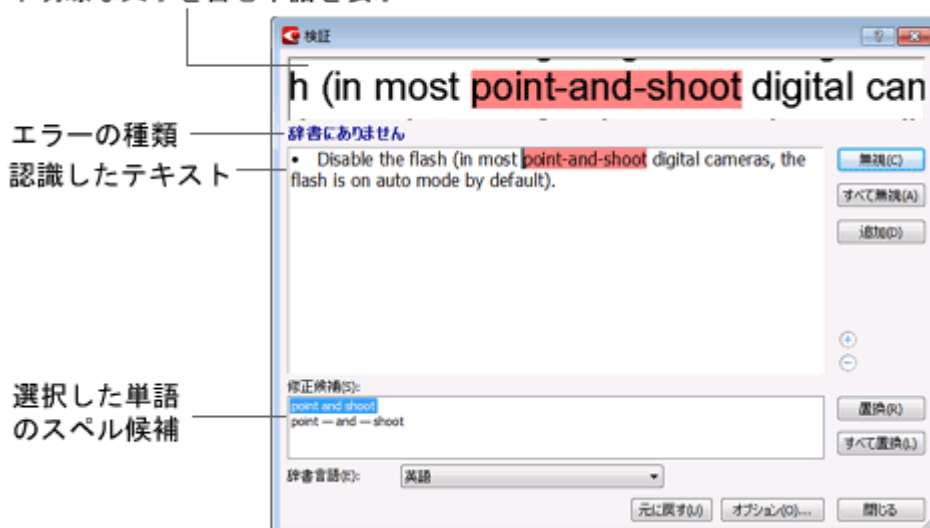
- [テキストのプロパティ] パネル (右クリックして [テキスト] > [プロパティ] を選択)

注: [テキスト] ウィンドウが狭く、テキスト プロパティ パネル全体を表示できない場合は、/  ボタンを使用して、プロパティ パネル内を左右に移動します。

[検証] ダイアログ ボックスでの確認

不明瞭な文字のある単語は、[検証] ダイアログ ボックス ([ツール] > [検証...]) で確認できます。

「ズーム」ウィンドウと同様、不明瞭な文字を含む単語を表示



ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

その単語がすでに辞書にある場合は、それを伝えるメッセージが表示されます。

ABBYY FineReader の以前のバージョンで作成されたユーザー辞書をインポートできます（バージョン 8.0、9.0 および 10 がサポートされています）。

1. [ツール] メニューで、[辞書を表示...] をクリックして任意の言語を選択し、[表示...] をクリックします。
2. [辞書] ダイアログ ボックスで [インポート...] ボタンをクリックし、インポートする辞書ファイルを選択します（ファイルの拡張子は、*.pmd、*.txt、または *.dic である必要があります）。

スタイルの使用

ABBYY FineReader

では、テキスト認識の際に元のドキュメントで使われているスタイルと書式を検出します。これらのスタイルと書式は、適切なスタイル階層を作成することにより、出力ドキュメントで再現されます。必要に応じて、[テキスト]

ウィンドウでドキュメントのスタイルの見直しおよび編集を行い、新しいスタイルを作成して、認識したテキストの書式を設定できます。

テキストの選択部分にスタイルを適用するには

1. [テキスト] ウィンドウでテキストの任意の部分を選択します。
2. ショートカット メニューで [プロパティ] を選択します。
3. 表示された [テキストのプロパティ] ウィンドウの [スタイル] リストから、適用するスタイルを選択します。

注意： 認識したテキストを RTF、DOC、DOCX、または ODT 形式で保存する場合、すべてのスタイルが保持されます。

スタイルの変更、作成、および結合：


1. [ツール] メニューで [スタイル エディタ...] をクリックします。
2. [スタイル エディタ] ダイアログ ボックスで任意のスタイルを選択し、名前、フォント、フォントサイズ、文字ピッチ、縮尺を調整します。
3. 新しいスタイルを作成するには、[新規] をクリックします。新たに作成されたスタイルが既存のスタイルのリストに追加され、調整が行えます。
4. 複数のスタイルを 1 つに結合するには、結合するスタイルを選択し、[結合...] をクリックします。[スタイルの置換] ダイアログ ボックスで、選択したスタイルと結合するスタイルを指定します。
5. [保存] をクリックし、変更内容を保存します。

同じスタイルで印刷されたテキストの一部から別の一部に移動することができます。[スタイル エディタ] で 任意のスタイルを選択し、[前の部分] または [次の部分] をクリックします。

機密情報の削除

（ABBYY FineReader Corporate Edition のみ）

ABBYY FineReader 11 では、認識したテキストから機密情報を簡単に削除できます

1. [ツール] メニューで [編集モード] をクリックするか、またはメイン ツールバーで  ボタンをクリックします。
マウス ポインタがマーカーに変わります。
2. [テキスト] ウィンドウで、マーカーを使用して隠すテキストを黒く塗りつぶします。


ヒント 誤って文字を黒く塗りつぶした場合は、**CTRL+Z** を押すか、またはメイン ツールバーで [元に戻す] をクリックして、直前に行った編集を元に戻すことができます。
3. ドキュメントを保存します。

黒く塗りつぶしたテキストは、出力ドキュメントではドットとして表示されます。選択した保存形式がテキスト色と背景色をサポートしている場合、黒の背景に黒のドットとなります。

注意:

ページを保存すると、黒く塗りつぶした部分は出力ドキュメントで黒い四角形として表示されます。

編集モードをオフにするには、

- [ツール] > [編集モード] を再度選択するか、または
- メイン ツールバーで  ボタンをクリックします。


ハイパーリンクの編集

ABBYY FineReader

ではハイパーリンクを検出し、その移動先アドレスを出力ドキュメントで再生します。検出したハイパーリンクは下線が引かれ、青で表示されます。

認識したドキュメントを [テキスト] ウィンドウで表示しているとき、ハイパーリンクの上にマウスポインタを置くと、そのアドレスが表示されます。ハイパーリンクのリンク先に移動するには、ハイパーリンクのショートカット メニューから [ハイパーリンクを開く] を選択するか、または **Ctrl** キーを押しながら、ハイパーリンクを左クリックします。

ハイパーリンクのテキストまたはアドレスを追加、削除、または変更するには

1. [テキスト] ウィンドウで、必要なハイパーリンクを選択します。
2. ハイパーリンクを削除するには、リンクを右クリックし、ショートカット メニューから [ハイパーリンクを削除] を選択します。
3. ハイパーリンクを追加または変更するには、リンクのショートカット メニューで [ハイパーリンク...] をクリックするか、または [テキスト] ウィンドウの上部にあるメイン ツールバーで  をクリックします。[ハイパーリンクの編集] ダイアログボックスでは次の操作が可能です。
 - a. [表示するテキスト] フィールドで必要なテキストの変更を行う。
 - b. [リンク先] グループでハイパーリンクの種類を選択または変更する。
 - インターネットのページにリンクするには、[Web ページ] を選択します。
[アドレス] フィールドで、ページのプロトコルと URL (例: `http://www.abbyy.com`) を指定します。
 - ファイルにリンクするには、[ローカル ファイル] を選択します。
[参照...] をクリックし、ハイパーリンクのリンク先のファイル

(例: file:///D:/MyDocuments/ABBYY FineReaderGuide.pdf)
を参照します。

- ユーザーがハイパーリンクをクリックするだけで、ハイパーリンクに含まれているアドレスに電子メールメッセージを送信できるようにするには、[電子メールアドレス] を選択します。
[アドレス] フィールドで、プロトコルと電子メール アドレス (例: *mailto:office@abbyy.com*) を指定します。

表の編集

ABBYY FineReader では、認識した表を [テキスト] ウィンドウで編集することができます。次のオプションが使用できます。

1. 表のセルを分割する

マウスの左ボタンをクリックしてセルを選択し、[編集] メニューから [表のセルを分割] を選択します。

重要事項 このコマンドは、以前に結合した表のセルにのみ適用できます。

2. 表のセルを結合する

マウスを使用して、結合する表のセルを選択し、[編集] メニューから [表のセルを結合] を選択します。

3. 表の行を結合する

マウスを使用して、結合する表の行を選択し、[編集] メニューから [表の行を結合] を選択します。

4. セルの内容を削除する

削除する内容のあるセル（またはセルのまとまり）を選択し、[削除] キーを押します。

注: 既定では、表の編集ツールはツールバーに表示されません。[ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログ ボックス ([ツール] > [カスタマイズ...]) を使用して、ツールバーにボタンを追加できます。

複合文字の言語での作業

ABBYY FineReader

では、ヘブライ語、イディッシュ語、日本語、中国語、タイ語、韓国語、およびアラビア語のドキュメントも認識できます。文字ベースの言語で書かれたドキュメントおよび文字ベースの言語と欧文の組み合わせが使用されているドキュメントで作業を行う場合は、次の点を検討してください。

これらの種類のドキュメントを認識するには、場合によって次の操作を行う必要があります。

- 追加の言語のインストール
- 推奨されるフォント

このセクションには、認識されたテキストの品質を高めるためのヒントとガイドラインが記載されています。

- 自動画像処理の無効化
- 複数の言語で書かれたドキュメントの認識

- 非欧文文字が [テキスト] ウィンドウに表示されない場合
- 認識したテキストの向きの選択

追加の言語のインストール

日本語、中国語、タイ語、韓国語、アラビア語、ヘブライ語、またはイディッシュ語で書かれたテキストを認識するには、場合によってこれらの言語を個別にインストールする必要があります。

注意: Microsoft Windows Vista および Windows 7
では、既定によりこれらの言語をサポートしています。

Microsoft Windows XP で新しい言語をインストールするには

1. Windows のタスクバー で [スタート] をクリックします。
2. [コントロール パネル] > [地域と言語のオプション] を選択します。
3. [言語] タブで次の項目を選択します。
 - **複合文字や右から左方向に書く言語のファイルをインストールする**
ヘブライ語、イディッシュ語、アラビア語、タイ語のテキストを認識できるようになります
 - **東アジア言語のファイルをインストールする**
日本語、中国語、韓国語のテキストを認識できるようになります
4. [OK] をクリックします。

推奨されるフォント

次の表は、ヘブライ語、イディッシュ語、タイ語、中国語、および日本語のテキストで作業する場合に推奨されるフォントをまとめたものです。

OCR 言語	推奨されるフォント
アラビア語	Arial™ Unicode™ MS*
ヘブライ語	Arial™ Unicode™ MS*
イディッシュ語	Arial™ Unicode™ MS*
タイ語	Arial™ Unicode™ MS* Aharoni David Levenim mt Miriam Narkisim

	Rod
中国語簡体字、 中国語繁体字、 日本語、韓国語、 韓国語（ハングル）	Arial™ Unicode™ MS* SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun - 18030、NSimSun Simhei YouYuan PMingLiU MingLiU Ming(for - ISO10646) STSong

* このフォントは、Microsoft Windows XP および Microsoft Office 2000 以降とともにインストールされます。

自動画像処理の無効化

既定では、ABBYY FineReader ドキュメントに追加したページはすべて自動的に認識されます。

ただし、文字ベースの言語と欧文を組み合わせたテキストがドキュメントに含まれている場合は、ページの向きの自動検出を無効にし、すべてのページ画像が正しい向きになっている（たとえば、上下逆さまにスキャンされていない、など）場合のみ、見開きページを分割するオプションを使用することをお勧めします。

〔ページの向きを検出する〕 オプションと 〔見開きページを分割する〕

オプションは、画像のスキャンと画像を開くダイアログ

ボックスで直接有効または無効にすることができます。また、〔オプション〕 ダイアログボックスのスキャン/開くタブでも有効/無効を切り替えられます。

注:

アラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語のページを分割するには、必ず対応する認識言語を最初選択し、その後で 〔見開きページを分割する〕

オプションを選択します。これにより、ページが必ず正しい順序で並べられるようになります。また、

〔ブックのページを差し替える〕

オプションを選択して、元のページ番号を復元することもできます。詳細については、「ABBYY FineReader ドキュメントのページ番号付け」を参照してください。

ドキュメントの構造が複雑な場合は、画像の自動分析と自動 OCR を無効にし、これらの操作を手動で行うことをお勧めします。

自動分析と自動 OCR を無効にするには

1. 〔オプション〕 ダイアログ ボックスを開きます（〔ツール〕>オプション…）。
2. 〔取得したページ画像の読み取りと分析を自動的に行わない〕 オプションをスキャン/開くタブで選択します。
3. 〔OK〕 をクリックします。

複数の言語で書かれたドキュメントの認識


下記の説明では、英語と中国語のテキストを両方含むドキュメントが例になっています。

1. [自動分析と自動 OCR] オプションを無効にします。
2. メイン ツールバーの [その他の言語…] ドロップダウン リストで [ドキュメントの言語] を選択します。 [言語エディタ] ダイアログ ボックスで [言語を手動で指定する] を選択し、言語リストから中国語と英語を選択します (詳細については、「ドキュメント言語」を参照)。
3. [ページの向きを検出する] を無効にした後で、画像をスキャンするか、またはページを開きます。見開きページを分割するオプションは、すべてのページ画像が正しい向きになっている場合のみ使用してください。 コマンドが実行された後、現在の ABBYY FineReader ドキュメントにページが追加されます。

重要事項

スキャンを行う際は、スキャナのガラス台の中心にページをきちんと揃えて置いてください。大きく傾いていると、テキストが正しく変換されない場合があります。

4. 画像上に領域を手動で描画するには、領域の形と境界の調整用のツールを使用します。

注: ドキュメントの構造が単純な場合は、自動レイアウト分析を起動できます。 [画像] ウィンドウのツールバーで  (分析) ボタンをクリックするか、または **Ctrl+E** を押します。

5. テキストが 1 つの言語のみで書かれている領域が画像上にある場合

- a. それらの領域を選択します。
- b. [領域のプロパティ] パネルでテキスト領域の言語 (中国語または英語) を選択します。

重要事項 言語は同じ種類の領域にのみ指定できます。 [テキスト] 領域と [表] 領域を両方選択すると、言語を指定することはできません。

- c. 領域を両方選択すると、言語を指定することはできません。 必要な場合は、[向き] ドロップダウン メニューでテキストの向きを選択します (詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが正しく認識されない場合」を参照)。
- d. 文字ベースの言語のテキストの場合は、[判読できないテキストの向き] ドロップダウン メニューでテキストの向きを選択できます (詳細については、「テキスト プロパティの変更」を参照)。

6. [認識] をクリックします。

非欧文文字が [テキスト] ウィンドウに表示されない場合

文字ベースの言語が [テキスト] ウィンドウで正しく表示されない場合は、[テキストのみ] モードを選択している可能性があります。

[テキストのみ] モードで使用されるフォントを変更するには


1. [オプション] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > オプション…)。
2. [表示] タブに移動します。
3. プレーン テキストの表示に使用するフォント] ドロップダウン メニューから [Arial Unicode MS] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

〔テキスト〕 ウィンドウで何も変化が生じない場合は、「認識されたテキストのフォントが正しくないか、一部の文字が「?」または「□」で置き換えられている」を参照してください。

認識したテキストの向きの選択

ABBYY FineReader では、OCR

を実行する際にテキストの向きを自動的に検出します。必要な場合は、認識したテキストの向きを手動で調整することができます。

1. 〔テキスト〕 ウィンドウに移動します。
2. 1 つまたは複数の段落を選択します。
3. メイン ツールバーで  をクリックします。

注: 文字ベースの言語の場合は、テキスト認識を実行する前に、〔判読できないテキストの向き〕オプションを使用してテキストの向きを選択します。詳細については、「テキストプロパティの変更」を参照してください。

結果の保存

認識したテキストは、サポートされている任意の保存形式で、ファイルに保存したり、ディスクに保存せずに他のアプリケーションに送ったり、クリップボードにコピーしたり、添付書類として電子メールで送信したりできます。

- 保存: 全般
ABBYY FineReader が備えている保存機能について説明します。
- ドキュメント プロパティ
- RTF/DOCX/ODT 形式での保存
- XLSX 形式での保存
- PDF 形式での保存
- PDF/A 形式での保存
- PDF のセキュリティ設定
PDF
形式で保存する場合に使用できるセキュリティ設定について説明します。不正にファイルを開いたり、編集や印刷を行ったりできないようにするパスワードでドキュメントを保護し、Adobe Acrobat の以前のバージョンと互換性のある暗号化レベルを選択することができます。
- HTML 形式での保存
- PPTX 形式での保存
- TXT 形式での保存
- CSV 形式での保存
- E ブックの保存
- DjVu 形式での保存
- Microsoft SharePoint への保存
- ページの画像の保存
OCR

を実行せずにページを保存する手順について説明し、画像のサイズを小さくする方法についてアドバイスを提供します。

保存：全般

[ファイル]

メニューでは、認識したテキストの保存方法をさまざまな種類から選択できます。認識したテキストを多種多様なアプリケーションに送ることも可能です。

- **[ファイル] > [FineReader ドキュメントの保存]**
現在の ABBYY FineReader
ドキュメントを保存します。認識したテキストとページ画像の両方が保存されます。
- **[ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存]**
認識したテキストを、選択した形式でご使用のハードディスクに保存します。
- **[ファイル] > [ドキュメントの送り先]**
認識したテキストを、選択したアプリケーションで開きます。ご使用のドライブに情報は保存されません。
- **[ファイル] > [Microsoft SharePoint に保存]**
認識したテキストをネットワーク上の場所に保存します。保存先は Web サイト、ポータル上、または電子ライブラリ内です。
- **[ファイル] > [電子メールで送信]**
画像または認識したテキストを電子メールで送信します。表示されたダイアログボックスで、電子メールの添付書類に必要なオプションを選択し、[OK] をクリックします。画像または認識したテキストが添付された新しい電子メールメッセージが作成されます。
- **[ファイル] > [印刷]**
現在の ABBYY FineReader ドキュメントで選択したページのテキストまたは画像を印刷します。

サポートされているアプリケーション

- Microsoft Word 2000 (9.0)、2002 (10.0)、2003 (11.0)、2007 (12.0)、および 2010 (14.0)
- Microsoft Excel 2000 (9.0)、2002 (10.0)、2003 (11.0)、2007 (12.0)、および 2010 (14.0)
- Microsoft PowerPoint 2003 (11.0) (Word、Excel、および PowerPoint 2007 形式用 Microsoft Office Compatibility Pack 付属)、2007 (12.0)、および 2010 (14.0)
- Corel WordPerfect 10.0 (2002)、11.0 (2003)、12.0、13.0、および 14.0
- Lotus Word Pro 97 および Millennium Edition
- OpenOffice.org 3.0、3.1
- Adobe Acrobat/Reader (5.0 以降)

注意：

十分な互換性を確保するために、上記のアプリケーションの最新の更新とアップグレードをインストールすることをお勧めします。

ドキュメント プロパティ

ドキュメント プロパティには、ドキュメントに関する情報が含まれています (ドキュメントの長いタイトル、作成者、件名、キーワードなど)。ドキュメント プロパティは、ファイルの分類に使用できます。また、プロパティでドキュメントを検索することも可能です。

PDF ファイルおよび多くの種類の画像を認識する際、ABBYY FineReader ではソースドキュメントのプロパティをエクスポートします。これらは後で変更できます。

ドキュメント プロパティを追加または修正するには

- [ツール] > [オプション...] をクリックします。
- [ドキュメント] タブをクリックし、[ドキュメント プロパティ グループ] でタイトル、作成者、件名およびキーワードを指定します。

RTF/DOC/DOCX/ODT 形式での保存

テキストを RTF/DOC/DOCX/ODT 形式で保存するには

- メイン ツールバーのドロップダウン リストで、ドキュメント レイアウト保存モードを選択します。
- [ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [Microsoft Word 97 - 2003 ドキュメント] またはメイン ツールバーの [保存] ボタンをクリックします。[保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、[他の形式で保存...] をクリックし、表示されたダイアログ ボックスで、必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログ ボックスで使用できます。[ツール] > [オプション...] を選択し、[保存] タブをクリックして、次に [RTF/DOC/DOCX/ODT] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

レイアウトの保持

予定している電子ドキュメントの利用方法に合わせて、次のうちから最適なオプションを選択します。

- a. 正確なコピー**
元のドキュメントの書式を持つドキュメントが作成されます。このモードは、販売促進用パンフレットなどのようにレイアウトが複雑なドキュメントに推奨されます。ただし、このオプションでは出力ドキュメントのテキストと書式を変更する機能が制限されることにご注意ください。
- b. 編集可能なコピー**
元の書式とテキストの方向をほぼ保持し、かつ編集が容易なドキュメントが作成されます。
- c. 書式付きテキスト**
フォント、フォント
サイズ、および段落は保持されますが、ページ上のオブジェクトの正確な位置やピッチは保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります
(右から左に記述するテキストは右揃えとなります)。

注意: このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

- d. テキストのみ**
[書式付きテキスト] モードとは異なり、このモードでは書式は保持されません。

既定の用紙サイズ

RTF、DOC、DOCX または ODT 形式での保存に使用する用紙サイズは、[既定の用紙サイズ] ドロップダウン リストで選択できます。

ヒント 認識したテキストが用紙サイズに確実に収まるようにするには、[内容に合わせて用紙サイズを大きくする] オプションを選択します。ABBYY FineReader では、保存の際に最適な用紙サイズを自動的に選択します。

テキスト設定

- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力テキストで欄外見出し（ヘッダーとフッター）を保持します。
- **ページ区切りを維持する**
元のページの配置を保持します。
- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。
- **行番号を維持する**
元の行番号を保持します
(ある場合)。行番号は別個のフィールドに保存され、テキストの編集時に変更されることはありません。
注意: この機能は、[正確なコピー] または [編集可能なコピー] を選択した場合のみ利用可能です。
- **テキストと背景の色を保持する**
文字の元の色を保持します。

注意: Word 6.0、7.0、および 97 (8.0) では、テキストと背景のカラーパレットが限られているため、元のドキュメントの色が Word のパレットで使用できる色で置き換えられることがあります。Word 2000 (9.0) 以降では、ソースドキュメントの色が完全に保持されます。

画像設定

多数の画像を含むドキュメントは、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、[画像品質] グループで必要なオプションを選択します。

ヒント

- 画像保存パラメータを変更するには、[カスタム...] をクリックします。[カスタム画像設定] ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストで画像を維持しない場合は、[画像を保持する] オプションを必ずクリアします。

詳細設定

[詳細] グループをクリックすると、さらに詳細ないくつかの保存オプションが使用できます。

- **不明瞭な文字を強調表示する**
認識したテキストを、ABBYY FineReader の [テキスト] ウィンドウではなく、Microsoft Word で編集するには、このオプションを選択します。不明瞭な文字は、Microsoft Word ウィンドウですべて強調表示されます。

ヒント 不明瞭な文字の色は、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション...]) の [表示] タブで変更できます。

- **他のワード プロセッサとの互換性を有効にする**
Microsoft Word の以前のバージョンと、RTF 形式をサポートするその他のワープロアプリケーションで開いて編集できるドキュメントが作成されます。

XLS/XLSX 形式での保存

テキストを XLS/XLSX 形式で保存するには

- **[ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [Microsoft Excel 97 - 2003 ドキュメント]**
またはメイン ツールバーの **[保存]** ボタンをクリックします。**[保存]**
ボタンのそばにある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックし、表示されたダイアログボックスで、必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで使用できます。**[ツール] > [オプション…]** を選択し、**[保存]** タブをクリックして、次に **[XLS/XLSX]** タブをクリックします。
次のオプションが使用できます。

- **表の外側のテキストを無視する**
表のみを保存し、他の部分は無視します。
- **数値を数字に変換する**
数字を XLS ファイルの「数値」形式に変換します。Microsoft Excel では、この形式のセルで算術演算を実行できます。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

PDF 形式での保存

テキストを PDF 形式で保存するには

- **[ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [PDF ドキュメント]** またはメイン ツールバーの **[保存]** ボタンをクリックします。**[保存]**
ボタンの横にある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックし、表示されたダイアログボックスで、必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで使用できます。**[ツール] > [オプション…]** を選択し、**[保存]** タブをクリックして、次に **[PDF]** タブをクリックします。
このタブにある保存オプションは、次のカテゴリに分けられています。

既定の用紙サイズ

[既定の用紙サイズ] ドロップダウン リストで、PDF 形式での保存に使用する用紙サイズを選択します。

保存モード

予定している電子ドキュメントの利用方法に合わせて、次のうちから最適なオプションを選択します。

- **テキストと画像のみ**
このオプションでは、認識したテキストと関連する画像のみが保存されます。ページは完全に検索可能で、PDF
ファイルのサイズは小さくなります。作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。
- **ページ画像の上にテキスト**
このオプションでは、元のドキュメントの背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF には **[テキストと画像のみ]** の PDF
より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF
ドキュメントは、完全に検索可能です。場合によって、作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。
- **ページ画像の下にテキスト**
このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置さ

れます。外見が元のドキュメントとほぼ同じで、完全に検索可能なドキュメントを作成するには、このオプションを使用します。

- **ページ画像のみ**

このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF ドキュメントは、元のドキュメントとほとんど見分けがつかませんが、検索可能なファイルにはなりません。

選択する保存モードによって、次のオプションのうちいくつかが使用できるようになります。

- **テキストと背景の色を保持する**

PDF を保存する際に文字色と背景を保持するには、このオプションを選択します。

- **ヘッダーとフッターを維持する**

出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

- **タグ付き PDF (Adobe Acrobat 5.0 以上と互換) を有効にする**

出力される PDF ドキュメントに PDF タグを付加するには、このオプションを選択します。

この PDF

ファイルには、テキストと画像のほかに、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含めることができます。この情報は、PDF タグの中に符号化されます。PDF タグを備えた PDF ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてテキストのレイアウトを変更できるため、携帯用機器でも適切に表示されます。

重要事項

認識したテキストにヘブライ語またはイディッシュ語のテキストが含まれている場合は、タグ付き PDF ファイルを作成することはできません。

- **MRC (Mixed Raster Content) を使用する**

高率で圧縮されたドキュメントでテキストと画像の表示品位を保持するには、このオプションを選択します。

- **輪郭を作成する**

ドキュメントの見出しから目次を作成する場合は、このオプションを選択します。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合や、認識したテキストと共にページ画像を保存する場合、作成されるファイルは非常に大きくなります。作成されるファイルのサイズと画像の品質を調整するには、**[画像設定]** ドロップダウン リストでいずれかのオプションを選択します：

- **高品質 (印刷用)**

画像またはページ画像の品質を保持するには、このオプションを選択します。ソース画像の解像度が保持されます。

- **バランス保持**

PDF

ファイルのサイズを小さくすると同時に、画像またはページ画像の品質をある程度高いレベルに維持するには、このオプションを選択します。

- **コンパクトなサイズ**

サイズの小さな PDF

ファイルを得るには、このオプションを選択します。画像とページ画像の解像度が 150 dpi に下げられ、品質に影響が及びます。

- **カスタム...**

[カスタム画像設定] ダイアログ

ボックスで、画像とページ画像についてユーザー独自の設定を行うには、このオプションを選択します。

ヒント 認識したテキストの中の画像を保存しない場合は、[**画像を保持する**] オプションが選択されていないことを確認します。

フォント設定

テキストを PDF 形式で保存する場合は、ご使用のシステムにインストールされている Adobe フォントまたは Windows フォントが使用できます。使用するフォントセットを指定するには、[**フォント**] ドロップダウン リストで次のいずれかを選択します。

- **定義済みフォントを使用**
PDF ファイルには Times New Roman、Arial、Courier New などの Adobe フォントが使用されます。
- **Windows フォントを使用**
PDF ファイルには、ご使用のコンピュータにインストールされている Windows フォントが使用されます。

PDF ドキュメントで埋め込みフォントを使用しない場合は、[**フォントを埋め込む**] オプションがクリアされていることを確認します。

セキュリティ

パスワードを使用して、不正に開かれたり、印刷や編集が行われたりしないように PDF ドキュメントを保護することができます。

- [**PDF のセキュリティ設定...**] ボタンをクリックし、ダイアログボックスで必要なセキュリティ設定を選択します。

PDF/A 形式での保存

表示品位を維持し、完全なテキスト検索機能を持つ PDF ドキュメント、またはアーカイブに保存するドキュメントを作成する場合は、PDF/A 保存形式を選択します。

テキストを PDF/A 形式で保存するには

- [**ファイル**] > [**名前を付けてドキュメントを保存**] > [**PDF/A ドキュメント**] またはメインツールバーの [**保存**] ボタンをクリックします。[**保存**] ボタンのそばにある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、[**他の形式で保存...**] をクリックし、表示されたダイアログボックスで必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、[**オプション**] ダイアログボックスで使用できます。[**ツール**] > [**オプション...**] を選択し、[**保存**] タブをクリックして、次に [**PDF/A**] タブをクリックします。このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

既定の用紙サイズ

[**既定の用紙サイズ**] ドロップダウン リストで、PDF 形式での保存に使用する用紙サイズを選択します。

保存モード

予定している電子ドキュメントの利用方法に合わせて、次のうちから最適なオプションを選択します。

- **テキストと画像のみ**
このオプションでは、認識したテキストと関連する画像のみが保存されます。ページは完全に検索可能で、PDF

ファイルのサイズは小さくなります。作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。

- **ページ画像の上にテキスト**

このオプションでは、元のドキュメントの背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF には **テキストと画像のみの PDF**

より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF

ドキュメントは、完全に検索可能です。場合によって、作成されるドキュメントの外観は、元のドキュメントとわずかに異なります。

- **ページ画像の下にテキスト**

このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置されます。外見が元のドキュメントとほぼ同じで、完全に検索可能なドキュメントを作成するには、このオプションを使用します。

- **ページ画像のみ**

このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF

ドキュメントは、元のドキュメントとほとんど見分けがつかませんが、検索可能なファイルにはなりません。

選択する保存モードによって、次のオプションのうちいくつかが使用できるようになります。

- **テキストと背景の色を保持する**

PDF を保存する際に文字色と背景を保持するには、このオプションを選択します。

- **ヘッダーとフッターを維持する**

出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

- **タグ付き PDF (Adobe Acrobat 5.0 以上と互換) を有効にする**

出力される PDF ドキュメントに PDF タグを付加するには、このオプションを選択します。

この PDF

ファイルには、テキストと画像のほかに、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含めることができます。この情報は、PDF タグの中に符号化されます。PDF タグを備えた PDF

ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてテキストのレイアウトを変更できるため、携帯端末でも適切に表示されます。

重要事項

認識したテキストにヘブライ語またはイディッシュ語のテキストが含まれている場合は、タグ付き PDF ファイルを作成することはできません。

- **MRC (Mixed Raster Content) を使用する**

高率で圧縮されたドキュメントでテキストと画像の表示品位を保持するには、このオプションを選択します。

- **輪郭を作成する**

ドキュメントの見出しから目次を作成する場合は、このオプションを選択します。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合や、認識したテキストと共にページ画像を保存する場合、作成されるファイルは非常に大きくなります。作成されるファイルのサイズと画像の品質を調整するには、**[画像設定]** ドロップダウン リストでいずれかのオプションを選択します：

- **高品質 (印刷用)**

画像またはページ画像の品質を保持するには、このオプションを選択します。ソース画像の解像度が保持されます。

- **バランス保持**

PDF

ファイルのサイズを小さくすると同時に、画像またはページ画像の品質をある程度高いレベルに維持するには、このオプションを選択します。

- **コンパクトなサイズ**
サイズの小さな PDF
ファイルを得るには、このオプションを選択します。画像とページ画像の解像度が 150 dpi に下げられ、品質に影響が及びます。
- **カスタム…**
[カスタム画像設定] ダイアログ
ボックスで、画像とページ画像についてユーザー独自の設定を行うには、このオプションを選択します。

ヒント 認識したテキストの中の画像を保存しない場合は、[**画像を保持する**] オプションが選択されていないことを確認します。

PDF のセキュリティ設定

認識したテキストを PDF 形式で保存する場合、次の方法で PDF ドキュメントの内容を保護することができます。

1. ドキュメントを開くために必要なパスワードを使用する
2. ドキュメントの修正や印刷を行ったり、情報を他のアプリケーションにコピーしたりするために必要なパスワードを使用する
3. 暗号化を行う


パスワードおよびその他の PDF セキュリティ パラメータは、[PDF のセキュリティ設定] ダイアログ ボックスで設定します。

このダイアログ ボックスを開くには、[オプション] ダイアログ ボックス（[ツール] > [オプション…]）の **保存** > [PDF] タブの下部にある [PDF のセキュリティ設定…] ボタンをクリックします。

ドキュメントを開くためのパスワード

このパスワードは、PDF ドキュメントが不正に開かれることがないように保護します。ユーザーは、作成者が指定したパスワードを入力した後でのみ、ドキュメントを開くことができます。

ドキュメントを開くために必要なパスワードを設定するには


1. [ドキュメントを開くパスワードを要求する] を選択します。
2.  をクリックします。
3. [ドキュメントを開くパスワードの入力] ダイアログ
ボックスで、パスワードの入力と確認を行います。

指定したパスワードは、[PDF のセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの [ドキュメントを開くパスワード] フィールドにドットとして表示されます。

ドキュメントの編集および印刷を行うためのパスワード

このパスワードは、不正な編集および印刷のほか、他のアプリケーションへの情報のコピーができないように PDF ドキュメントを保護します。ユーザーは、作成者が指定したパスワードを入力した後でのみ、上記の操作を行うことができます。

ファイルの内容にアクセスするために必要なパスワードを設定するには

1. [ドキュメントおよびそのセキュリティ設定の印刷と編集を制限する] を選択します。
2.  をクリックします。
3. [アクセス許可パスワードの入力] ダイアログボックスで、パスワードの入力と確認を行います。

指定したパスワードは、[PDF のセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの [アクセス許可パスワード] フィールドにドットとして表示されます。

次に、PDF

ドキュメントを使用して行う操作のうち、ユーザーに許可するものを選択します。これらの制限は、[アクセス許可設定] グループで設定します。

- [印刷を許可する] ドロップダウンリストの項目を使用すると、ドキュメントの印刷を許可または禁止できます。
- [変更を許可する] ドロップダウンリストの項目を使用すると、ドキュメントの編集を許可または禁止できます。
- [テキスト、画像、その他の内容のコピーを可能にする] オプションを選択すると、ユーザーが PDF ドキュメントの内容（テキストと画像）をクリップボードにコピーできるようになります。このような操作を禁止する場合は、このオプションがクリアされていることを確認します。
- [スクリーン リーダー デバイスのテキストへのアクセスを可能にする] オプションを選択すると、ユーザーは開いた PDF ドキュメントのスクリーンショットを作成できるようになります。このような操作を禁止する場合は、このオプションがクリアされていることを確認します。このオプションは、128 ビット以上の暗号化が行われた PDF ドキュメントにのみ使用できることにご注意ください。

暗号化レベル

[暗号化レベル] ドロップダウン リストの項目を使用すると、パスワードで保護された PDF ドキュメントの暗号化の種類を設定できます。

いずれかの暗号化レベルを選択します。

- **低 (40 ビット) - Adobe Acrobat 3.0 以上と互換** RC4 標準に基づいて 40 ビットの低い暗号化レベルを設定します。
- **高 (128 ビット) - Adobe Acrobat 5.0 以上と互換** RC4 標準に基づいて 128 ビットの高い暗号化レベルを設定します。ただし、Adobe Acrobat の以前のバージョンのユーザーは、この PDF ドキュメントを開くことはできません。
- **高 (128 ビット AES) - Adobe Acrobat 7.0 以上と互換** AES 標準に基づいて 128 ビットの高い暗号化レベルを設定します。ただし、Adobe Acrobat の以前のバージョンのユーザーは、この PDF ドキュメントを開くことはできません。

HTML 形式での保存

テキストを HTML 形式で保存するには

- メイン ツールバーのドロップダウン リストで、ドキュメント レイアウト保存モードを選択します。

- **[ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [HTML ドキュメント]** またはメインツールバーの **[保存]** ボタンをクリックします。 **[保存]** ボタンのそばにある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックし、表示されたダイアログボックスで、必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで使用できます。 **[ツール] > [オプション…]** を選択し、 **[保存]** タブをクリックして、次に **[HTML]** タブをクリックします。
このタブにある保存オプションは、次のカテゴリに分けられています。

レイアウトの保持

予定している電子ドキュメントの利用方法に合わせて、適切なオプションを選択します。

- **柔軟なレイアウト**
元のドキュメントの書式を持つドキュメントが作成されます。出力ドキュメントは簡単に編集できます。
- **書式付きテキスト**
フォント、フォントサイズ、および段落は保持されますが、ページ上のオブジェクトの正確な位置やピッチは保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります。(右から左に記述するテキストは右揃えとなります。)

注: このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

- **テキストのみ**
このモードでは書式は保持されません。

CSS を使用する

ファイルを HTML 4 形式で保存するには、このオプションを選択します。この形式では、HTML ファイルに組み込まれたスタイル表を使用して、ドキュメントレイアウトを維持することができます。

保存モード

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。
- **テキストと背景の色を保持する**
文字の元の色を保持します。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

画像設定

多数の画像を含むドキュメントは、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、**[画像品質]** グループで必要なオプションを選択します。

ヒント :

- 画像保存パラメータを変更するには、**[カスタム…]** をクリックします。 **[カスタム画像設定]** ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、 **[OK]** をクリックします。
- 認識したテキストで画像を維持しない場合は、 **[画像を保持する]** オプションを必ずクリアします。

文字エンコード

ABBYY FineReader 11 ユーザーズガイド

ABBYY FineReader ではコード ページを自動的に検出します。コード ページまたはその種類を変更するには、[文字エンコード] の項目のドロップダウン リストから必要なコード ページまたはコード ページの種類を選択します。

ブック設定

印刷された本を電子的な形式に変換する場合は、**ブック設定**を調整します。ABBYY FineReader では、本の章を個別の HTML ファイルに自動的に保存し、目次から各章へのリンクを作成することができます。また、レベル 1 またはレベル 2 の見出しに基づいてドキュメントを個別の HTML ファイルに分割することもできます。

PPTX 形式での保存

テキストを PPTX 形式で保存するには

- [ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [Microsoft PowerPoint プレゼンテーション] またはメイン ツールバーの [保存] ボタンをクリックします。[保存] ボタンのそばにある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がない場合は、[他の形式で保存...] をクリックし、表示されたダイアログ ボックスで、必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログ ボックスで使用できます。[ツール] > [オプション...] を選択し、[保存] タブをクリックして、次に [PPTX] タブをクリックします。このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

テキスト設定

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。
- **テキストを折り返す**
認識したすべてのテキストがスライドのテキスト ブロックの内部に完全に収まります。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

画像設定

多数の画像を含むドキュメントは、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、[画像品質] グループで必要なオプションを選択します。

ヒント:

- 画像保存パラメータを変更するには、[カスタム...] をクリックします。[カスタム画像設定] ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストで画像を維持しない場合は、[画像を保持する] オプションを必ずクリアします。

TXT 形式での保存

テキストを TXT 形式で保存するには

- [ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [テキスト ドキュメント] またはメイン ツールバーの [保存] ボタンをクリックします。[保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、リストから保存形式を選択します。リストに適切な形式がな

い場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックし、表示されたダイアログボックスで必要な形式を選択します。

ヒント その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログ ボックスで使用できます。**[ツール]** > **[オプション…]** を選択し、**[保存]** タブをクリックして、次に **[TXT]** タブをクリックします。このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

レイアウトの保持

予定している電子ドキュメントの利用方法に合わせて、次のうちから最適なオプションを選択します。

a. 書式付きテキスト

段落は保持されますが、行間隔とオブジェクトの正確な位置は保持されません。また、段落のインデントと表を再現するために空白スペースが使用されます。作成されたテキストは左揃えとなります（右から左に記述するテキストは右揃えとなります）。

注意 このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

b. テキストのみ

[書式付きテキスト] モードとは異なり、このモードでは書式は保持されません。

テキスト設定

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。
- **ページ区切りとしてページ区切り文字（#12）を挿入する**
元のページの配置を保存します。
- **段落区切りとして改行を使用する**
空白行で段落を区切ります。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力ドキュメントでヘッダーとフッターを保持します。

文字エンコーディング

ABBYY FineReader ではコード ページが自動的に検出されます。コード ページまたはその種類を変更するには、**[文字エンコーディング]** の下にあるドロップダウン リストから任意のコード ページまたはコード ページの種類を選択します。

CSV 形式での保存

テキストを CSV 形式で保存するには

- メイン ツールバーの **[保存]** ボタンのそばにある矢印をクリックするか、または **[ファイル]** > **[名前を付けてドキュメントを保存]** > **[CSV ドキュメント]** をクリックします。

ヒント その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで使用できます。**[ツール]** > **[オプション…]** を選択し、**[保存]** タブをクリックして、次に **[CSV]** タブをクリックします。このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

テキスト設定

- **表の外側のテキストを無視する**
表のみを保存し、他の部分は無視します。
- **ページ区切りとしてページ区切り文字（#12）を挿入する**
元のページの配置を保存します。
- **フィールド区切り**
CSV ファイルのデータ列を区切る文字を選択します。

文字エンコード

ABBYY FineReader ではコード ページを自動的に検出します。コード ページまたはその種類を変更するには、[文字エンコード] の項目のドロップダウン リストから必要なコード ページまたはコード ページの種類を選択します。

E ブックの保存

テキストを FB2 形式または ePub 形式で保存するには

- メイン ツールバーで、ドロップダウン リストから **[書式付きテキスト]** を選択します。
- [ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [FictionBook (FB2)] または > [Electronic Publication (EPUB)] を選択します。または、メイン ツールバーの保存ボタンも使用できます。保存ボタンの横にある矢印をクリックし、形式を選択します。必要な形式がリストにない場合は、[他の形式で保存...] を選択し、[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスで必要な形式を選択します。

ヒント [オプション] ダイアログ ボックスの [E ブック] タブで、他の保存オプションを追加して選択できます ([ツール] > [オプション...] > [保存] > [FB2/EPUB])。このタブでは次のオプションが選択できます。

ドキュメント設定

ここでは、タイトル、作成者、キーワードなどのドキュメントに関する詳細情報を指定できます。また、[注記] フィールドにコメントを入力することもできます。

画像設定

テキストに非常に多数の画像が含まれている場合、作成されるファイルはかなり大きくなります。画像の品質と作成されるファイルのサイズは、[画像設定] ドロップダウン リストのオプションを使用して微調整できます。

ヒント

- 独自の画像設定を指定するには、[カスタム...] を選択します。[カスタム画像設定] ダイアログ ボックスで必要な設定を行い、[OK] をクリックします。
- 画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションをクリアします。

レイアウトの保持

予定しているドキュメントの利用方法に合わせて、レイアウトを保持する方法を選択します。

- **書式付きテキスト**
段落は保持されますが、オブジェクトの正確な位置と行間隔は保持されません。テキストは連続して左揃えになります（右から左方向に書かれているテキストは右揃えになります）。

注意: このオプションを選択すると、縦書きのテキストはすべて横向きに表示されます。

ePub 形式で保存する場合は、**[フォントとフォント サイズを保存する]**を選択して、フォントとフォント サイズを保存することもできます。

- **テキストのみ**
テキストの書式は保持されません。

最初のページを表紙として使用する

このオプションを選択すると、ドキュメントの最初のページが E ブックの表紙に配置されます。

フォントを埋め込む

このオプションを選択すると、保存されたフォントが E ブックに埋め込まれます。

DjVu 形式での保存

テキストを DjVu 形式で保存するには

- **[ファイル] > [名前を付けてドキュメントを保存] > [DjVu ドキュメント]**を選択します。または、メイン ツールバーの保存ボタンも使用できます。保存ボタンの横にある矢印をクリックし、形式を選択します。必要な形式がリストにない場合は、**[他の形式で保存…]**を選択し、**[名前を付けて保存]**ダイアログ ボックスで必要な形式を選択します。

ヒント **[オプション]** ダイアログ ボックスの **[DjVu]**

タブで、他の保存オプションを追加して選択できます (**[ツール] > [オプション…]** > **[保存] > [DJVU]**)。

このタブでは次のオプションが選択できます

保存モード

予定しているドキュメントの利用方法に合わせて、保存方法を選択します。

- **ページ画像の下にテキスト**
ページの画像を保存し、画像の下目の見えない別個のレイヤーに、認識したテキストを配置します。この方法により、外観が原稿とほとんど同じで、検索可能な DjVu ドキュメントが得られます。
- **ページ画像のみ**
ページの画像を保存します。出力ドキュメントの外観は原稿とほとんど同じになりますが、ドキュメント中のテキストは検索できません。

複数のレイヤー

DjVu

形式では特別な圧縮技術を使用し、ページ画像を複数のレイヤーに分けて、それぞれのレイヤーを異なる方法で圧縮します。既定では、ページに複数レイヤー圧縮を使用する必要があるかどうか自動的に決定されます (**[複数のレイヤー]** ドロップダウン リストで **[自動]** オプションが選択されている)。ドキュメントの複数レイヤー圧縮は、有効または無効にできます。

テキストに非常に多数の画像が含まれている場合、作成されるファイルはかなり大きくなります。画像の品質と作成されるファイルのサイズは、**[画像設定]** ドロップダウン リストのオプションを使用して微調整できます。

ヒント 独自の画像設定を指定するには、**[カスタム…]**を選択します。**[カスタム画像設定]**ダイアログ ボックスで必要な設定を行い、**[OK]** をクリックします **画像設定**

Microsoft SharePoint への保存

(ABBYY FineReader Corporate Edition のみ)

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

ABBYY FineReader では、認識したテキストを Web サイト、オンラインライブラリなどのネットワーク リソースに保存することができます。

認識したテキストを Microsoft SharePoint に保存するには

1. [ファイル] メニューで、[Microsoft SharePoint に保存…] をクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで、ファイル名、形式、ファイルを保存するネットワークフォルダ、およびファイル オプションを指定します。
3. [保存] をクリックします。

重要事項

- ご使用のコンピュータに **Microsoft Office SharePoint Portal Server Client Components** がインストールされており、**Web Client** が起動していることを確認してください。
- **http://Server/share** のようなアドレスで作業を行う場合、ネットワーク上にすでに存在しているファイルを置き換えることはできません。

ページの画像の保存

1 つまたは複数の画像を保存するには

1. [ページ] ウィンドウでページを選択します。
2. [ファイル] メニューで、[画像の保存…] をクリックします。
3. [名前を付けて画像を保存] ダイアログボックスで、ファイルを保存するディスクとフォルダを選択します。
4. 画像を保存するグラフィック形式を選択します。

重要事項 複数のページを 1 つのファイルに保存する場合は、TIF 形式を選択し、[複数ページの画像ファイルとして保存する] を選択します。

5. ファイル名を指定し、[保存] をクリックします。

ヒント

保存の際に、画像形式と圧縮方法を選択できます。画像圧縮を行うと、ファイルサイズを縮小できます。画像圧縮に使用される方法は、圧縮率とデータロスがそれぞれ異なります。圧縮方法を選択する際の 2 つの重要な要因は、圧縮後の画像品質とファイル サイズです。

TIF 形式で保存する場合の画像圧縮方法の選択...

ABBYY FineReader では、次の圧縮方法が使用できます。

- **ZIP - データ**
ロスがなく、大きな単色部分を含む画像に使用されます。たとえば、スクリーンショットやモノクロ画像にこの方法を使用します。
- **JPEG -**
写真などの、グレースケールおよびカラーの画像に使用します。この方法では高密度の圧縮が可能ですが、データ ロスと画像品質の低下（不鮮明な輪郭と色彩の劣化）を引き起こします。
- **CCITT グループ 4 - データ** ロスがなく、グラフィックプログラムで作成されたモノクロ画像やスキャン画像に使用されます。**CCITT グループ 4** による圧縮は広く普及しており、ほぼすべての画像に適用されています。

- **パックビット** - データ ロスがなく、スキャンしたモノクロ画像に使用されます。
- **LZW** - データ ロスがなく、グラフィックおよびグレースケール画像に使用されます。

拡張機能

トピック

- 他のアプリケーションでの作業
- 領域テンプレートの使用
- 調整を伴う認識
- ユーザー言語と言語グループ
- LAN でのグループ作業
- ABBYY Hot Folder


他のアプリケーションでの作業

ABBYY FineReader 11 をインストールする際に、Microsoft Office アプリケーションおよび Windows エクスプローラとの統合を選択できます。統合とは、次のことを意味します。

- Microsoft Word、Microsoft Excel、および Microsoft Outlook で **ABBYY FineReader 11** ツールバーが表示されます。
- Windows エクスプローラで **ABBYY FineReader 11** オプションがサポートされているフォーマットのショートカット メニューに表示されます。

通常の Microsoft Office ツールを使用して認識結果の確認と編集が行えます。また、クイックタスクやカスタムの自動タスクを起動し、Windows エクスプローラから画像や PDF ファイルを直接開くこともできます。

Microsoft Office アプリケーションでドキュメントの OCR を実行するには

1. **ABBYY FineReader 11** バーで  ボタンをクリックします。
2. ダイアログ ボックスで、オプションにチェックを付けて **開始** をクリックします。

ABBYY FineReader が起動し、OCR プロセスが完了すると、現在の Microsoft Office アプリケーションで認識されたテキストが開きます。

Windows エクスプローラから画像または PDF ファイルを開くには

1. Windows エクスプローラ ファイルを選択します。
2. ファイルのショートカット メニューから **ABBYY FineReader 11** > **ABBYY FineReader で開く** を選択します。

注:

このコマンドは、このプログラムでサポートされている形式のファイルを選択した場合にのみ表示されます。

ABBYY FineReader 11 が起動し、選択した画像が新しい ABBYY FineReader ドキュメントに追加されます。ABBYY FineReader 11 がすでに実行中である場合は、画像は現在の ABBYY FineReader ドキュメントに追加されます。

ABBYY FineReader ボタンが Microsoft Office アプリケーションのツールバーに表示されない場合...

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

ABBYY FineReader 11 パネルが Microsoft Office アプリケーションのツールバーに表示されない場合は

- アプリケーションのツールバーのショートカット メニューで **[ABBYY FineReader 11]** を選択します。

ショートカット メニューで **[ABBYY FineReader 11]** オプションが利用できない場合は、カスタム インストールの際に **Microsoft Office** アプリケーションとの ABBYY FineReader 11 の統合が無効にされたことを意味します。

統合を有効にするには

1. **[プログラムの追加と削除]**（**[スタート]** > **[設定]** > **[コントロール パネル]**）に移動します。

注: Microsoft Windows Vista および Windows 7 では、このコマンドは「**プログラムと機能**」と呼ばれます。

2. インストールされているプログラムのリストから **[ABBYY FineReader 11]** を選択し、**[変更]** をクリックします。
3. **[カスタム インストール]** ダイアログ ボックスで、適切なコンポーネントを選択します。
4. セットアップの指示に従います。

領域テンプレートの使用

レイアウトが同じ多数のドキュメント（フォームやアンケート用紙など）を処理する場合、ページごとにレイアウトを分析すると時間がかかります。時間を節約するには、類似した一連のドキュメントのうち 1 部のみを分析し、検出した領域をテンプレートとして保存することができます。その後、このテンプレートを同じセットの他のドキュメントに使用できます。

領域を作成するには

1. 画像を開き、プログラムでレイアウトを自動的に分析するか、または必要な領域を手動で描画します。
2. **[領域]** メニューから **[領域テンプレートを保存…]** コマンドを選択します。保存ダイアログ ボックスで、テンプレートの名前を入力し、**[保存]** をクリックします。

重要事項

領域テンプレートを使用できるようにするには、一連のドキュメントをすべて同じ解像度を使用してスキャンする必要があります。

領域テンプレートの適用

1. **ページ]** ウィンドウで、領域テンプレートを適用するページを選択します。
2. **[領域]** メニューから **[領域テンプレートを読み込む…]** を選択します。
3. **[領域テンプレートを開く]** ダイアログ ボックスで、必要な領域テンプレートを選択します（領域テンプレート ファイルには、*.blk の拡張子が付いています）。
4. 同じダイアログ ボックスで、**[適用先]** の横にある **[選択したページ]** を選択し、選択したページにテンプレートを適用します。

注: 現在の ABBYY FineReader ドキュメントのすべてのページにテンプレートを適用するには、**[すべてのページ]** を選択します。

5. [開く] ボタンをクリックします。

調整を伴う認識

調整モードは次のような場合に使用します。

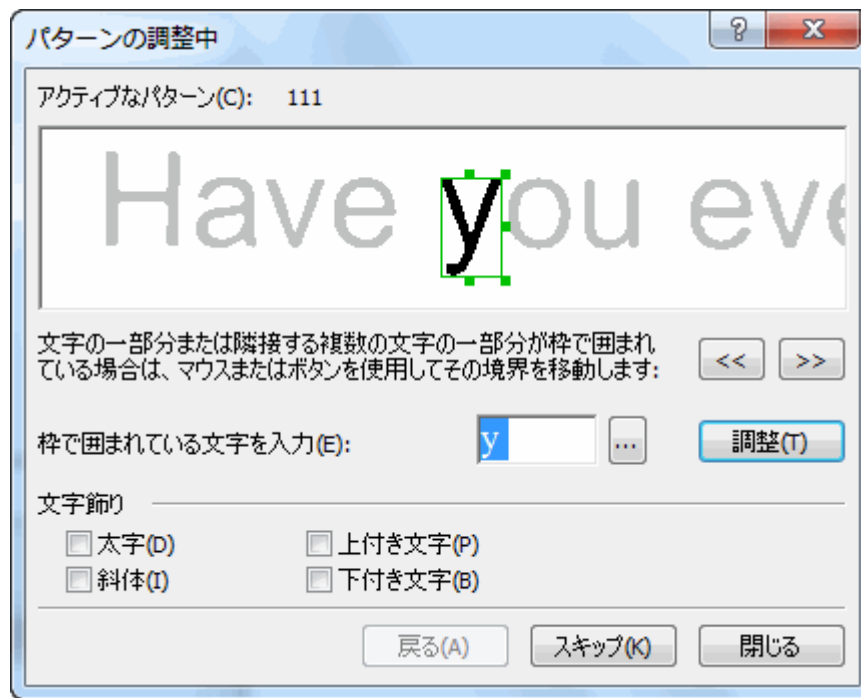
- テキストに修飾的なフォントが設定されている
- テキストに特殊な文字が含まれている（数学記号など）
- 印刷品質が低く、長い（100 ページ以上）ドキュメント

調整モードは、上記の条件が該当する場合に限って使用してください。その他の場合は、認識品質が多少向上しても、処理時間が大幅に長くなるため、利点が少なくなります。詳細については、「装飾的な（標準以外の）フォントを含む紙文書」を参照してください。

- ユーザー パターンの調整
ユーザー パターンを調整する方法と、文字と合字の調整に関する追加情報について説明します。
- ユーザー パターンの選択
ユーザー
パターンを選択する方法と、適切な選択を行うための補足的なヒントについて説明します。
- ユーザー パターンの編集
ユーザー パターン内の文字を表示する方法と、文字飾りを変更する方法について説明します。

ユーザー パターンの調整

1. [ツール] > [オプション…] を選択し、[読み取り] タブをクリックします。
2. [調整] の項目で [ユーザー パターンとビルトイン パターンを使用する] または [ユーザー パターンのみを使用する] を選択します。
3. [調整を伴う読み取り] オプションを選択します。
4. [パターン エディタ…] ボタンをクリックします。
注意: パターン調整は、アジア言語についてはサポートされていません。
5. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスで、[新規…] をクリックします。
6. [パターンの作成] ダイアログ ボックスで新しいパターンの名前を入力し、[OK] をクリックします。
7. [パターン エディタ] および [オプション] ダイアログ ボックスで、[OK] ボタンをクリックして各ダイアログ ボックスを閉じます。
8. [画像] ウィンドウの上部にあるツールバーで、[読み取り] をクリックします。
これで、不明な文字が見つかった場合は [パターン調整] ダイアログ ボックスにその不明な文字が表示されるようになります。



9. 新しい 文字と合字の調整を行います。

合字とは、2 つまたは 3 つの「密着した」文字の組み合わせです (fi、fl、ffi など)。これらの文字は「密着して」印刷されるため、分割は困難です。実際には、これらの文字を 1 つの複合文字として取り扱うことによって、よりよい結果が得られます。


注意:

テキスト内で太字または斜体で書かれた単語、または上付き文字/下付き文字の単語は、[文字飾り] の項目で対応するオプションを選択することにより、認識したテキストで保持できます。

前に調整した文字に戻るには、[戻る]

ボタンをクリックします。枠が前の位置に移動し、直前に調整した「文字画像とキーボード文字」の組み合わせがパターンから削除されます。[戻る] ボタンは 1 つの単語内でのみ動作します。

重要事項

- システムによって読み取られるように調整できるのは、認識言語のアルファベットに含まれる文字のみです。キーボードで入力できない文字を ABBYY FineReader で読み取るように調整するには、2 つの文字の組み合わせを使用して、存在しないそれらの文字を表すか、または [文字の挿入] ダイアログ ボックスから必要な文字をコピーします (ダイアログ ボックスを開くには  をクリック)。
- 各パターンには新しい文字を 1,000 字まで含めることができます。ただし、OCR 品質を低下させる可能性があるため、合字を多く作りすぎないようにしてください。

ユーザー パターンの選択

ABBYY FineReader では、パターンを使用して OCR 品質を向上させることができます。

- [ツール] メニューで、[パターン エディタ...] を選択します。
- [パターン エディタ] ダイアログボックスで、利用可能なパターンのリストから必要なパターンを選択して [アクティブに設定] をクリックします。

覚えておくべき重要なポイント

1. 類似しているものの、多様な一部の文字を区別する代わりに、ABBYY FineReader ではそれらの文字を 1 つの同じ文字として認識します。たとえば、直線 (‘)、左向き (‘)、および右向き (’) の引用符は、1 つの文字 (直線の引用符) としてパターンに保存されます。これは、左向きと右向きの引用符が、たとえユーザーが調整を行おうとしても、認識されたテキストでは決して使用されないことを意味します。
2. 一部の文字画像の場合、ABBYY FineReader では前後の文脈に基づいて、対応するキーボード文字を選択します。たとえば、小さな円の画像は、前後に文字があれば文字「0」として認識され、前後に数字があれば、数字「0」として認識されます。
3. パターンは、そのパターンの作成に使用されたものと同じフォント、フォント サイズ、および解像度のドキュメントにのみ使用できます。
4. パターンを後で使用するためには、ファイルに保存します。詳細については、「FineReader ドキュメントでの作業」を参照してください。
5. 異なるフォントのテキスト セットを認識するには、[ツール] > [オプション...] > [読み取り] で [ビルトイン パターンのみを使用する] オプションを選択して、ユーザー パターンを必ず無効にしてください。

ユーザー パターンの編集

新たに作成したパターンを、OCR

プロセスを起動する前に編集することができます。不適切な調整が行われたパターンは、OCR 品質にマイナスの影響を及ぼすことがあります。パターンには、完全な文字または合字のみを含める必要があります。端が切り取られた文字や、対応関係の正しくない文字は、パターンから削除してください。

1. [ツール] メニューで、[パターン エディタ...] を選択します。
2. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスで、必要なパターンを選択して [編集...] ボタンをクリックします。
3. [ユーザー パターン] ダイアログ ボックスで、必要な文字を選択して [プロパティ...] ボタンをクリックします。
ダイアログ ボックスで、選択した文字に対応する文字を入力し、必要な文字飾り (斜体、太字、上付き文字、または下付き文字) を選択します。

不適切な調整が行われた文字を削除するには、該当する文字を選択し、[削除] ボタンをクリックします。

ユーザー言語と言語グループ

本プログラムに含まれている、あらかじめ定義された言語とグループに加えて、ユーザー独自の認識言語と言語グループを作成できます。

- OCR 言語の作成
この機能は、コード番号などの一般的ではない要素を多く含むテキストを処理するために使用します。
- 言語グループの作成
この機能は、あらかじめ定義された言語の組み合わせには入っていない複数の言語で書かれたドキュメントを認識するために使用します。

OCR 言語の作成

ドキュメントの OCR を実行する際、ABBYY FineReader

ではドキュメントの言語に関する情報の一部を使用します (この言語は、メイン ウィンドウの

〔ドキュメントの言語〕 ドロップダウン

リストで選択する必要があります)。テキスト内に一般的ではない略語や単語が多数あると、正しく認識できないことがあります。このような場合には、そのドキュメントのためにユーザー独自の認識言語を作成できます。

1. 〔ツール〕メニューで、〔言語エディタ…〕を選択します。
2. 〔言語エディタ〕ダイアログボックスで、〔新規…〕をクリックします。
3. 〔新しい言語またはグループ〕ダイアログボックスで、〔既存の言語に基づいて新しい言語を作成する〕を選択し、下のドロップダウンリストから必要な言語を選択します。〔OK〕をクリックします。
4. 〔言語のプロパティ〕ダイアログボックスで、新しい OCR 言語のプロパティを指定します。
 - a. **言語名** - このフィールドに OCR 言語の名前を入力します。
 - b. **ソース言語** - 新しい OCR 言語が基本にする言語です。(〔新しい言語またはグループ〕ダイアログボックスで選択した言語が表示されます。他の言語を選択するには、右側にある矢印をクリックします。)
 - c. **アルファベット** - ソース言語のアルファベットの文字が一覧表示されます。文字を追加または削除するには、〔…〕をクリックします。
 - d. **辞書** - ドキュメントの OCR を実行し、認識したテキストを確認するために ABBYY FineReader が使用する辞書です。次のオプションが使用できます。
 - **なし**
辞書は使用されません。
 - **組み込み辞書**
ABBYY FineReader に付属の辞書が使用されます。
 - **ユーザー辞書**
ユーザー辞書が使用されます。辞書に単語を追加したり、Windows (ANSI) または Unicode エンコードの既存のユーザー辞書またはテキストファイルをインポートしたりするには、〔編集…〕ボタンをクリックします。インポートするテキストファイルにある単語は、スペースまたはその他のアルファベット以外の文字で区切られている必要があります。

注: ユーザー辞書からの単語は、認識されたテキストで次の形で出現可能です: 1) 小文字のみ、2) 大文字のみ、3) 語頭のみ大文字、4) ユーザー辞書でのスペルどおり。この 4 つの形をまとめると、次の表のようになります。

辞書でのスペルどおりの単語	テキスト内で出現する可能性のある形
abc	abc, Abc, ABC
Abc	abc, Abc, ABC

ABC	abc, Abc, ABC
aBc	aBc, abc, Abc, ABC

- **正規表現**
正規表現を使用して、新しい言語を作成できます。
- e. **詳細…** - **「言語の詳細プロパティ」** ダイアログ
ボックスが開き、言語についてさらに詳細なプロパティを指定できます。
 - 単語の語頭または語尾に出現できる文字以外の記号
 - 独立した文字以外の記号（句読点など）
 - 単語内で出現した場合、無視される文字
 - その言語で書かれたテキストで出現することのない禁止文字
 - 認識される言語のすべての文字
 - テキストにはアラビア数字、ローマ数字、略語が含まれている可能性があります。
- 5. 新しい言語の作成が完了したら、ドキュメントの認識言語として選択します。

既定では、ユーザー言語は「ABBYY FineReader ドキュメント」フォルダに保存されます。また、すべてのユーザー言語およびユーザー パターンを 1 つのファイルに保存することもできます：「ツール」>「オプション…」を選択して「読み取り」タブをクリックし、次に「ファイルに保存…」ボタンをクリックします。

言語グループの作成

特定の言語の組み合わせを定期的に使用する場合は、便宜のためにその言語をグループにまとめることができます。

1. 「ツール」メニューで、「言語エディタ…」を選択します。
2. 「言語エディタ」ダイアログ ボックスで、「新規…」をクリックします。
3. 「新しい言語またはグループ」ダイアログ ボックスで、「新しい言語グループを作成する」を選択し、「OK」をクリックします。
4. 「言語グループのプロパティ」ダイアログ
ボックスで、新しいグループの名前を入力し、必要な言語を選択します。

注：

テキストに特定の文字が含まれていないことが分かっている場合は、それらの文字を禁止文字として明確に指定できます。禁止文字を指定することにより、認識の速度と品質を高めることができます。禁止文字を指定するには、「言語グループのプロパティ」ダイアログボックスで「詳細…」ボタンをクリックします。「言語グループの詳細プロパティ」ダイアログ ボックスで、「禁止文字」フィールドに禁止文字を入力します。

5. 「OK」をクリックします。

新たに作成されたグループは、メイン ウィンドウの「ドキュメントの言語」ドロップダウンリストに追加されます。

既定では、ユーザー言語グループは「ABBYY FineReader ドキュメント」フォルダに保存されます。また、すべてのユーザー言語およびユーザー パターンを 1

つのファイルに保存することもできます: [ツール] > オプション…を選択して [読み取り] タブをクリックし、次に [ファイルに保存…] ボタンをクリックします。

ヒント

あるドキュメントのために特定の言語の組み合わせが必要な場合は、その言語のグループを作成せずに、必要な言語を直接選択することもできます。

1. [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで、[その他の言語…] を選択します。
2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[言語を手動で指定する] を選択します。
3. 必要な言語を選択し、[OK] をクリックします。

LAN でのグループ作業

ABBYY FineReader 11 は、ローカル エリア ネットワーク (LAN) 上でドキュメントを処理するツールと機能を備えています。

- 複数の LAN コンピュータで同じ ABBYY FineReader ドキュメントを処理する
- 複数のコンピュータで同じユーザー言語とユーザー辞書を使用する

複数の LAN コンピュータで同じ ABBYY FineReader ドキュメントを処理する

ネットワーク上で ABBYY FineReader ドキュメントの作業を行う場合、ABBYY FineReader で利用可能な機能は、スタイル エディタを除いてすべて使用できます。

ABBYY FineReader ドキュメントを複数の LAN コンピュータで同時に使用する場合は、以下の点を考慮に入れてください。

- 各コンピュータに ABBYY FineReader 11 を個別にインストールしておく必要があります。
- すべてのユーザーが ABBYY FineReader ドキュメントへの完全なアクセス権限を持っている必要があります。
- 各ユーザーがドキュメントにページを追加して、修正を加えることができます。ユーザーが新しいページを追加し、そのページの OCR 処理を開始した場合、ドキュメント全体の処理が新たに行われます。この処理の進行中、どのユーザーもドキュメントを編集することはできません。

ページの背景が白になると、[テキスト] ウィンドウ内のすべてのツールが利用可能になります。

- あるユーザーが処理中のドキュメント ページは、他のユーザーに対してロックされます。
- ユーザーは、そのドキュメントを処理中のコンピュータ、どのユーザーがページを開いているか、そのページが認識済みか編集済みかなど、ページのステータスを [ページ] ウィンドウでモニターできます。ステータスを確認するには、[詳細] 表示に切り替えます。
- ABBYY FineReader ドキュメントで使用するフォントは、各コンピュータにインストールしておく必要があります。フォントがインストールされていないと、認識されたテキストが正しく表示されないことがあります。

複数のコンピュータで同じユーザー言語とユーザー辞書を使用する

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

ABBYY FineReader 11

では、複数のユーザーが同じユーザー言語とユーザー辞書を同時に使用できます。また、LAN での作業中に複数のユーザーが同じユーザー辞書に単語を追加することも可能です。

ユーザー辞書とユーザー言語を複数のユーザーが使用できるようにするには

1. ABBYY FineReader ドキュメントを作成するか、または開いて、そのドキュメントに必要なスキャン オプションと OCR オプションを選択します。
2. ユーザー辞書を保存するフォルダを指定します。このフォルダは、すべてのネットワーク ユーザーがアクセスできる必要があります。

注意: 規定では、ユーザー辞書は %Userprofile%\Application Data\ABBYY\FineReader\11.00\UserDictionaries (ご使用のコンピュータの OS が Windows XP の場合) または %Userprofile%\AppData\Roaming\ABBYY\FineReader\11.00\UserDictionaries (ご使用のコンピュータの OS が Microsoft Windows Vista または Windows 7 の場合) に保存されます。

フォルダを指定するには

1. [ツール] > [オプション...] を選択し、[オプション] ダイアログ ボックスの [詳細設定] タブで [ユーザー辞書...] ボタンをクリックします。
2. [参照...] をクリックし、フォルダを選択します。
3. *.fbt ファイル形式でユーザー パターンとユーザー言語を保存します。
 1. [ツール] > [オプション...] を選択し、[読み取り] ダイアログ ボックスの [オプション] タブをクリックします。
 2. [ユーザー パターンとユーザー言語] の項目で、[ファイルに保存...] ボタンをクリックします。
 3. [保存オプション] ダイアログ ボックスで、*.fbt ファイルの名前と、ファイルを保存するフォルダを指定します。このフォルダは、すべてのネットワーク ユーザーがアクセスできる必要があります。
4. これで、ユーザーが新しい ABBYY FineReader ドキュメントを作成する場合は、手順 3 で保存した *.fbt ファイルからユーザー パターンとユーザー言語を読み込んで、手順 2 で作成した、ユーザー辞書を保存するフォルダへのパスを指定しなければなりません。

重要事項 ユーザー辞書、ユーザー

パターン、およびユーザー言語にアクセスできるようにするには、それらが保存されているフォルダの読み書き権限を持っている必要があります。

[言語エディタ] ダイアログ ボックスで使用可能なユーザー言語のリストを表示するには ([ツール] > [言語エディタ...]) を選択し、[ユーザー言語] にスクロールします)。

あるユーザー言語を複数のユーザーが使用している場合、その言語は「読み取り専用」としてのみ使用でき、ユーザーがユーザー言語のプロパティを変更することはできません。ただし、複数の LAN コンピュータで使用されているユーザー辞書に単語を追加したり削除したりすることは可能です。

ある辞書のあるユーザーが編集している場合、他のユーザーはその辞書を「読み取り専用」としてのみ使用できます。すなわち、他のユーザーはこの辞書を使用して OCR を実行し、スペルチェックを行うことはできますが、単語の追加または削除はできません。

ユーザーがユーザー辞書に加えたあらゆる変更は、その辞書が保存されているフォルダを選択したすべてのユーザーが利用可能です。変更内容を有効にするには、ユーザーが ABBYY FineReader を再起動する必要があります。

ABBYY Hot Folder

(ABBYY FineReader 11 Corporate Edition のみで利用可能)

ABBYY FineReader には、スケジューリング エージェント プログラム、**ABBYY Hot Folder** が含まれています。このプログラムを使用すると、画像のフォルダを選択し、そのフォルダにある画像を ABBYY FineReader で処理する時間を設定することができます。たとえば、コンピュータが夜間に画像を認識するようにスケジュールできます。

フォルダ内の画像を自動的に処理するには、そのフォルダの処理タスクを作成し、画像を開くオプション、OCR および保存を行うオプションを指定します。また、ABBYY FineReader がそのフォルダに新しい画像があるかどうか確認する頻度（一定の間隔または 1 回のみ）を指定し、そのタスクの開始時刻を設定する必要もあります。

重要事項

タスクの開始予定時刻には、ご使用のコンピュータの電源が入っており、ユーザーがログオンしている必要があります。

- ABBYY Hot Folder のインストールと起動
- メイン ウィンドウ
- タスクの作成
- タスク プロパティの変更
- 結果ログ

ABBYY Hot Folder のインストールと起動

既定では、ABBYY Hot Folder は ABBYY FineReader 11

とともにご使用のコンピュータにインストールされます。カスタム インストールの際に ABBYY Hot Folder

をインストールしないことを選択した場合は、後で次の手順に従ってアプリケーションをインストールできます。

1. Windows のタスクバーで **[スタート]** をクリックし、**[設定]** > **[コントロール パネル]** を選択します。
2. **[コントロール パネル]** ウィンドウで **[プログラムの追加と削除]** アイコンをダブルクリックします。
3. インストールされているプログラムのリストから **[ABBYY FineReader 11]** を選択し、**[変更]** をクリックします。
4. **[カスタム セットアップ]** ダイアログ ボックスで、**[ABBYY Hot Folder]** を選択します。
5. セットアップ プログラムによって表示される指示に従います。

ABBYY Hot Folder の起動

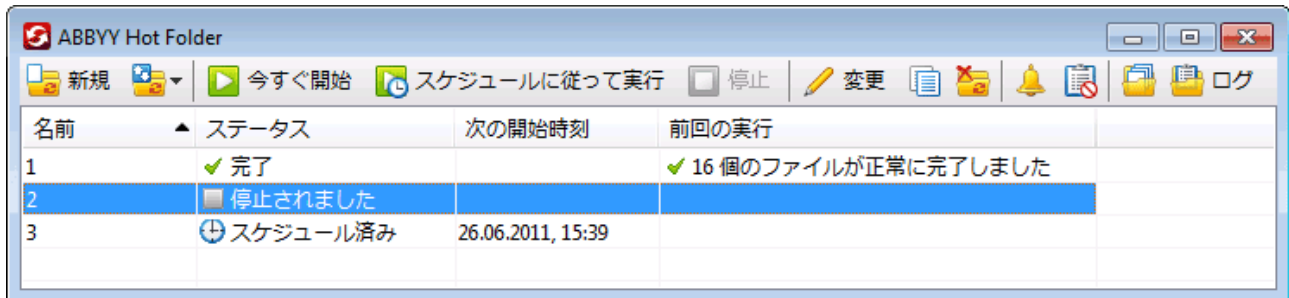
ABBYY Hot Folder を起動するには、次の複数の方法があります。

- **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[ABBYY FineReader 11]** を選択し、次に **[ABBYY Hot Folder]** を選択します。
- **[ABBYY FineReader 11]** メイン ウィンドウで、**[ツール]** > **[Hot Folder & Scheduling...]** を選択します。

- Windows のタスクバーで [ABBYY Hot Folder] アイコンをダブルクリックします
(このアイコンは、ホット フォルダを少なくとも 1 つセットアップすると表示されます)。

メイン ウィンドウ


ABBYY Hot Folder を起動すると、この機能のメイン ウィンドウが開きます。セットアップ、コピー、削除を行ったり、フォルダ処理タスクを開始したりするには、ツールバーのボタンを使用します。また、各フォルダの詳細なレポートを表示することもできます。



新しいタスクを作成するには、ツールバーで [新規] ボタンをクリックします。ABBYY Hot Folder ウィザードの案内に従って、ホット フォルダのセットアップを行います。

注:






- 既定では、タスク ファイルは %Userprofile%\Local Settings\Application Data\ABBYY\HotFolder\11.00 に保存されます
(Microsoft Windows Vista、Windows 7 では %Userprofile%\AppData\Local\ABBYY\HotFolder\11.00)。
- 結果は、タスクのセットアップを行った際に指定したフォルダに保存されます。場合によっては、すでに処理されたファイルの消失を避けるために、指定したフォルダにサブフォルダが作成され、その後認識された結果がそのサブフォルダに保存されることがあります。サブフォルダは次のように名前が付けられます。
 - 「Hot Folder DD.MM.YYYY HH-MM-SS」
タスクを再度実行した場合、次の名前のサブフォルダが作成されます。
 - 「ファイル名(数字)」
ユーザーが指定したフォルダに、すでに特定の名前のファイルが存在する場合、この名前のサブフォルダが作成されます。
- 製品のバージョンにより、30 日間に認識できるページ数が 5,000 ページに制限されることがあります。

タスクが完了したことを通知するメッセージを確認するには、ツールバーで  をクリックします。


Windows のタスクバーの上にポップアップ ウィンドウが開き、通知メッセージが表示されます。

ABBYY Hot Folder のメイン ウィンドウには、セットアップ タスクのリストが表示されます。各タスクについて、タスクの現在のステータスと予定されている処理時刻とともに、対応するホット フォルダへのフル パスが表示されます。


タスクのステータスには次の種類があります。

ステータス	説明	
	実行中	フォルダ内の画像は現在処理されています。
	スケジュール済み	ホット フォルダに画像があるかどうかの確認を、開始時刻に 1 回のみ行うことを選択しました。開始時刻は 次の実行時刻 列に表示されています。
	中止	処理はユーザーによって中止されました。
	完了	このフォルダの画像処理は完了しました。
	エラー	このフォルダの画像の処理中にエラーが発生しました。処理タスクは完了しませんでした。エラーの原因を確認するには、エラーが発生したフォルダを選択し、ツールバーで ［ログを表示］ ボタンをクリックします。

後日使用するためにタスクを保存することができます。

1. ツールバーで  ボタンをクリックし、**［エクスポート…］** を選択します
2. タスクの名前とタスクへのパスを指定します。
3. **［保存］** をクリックします。

以前、保存したタスクを読み込むには

1. ツールバーで  ボタンをクリックし、**［インポート…］** をクリックします
2. 必要なタスクを選択し、**［開く］** をクリックします。

タスクの作成

タスクを作成するには

1. 次のいずれかの操作を行います。
 - ABBYY Hot Folder の **［新規］** ボタンをクリックします
 - ABBYY FineReader のメイン ウィンドウで **［保存］** ボタンの横にある矢印をクリックし、**［後でドキュメントを読み取る…］** コマンドを選択します。
新しいタスクが表示されます。**［1 回実行する］** 手順と **［FineReader ドキュメントを開く］** 手順はあらかじめ選択されています
2. タスクを開始する頻度を選択します。
 - **1 回実行する** タスクは指定した時刻に 1 回開始されます

- **反復** タスクは複数回、開始されます

3. 処理する画像を含むフォルダまたはドキュメントを指定します。

- **フォルダからファイルを開く** ローカル フォルダおよびネットワーク フォルダにある画像を処理できます
- **FTP からファイルを開く** FTP サーバーにあるフォルダ内の画像を処理できます
FTP フォルダにアクセスするためにログイン名とパスワードが必要な場合は、**[FTP ログイン名]** および **[FTP パスワード]** フィールドにそれぞれ入力します。ログイン名とパスワードが不要な場合は、**[匿名での接続]** オプションを選択します。
- **Outlook からファイルを開く** メール ボックスにある画像を処理できます
- **FineReader ドキュメントを開く** FineReader ドキュメントに保存されている画像を開きます

[ドキュメント] の項目で、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。

- **各ファイルのドキュメントを個別に作成する**
- **各フォルダに個別のドキュメントを作成する**
- **すべてのファイルのために 1 つのドキュメントを作成する**

4. **[分析して読み取り]** をクリックします。

- **分析して読み取り** 画像を分析して OCR を実行します
- **分析のみ** 画像を分析します
- **領域を自動的に分析する** 画像上のテキスト、写真、表、およびその他の領域を検出します
- **テンプレートを使用する** あらかじめ領域が設定されているテンプレートを読み込みます
- **[言語]** ドロップダウン リストで、認識するテキストの言語を選択します

注意: 複数の言語を選択できます。

- **[オプション]** ダイアログ ボックスの **[読み取り]** タブでその他のオプションを選択するには、**[すべてのドキュメント設定…]** ボタンをクリックします。

5. 必要に応じて **[FineReader ドキュメントの保存]** ステップを選択します。

6. **[ドキュメントを保存する]** をクリックし、認識結果を保存するフォルダを指定します。

- **[名前を付けて保存]** ドロップダウン リストで、出力ファイルの形式を選択します。

ヒント 結果を複数の形式で保存するために、複数の保存手順を実行できます。

- **[フォルダ]** フィールドに、認識結果を保存する出力フォルダへのパスを入力します。
- **[ファイル名]** フィールドに、出力ファイルの名前を入力します。

注意: このダイアログ ボックスの外観は、手順 2 で選択したオプションによって異なります。

7. **[OK]** をクリックします。

セットアップしたタスクが、ABBYY Hot Folder メイン ウィンドウに表示されます。

注意:

- 既定では、タスク ファイルは %Userprofile%\Local Settings\Application Data\ABBYY\HotFolder\11.00 に保存されます (Microsoft Windows Vista、Windows 7 では %Userprofile%\AppData\Local\ABBYY\HotFolder\11.00)。
- 結果は、タスクのセットアップを行った際に指定したフォルダに保存されます。場合によっては、すでに処理されたファイルの消失を避けるために、指定したフォルダにサブフォルダが作成され、その後認識された結果がそのサブフォルダに保存されることがあります。サブフォルダは次のように名前が付けられます。
 1. 「Hot Folder DD.MM.YYYY HH-MM-SS」
タスクを再度実行したとき、この名前のサブフォルダが作成されます。
 2. 「ファイル名(数字)」
ユーザーが指定したフォルダに、すでに特定の名前のファイルがある場合、この名前のサブフォルダが作成されます。

重要事項

タスクが開始されるためには、ご使用のコンピュータの電源が入っており、ユーザーがログオンしている必要があります。

タスク プロパティの変更

既存のタスクのプロパティを変更することができます。

タスクのプロパティを変更するには

1. プロパティを変更するタスクを中止します。
2. [ABBYY Hot Folder] ツールバーで、[変更] ボタンをクリックします。
3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。


結果ログ

ホット フォルダ内の画像は、指定された設定に従って処理されます。 ABBYY Hot Folder では、すべての処理の詳細なログを記録します。

ログ ファイルには、次の情報が含まれます。

- タスクの名前と設定
- エラーおよび警告 (ある場合)
- 統計データ (処理したページ数、エラーと警告の件数、不明瞭な文字の数)

ログ記録を有効にするには

- [ABBYY Hot Folder] ツールバーで、 をクリックします。

ログは、認識したテキストのファイルが入っているフォルダに、テキスト ファイルとして保存されます。

ログ ファイルを開くには

1. ABBYY Hot Folder のメイン ウィンドウで、ログを確認するタスクを選択します。
2. ツールバーの [ログを表示] ボタンをクリックします。

注: 選択したタスクのステータスの上にマウス ポインタを移動すると、ポップアップ ウィンドウにログ データが表示されます。

付録

トピック

- 用語集
- サポートされている画像形式
- サポートされている保存形式
- 言語と各言語のフォント
- 正規表現
- ショートカット

用語集

A

ABBYY Business Card Reader

は、名刺をスキャンし、連絡先データを取り込んで、その連絡先をさまざまな電子的な形式でエクスポートできる便利なアプリケーションです。このアプリケーションでは、ユーザーのコンピュータに保存された名刺のスキャン データや画像も取り扱うことができます。

ABBYY FineReader ドキュメントは、1 つのソース

ドキュメントを構造分析を用いて処理するために、ABBYY FineReader ソフトウェアによって作成されるオブジェクトです。このドキュメントには、ページ画像とそれに対応する認識済みテキスト（ある場合）およびプログラム設定（スキャン、認識、オプションの保存など）が含まれています。

ABBYY Hot Folder はスケジューリング エージェント

プログラムで、画像のフォルダを選択し、そのフォルダにある画像を処理する時間を設定することができます。選択したフォルダの画像は、指定した時間に自動的に処理されます。

ABBYY Screenshot Reader

は、スクリーンショットを作成し、その中のテキストを認識するためのアプリケーションです。

ADRT® (Adaptive Document Recognition Technology)

は、複数ページのドキュメントの変換品質を高めるテクノロジーです。たとえば、見出し、ヘッダーとフッター、脚注、ページ番号、署名などの構造要素を認識できます。

D

dpi（ドット数/インチ）とは、画像の解像度の標準単位です。

L

License Manager とは、ABBYY FineReader ライセンスの管理と ABBYY FineReader 11 Corporate Edition のライセンス認証に使用するユーティリティです。

P

PDF セキュリティ設定とは、PDF

ドキュメントを開いたり、編集、コピー、印刷を行ったりできないようにする制限です。これらの設定には、「ドキュメントを開くパスワード」、「アクセス許可パスワード」、暗号化レベルなどがあります。

Product ID とは、特定のコンピュータで ABBYY FineReader のライセンス認証を行ったときに、ハードウェア構成に基づいて自動的に生成されるパラメータです。

U

Unicode は、ユニコード コンソーシアム (Unicode, Inc.) によって開発された標準です。この標準は、世界の主な言語で記述されたテキストを処理するための 16 ビットの国際エンコーディング システムです。この標準は簡単に拡張できます。Unicode 標準は、文字のエンコードだけでなく、特定の言語で記述されたテキストの処理に使用されるプロパティや手順も規定します。

あ

明るさとは、白と黒の画像領域のコントラストを示すスキャン パラメータです。明るさを正しく設定することにより、認識品質が高まります。

アクセス許可パスワードとは、作成者が指定したパスワードを入力しなければ、他のユーザーが PDF ドキュメントの印刷および編集をできないようにするパスワードです。ドキュメントについて何らかのセキュリティ設定が選択されている場合、作成者が指定したパスワードを入力しなければ、他のユーザーはこれらの設定を変更できません。

アクティブな領域とは、画像上で選択された領域で、削除、移動または修正を行うことができます。領域をアクティブにするには、その領域をクリックします。アクティブな領域を囲む枠は太線で示され、小さな四角形が付いています。この四角形をドラッグすると、領域の大きさを変更できます。

アクティベーションとは、ABBYY から特別なコードを取得するプロセスで、ユーザーはこのコードを用いて、所定のコンピュータでソフトウェアをフル モードで使用できます。

アクティベーション コードとは、アクティベーションの手続きの中で ABBYY が ABBYY FineReader 11 の各ユーザーに発行するコードです。アクティベーション コードは、**Product ID** を生成したコンピュータで ABBYY FineReader をライセンス認証するために必要です。

い

印刷タイプとは、ソース テキストが印刷された方法（レーザー プリンタまたは同等の機器、タイプライターなど）を反映するパラメータです。レーザー プリンタで印刷されたテキストの場合は **[自動検出]**、タイプライターで作成されたテキストの場合は **[タイプライター]**、FAX の場合は **[FAX]** を選択します。

お

オートメーション マネージャは組み込みのマネージャで、自動タスクの実行、自動タスクの作成と変更、およびユーザーが作成し、使用しなくなった自動タスクの削除を行うことができます。

オムニフォント システムとは、あらかじめ調整を行わずにあらゆるフォントとフォント サイズの文字を認識する認識システムです。

か

解像度とは、スキャンの際に使用する dpi の値を決定するスキャン パラメータです。10pt 以上のフォント サイズに設定されたテキストには 300 dpi の解像度を使用し、これより小さいフォント サイズ (9pt 以下) のテキストには、400~600 dpi が適しています。

画像領域とは、画像を含む画像領域のために使用する領域です。この種類の領域は、実際の写真や、画像として表示する必要のあるその他のオブジェクト (テキストの一部など) を含みます。

カラー

モードにより、ドキュメントの色を保持するかどうかが決定されます。モノクロ画像はサイズの小さな FineReader ドキュメントになるため、高速で処理されます。

き

禁止文字 - 認識するテキスト内に特定の文字が決して存在しない場合、言語グループ プロパティでその文字を禁止文字のセットに指定できます。これらの文字を指定すると、OCR の速度と品質が向上します。

く

区切り とは、単語を区切ることができ (/、\、ダッシュなど)、単語そのものからはスペースで区別される記号です。

こ

合字とは、2 つ以上の「密着した」文字の組み合わせです (fi、fl、ffi など)。これらの文字は、通常「密着して」印刷されるため、分割は困難です。これらの文字を 1 つの複合文字として扱うことにより、OCR の精度が向上します。

コード ページとは、文字コードと文字そのものとの相互関係を設定する表です。ユーザーは、コード ページで使用可能なセットから、必要な文字を選択できます。

さ

サポート ID

とは、ライセンスと、そのライセンスが使用されるコンピュータに関する情報を持つシリアル番号の固有の識別子です。サポート ID は、テクニカル サポートがサービスを提供する前に確認する ID で、保護機能を高める働きをします。

し

自動ドキュメント フィーダ (ADF) は、原稿をスキャナに自動的に送り込む装置です。ADF を備えたスキャナでは、手動操作なしに複数ページをスキャンできます。また、ABBYY FineReader では、複数ページのドキュメントのスキャンもサポートしています。

省略可能なハイフンとは、単語または単語の組み合わせが行末にきた場合に、分割すべき正しい位置を示すハイフン (ゃ) です (たとえば、「autoformat」は「auto-format」のように分割します)。ABBYY FineReader では、辞書の単語にあるすべてのハイフンを、省略可能なハイフンで置き換えます。

す

スキャナとは、画像をコンピュータに入力するための機器です。

スキャン

モードとは、モノクロ、グレースケール、カラーのいずれで画像をスキャンするかを決定するスキャンパラメータです。

た

タグ付き PDF とは、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含む PDF ドキュメントです。この構造は、PDF タグの中でエンコードされています。タグを備えた PDF ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてテキストのレイアウトを変更できるため、携帯端末でも適切に表示されます。

ち

調整とは、文字画像と文字そのものとの間の対応を確立することです。(詳細については、「調整を伴う認識」セクションを参照してください。)

て

テキスト領域とは、テキストを含む領域です。テキスト領域には、単一カラムのテキストしか含めることができません。

と

等幅フォントとは、すべての文字の幅を等しくしたフォント (Courier New など) です。等幅フォントでより良い OCR 結果を得るためには、[ツール] > [オプション...] を選択し、[ドキュメント] タブをクリックして、[ドキュメントの印刷タイプ] の項目で [タイプライター] を選択します。

ドライバとは、コンピュータの周辺装置 (スキャナ、モニタなど) を制御するソフトウェアプログラムです。

ドキュメント オプションとは、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション]) で選択できるオプションのセットです。このオプションのセットには、ユーザー言語とユーザーパターンも含まれています。オプションのセットは、保存して他の ABBYY FineReader ドキュメントで使用する (読み込む) ことができます。

ドキュメント分析とは、ドキュメント内の論理的構造要素およびさまざまな領域の種類を選択するプロセスです。ドキュメント分析は、自動的に手動でも実行できます。

ドキュメントを開くパスワードとは、作成者が指定したパスワードを入力しなければ、ユーザーが PDF ドキュメントを開くことができないようにするパスワードです。

に

認識領域とは、ABBYY FineReader で自動的に分析を行う画像部分を囲む領域です。

は

バーコード領域とは、バーコード画像の領域に使用する領域です。

パターンとは、パターン調整で作成された一連のペアです (それぞれのペアには文字画像と文字そのものが含まれます)。

パラダイムとは、単語のすべての文法的な形式のセットです。

反転画像とは、暗い背景に白い文字が表示される画像です。

ひ

表領域とは、表画像領域または表として構成されているテキストの領域に使用される領域です。本アプリケーションがこの種類の領域を読み取る際には、領域内に縦と横の罫線を引いて表を形成します。この領域は、出力テキストでは表として表示されます。

ふ

複合語とは、2 つ以上の基語によって形成された単語です (一般的な定義)。辞書には載っていませんが、辞書に載っている単語 2 つ以上によって形成された単語です (ABBYY FineReader での定義)。

不明瞭な単語とは、1 つまたは複数の不明瞭な文字を含む単語です。

不明瞭な文字とは、正しく認識されていない可能性のある文字です。ABBYY FineReader では、不明瞭な文字を強調表示します。

プライマリ形式とは、辞書の項目の見出し語の形式です。

へ

ページ

レイアウトとは、ページ上のテキスト、表、画像、パラグラフ、列の配置と、フォント、フォントサイズ、フォント色、テキストの背景、およびテキストの方向のことです。

ページ

レイアウト分析とは、ページ画像上の領域を検出するプロセスです。領域には、テキスト、画像、表、バーコード、および認識領域の 5 つの種類があります。ページ レイアウト分析は、**[読み込み]** ボタンをクリックしたときに自動的に実行するか、または OCR の前にユーザーが手動で実行することができます。

む

無視される文字とは、単語に使われている文字以外の記号（音節記号、アクセント符号など）です。これらの記号は、スペルチェックの際に無視されます。

も

文字飾りとは、フォントの外観（太字、斜体、下線、取り消し線、下付き文字、上付き文字、スモールキャピタル）です。

り

略語とは、単語または語句を短縮したもので、元の語句全体の代わりとして使用されます。たとえば、MS-DOS（Microsoft Disk Operating System の略語）、UN（United Nations の略語）などです。

領域とは、画像上で枠で囲まれた部分です。OCR を実行する前に、ABBYY FineReader では、画像のどの部分をどのような順序で認識すべきかを決定するために、テキスト、画像、表、およびバーコードの領域を検出します。

領域テンプレートとは、外観が類似した一連のドキュメント内の領域の大きさと位置に関する情報を含むテンプレートです。

背景画像領域とは、テキストが重ねて印刷されている画像を含む画像領域です。

サポートされている画像形式

次の表は、ABBYY FineReader 11 でサポートされている画像形式をまとめたものです。

形式	拡張子	開く	保存
ビットマップ	bmp, dib, rle	+	+
ビットマップ、モノクロ	bmp, dib, rle	+	+
ビットマップ、グレースケール	bmp, dib, rle	+	+

ビットマップ、カラー	bmp, dib, rle	+	+
DCX	dcx	+	+
DCX、モノクロ	dcx	+	+
DCX、グレースケール	dcx	+	+
DCX、カラー	dcx	+	+
JPEG 2000	jp2, j2k	+	+
JPEG 2000、グレースケール	jp2, j2k	+	+
JPEG 2000、カラー	jp2, j2k	+	+
JPEG	jpg, jpeg	+	+
JPEG、グレースケール	jpg, jpeg	+	+
JPEG、カラー	jpg, jpeg	+	+
JBIG2	jb2, jbig2	+	+
PCX	pcx	+	+
PCX、モノクロ	pcx	+	+
PCX、グレースケール	pcx	+	+
PCX、カラー	pcx	+	+

PNG	png	+	+
PNG、モノクロ	png	+	+
PNG、グレースケール	png	+	+
PNG、カラー	png	+	+
TIFF	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、圧縮なし	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、パックビット	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、CCITT グループ 4	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレースケール、圧縮なし	tif, tiff	+	+
TIFF、グレースケール、パックビット	tif, tiff	+	+
TIFF、グレースケール、JPEG 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレースケール、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレースケール、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、圧縮なし	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、パックビット	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、JPEG 圧縮	tif, tiff	+	+

TIFF、カラー、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
PDF	pdf	+	+
PDF v. 1.7 以前	pdf	+	+
DjVu	djvu, djv	+	+
GIF	gif	+	-
XPS (Microsoft .NET Framework 3.0 が必要)	xps	+	-
Windows Media Photo	wdp, wmp	+	-

サポートされている保存形式

ABBYY FineReader では、認識したテキストを次の形式で保存できます。

- Microsoft Word ドキュメント (*.doc)
- Microsoft Office Word 2007 ドキュメント (*.docx)
- リッチ テキスト形式 (*.rtf)
- OpenDocument Text (*.odt)
- Adobe Acrobat ドキュメント (*.pdf)
- HTML ドキュメント (*.htm)
- FB2 ドキュメント (*.fb2)
- ePub ドキュメント (*.epub)
- Microsoft PowerPoint 2007 プレゼンテーション (*.pptx)
- Microsoft Office Excel コンマ区切りファイル (*.csv)
- テキスト ドキュメント (*.txt)
ABBYY FineReader では、Windows、DOS、Mac、ISO のコード ページと Unicode のエンコードをサポートしています。
- Microsoft Excel ワークシート (*.xls)

- Microsoft Office Excel 2007 ワークブック (*.xlsx)
- PDF/A (*.pdf)
- DjVu ドキュメント (*.djvu)

言語と各言語のフォント

言語	フォント
アルメニア語 (イースタン、ウェスタン、グラバール)	Arial Unicode MS ^(*)
ヘブライ語	Arial Unicode MS ^(*)
中国語簡体字、中国語繁体字	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun - 18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming(for - IS010646)、STSong
日本語	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun - 18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming(for - IS010646)、STSong
韓国語、韓国語 (ハングル)	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun - 18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming(for - IS010646)、STSong
アブハズ語	Arial Unicode MS ^(*)
アラビア語	Arial Unicode MS ^(*)
アディゲ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
アグルル語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
アルタイ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode

アバル語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
バシキール語	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
チェチェン語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
チュバシュ語	Arial Unicode MS ^(*)
チュクチ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ダルグワ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
イングーシ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ガガウズ語	Arial Unicode MS ^(*)
ハウサ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
カバルダ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ハカス語	Arial Unicode MS ^(*)
ハンティ語	Arial Unicode MS ^(*)
コリアク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ラク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
レジン語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
マンシ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
マリ語	Arial Unicode MS ^(*)
オセツト語	Arial Unicode MS ^(*)

ロシア語（旧スペル）	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
タバサラ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
タジク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
タイ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Aharoni、David、Levenim mt、Miriam、Narkisim、Rod
ウドムルト語	Arial Unicode MS ^(*)
ズールー語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ヤクート語	Arial Unicode MS ^(*)
イディッシュ語	Arial Unicode MS ^(*)
ベトナム語	Arial Unicode MS ^(*)

入手先/付属製品

^(*) Microsoft Office 2000 以降

正規表現

次の表は、新しい言語を作成するために使用できる正規表現を一覧にしたものです。

アイテム名	従来の正規表現記号	使用例と説明
任意の文字	.	c.t - 「cat」、「cot」などを表す
グループ内の文字	[]	[b-d]ell - 「bell」、「cell」、「dell」などを表す [ty]ell - 「tell」および「yell」を表す
グループ内のない文字	[^]	[^y]ell - 「dell」、「cell」、「tell」を表すが、「yell」は禁止 [^n-s]ell - 「bell」、「cell」を表すが、「nell」、「oell」、「pell」、

		「qell」、「rell」および「sell」は禁止
または		c(a u)t - 「cat」および「cut」を表す
0 以上の一致	*	10* - 1、10、100、1000 などの数を表す
1 以上の一致	+	10+ - 10、100、1000 などは許可するが、1 は禁止
文字または数字	[0 - 9a - zA - Z a - я A - Я]	[0 - 9a - zA - Z a - я A - Я] - 任意の 1 文字を許可 [0 - 9a - zA - Z a - я A - Я]+ - 任意の単語を許可
大文字のラテン文字	[A - Z]	
小文字のラテン文字	[a - z]	
大文字のキリル文字	[A - Я]	
小文字のキリル文字	[a - я]	
数字	[0 - 9]	
スペース	\s	
	@	予備

注:

1. 正規表現記号を通常の文字として使用するには、前にバックスラッシュを付けます。たとえば、[t-v]x+ は tx、txx、txx など、ux、uxx などを表しますが、\[t-v\]x+ は [t-v]x、[t-v]xx、[t-v]xxx などを表します。
2. 正規表現の要素をグループ化するには、かっこを使用します。たとえば、(a|b)+|c は c または abbbbaabbbb、ababab などの任意の組み合わせ（長さがゼロではなく、任意の数の a および b が任意の順序で並んでいる単語）を表しますが、a|b+|c は a、c、および b、bb、bbb などを表します。

例

列が 3 つある表を認識します。最初の列は生年月日、2 番目の列は氏名、3 番目の列は電子メールアドレスです。新しい言語、日付とアドレスを作成して、その正規表現を設定することができます。

日付の正規表現

日を表す数は 1 桁の数字 (1、2、など) または 2 桁の数字 (02、12) で構成できますが、ゼロ (00 または 0) にはできません。したがって、日の正規表現は次のようになります: ((|0)[1-9])|([1|2][0-9])|(30)|(31)。

月の正規表現は次のようになります: ((|0)[1-9])|(10)|(11)|(12)。

年の正規表現は次のようになります: ([19][0-9][0-9])|([0-9][0-9])|([20][0-9][0-9])|([0-9][0-9])。

あとは、これら 3 つをすべて組み合わせて、数字をピリオドで区切るだけです (1.03.1999 など)。ピリオドは正規表現記号であるため、前にバックスラッシュ (\) を付ける必要があります。日付全体の正規表現は、次のようになります:

((|0)[1-9])|([1|2][0-9])|(30)|(31)\. ((|0)[1-9])|(10)|(11)|(12)\. ((19)[0-9][0-9])|([0-9][0-9])|([20][0-9][0-9])|([0-9][0-9])

電子メール アドレスの正規表現

[a-zA-Z0-9_-\.\]+\@[a-zA-Z0-9_-\.\]+

ショートカット

ABBYY FineReader には、下記のコマンドのためにあらかじめ設定されているショートカット (ホットキー) があります。また、**ユーザー独自のホットキーを設定することもできます。**

ショートカットを作成するには

1. **[ツール] > [カスタマイズ…]** をクリックします。[ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログボックスが表示されます。
2. **[キーボード ショートカット]** タブにある **[カテゴリー]** フィールドで、カテゴリーを選択します。
3. **[コマンド]** フィールドで、ホットキーを作成または変更するコマンドを選択します。
4. **[新しいショートカット キーまたは組み合わせ]** フィールドをクリックし、キーボードで、選択したコマンドを開始するキーを押します。
5. **[割り当てる]** をクリックします。指定したキーが **[現在のショートカット]** フィールドに追加されます。
6. **[OK]** をクリックして変更内容を保存します。
7. ショートカットを既定値に戻すには、**[リセット]** (選択したコマンド カテゴリーのみ) または **[すべてリセット]** (すべてのショートカット) をクリックします。

[ファイル] メニュー

コマンド	ショートカット
ページのスキャン…	Ctrl + K

PDF ファイル/画像を開く…	Ctrl + O
新しい FineReader ドキュメント	Ctrl + N
FineReader ドキュメントを開く…	Ctrl + Shift + N
名前を付けてドキュメントを保存	Ctrl + S
画像の保存…	Ctrl + Alt + S
FineReader ドキュメントを電子メールで送信	Ctrl + M
ページ画像を電子メールで送信	Ctrl + Alt + M
画像の印刷	Ctrl + Alt + P
テキストの印刷	Ctrl + P

[編集] メニュー

コマンド	ショートカット
元に戻す	Ctrl + Z
やり直し	Ctrl + Enter
切り取り	Ctrl + X
コピー	Ctrl + C Ctrl + Insert
貼り付け	Ctrl + V Shift + Insert
クリア	削除
すべて選択	Ctrl + A

検索…	Ctrl + F
次を検索	F3
置換…	Ctrl + H

[表示] メニュー

コマンド	ショートカット
ページ ウィンドウを表示	F5
ページ画像のみ表示	F6
ページ画像とページ テキストを表示	F7
ページ テキストのみ表示	F8
ズーム ウィンドウを表示	Ctrl + F5
次のウィンドウ	Ctrl + Tab
前のウィンドウ	Ctrl + Shift + Tab
プロパティ…	Alt + Enter

[ドキュメント] メニュー

コマンド	ショートカット
読み取り	Ctrl + Shift + R
レイアウトの分析	Ctrl + Shift + E
次のページに進む	Alt + 下矢印 (↓) Page Up

前のページに戻る	Alt + 上矢印 (↑) Page Down
ページに移動...	Ctrl + G
現在のページを閉じる	Ctrl + F4

[ページ] メニュー

コマンド	ショートカット
ページの読み取り	Ctrl + R
ページ レイアウトの分析	Ctrl + E
ページ画像の編集...	Ctrl + Shift + C
領域とテキストをすべて削除	Ctrl + Delete
テキストを削除	Ctrl + Shift + Delete
ページのプロパティ...	Alt + Enter

[領域] メニュー

コマンド	ショートカット
領域の読み取り	Ctrl + Shift + B
領域の種類を認識領域に変更	Ctrl + 1
領域の種類をテキストに変更	Ctrl + 2
領域の種類を表に変更	Ctrl + 3
領域の種類を画像に変更	Ctrl + 4

領域の種類をバーコードに変更	Ctrl + 5
領域の種類を背景画像に変更	Ctrl + 6

[ツール] メニュー

コマンド	ショートカット
タスク マネージャ...	Ctrl + T
Hot Folder...	Ctrl + Shift + H
辞書を表示...	Ctrl + Alt + D
言語エディタ...	Ctrl + Shift + L
パターン エディタ...	Ctrl + Shift + A
検証...	Ctrl + F7
次のエラー	Shift + F4
前のエラー	Shift + F5
オプション...	Ctrl + Shift + O

[ヘルプ] メニュー

コマンド	ショートカット
ABBYY FineReader 11 ヘルプ	F1

全般

コマンド	ショートカット
テキストの選択部分を太字にする	Ctrl + B

テキストの選択部分を斜体にする	Ctrl + I
テキストの選択部分に下線を引く	Ctrl + U
表のセルを選択	方向ボタン
[ページ] ウィンドウを選択	Alt + 1
[画像] ウィンドウを選択	Alt + 2
[テキスト] ウィンドウを選択	Alt + 3
[ズーム] ウィンドウを選択	Alt + 4

ABBYY 製品の購入方法

ABBYY 製品は、弊社のオンライン ストアまたは弊社パートナーからご購入いただけます（ABBYY パートナー会社の一覧は、<http://www.abbyy.com> にてご確認ください）。

ABBYY 製品の詳細情報は、以下の方法でご確認いただけます。

- 弊社 Web サイト <http://www.abbyy.com> を参照する
- 弊社 (sales@abbyy.com) に電子メールを送信する
- お近くの ABBYY 代理店に問い合わせる

www.paratype.com/shop/ では、さまざまな言語の追加フォントをご購入いただけます。

ABBYY について

ABBYY は、光学式文字認識 (OCR)、ドキュメント キャプチャ、言語学、および翻訳の各分野のソフトウェアとサービスを提供する世界的な大手開発企業です。

ABBYY の製品には、以下のものがあります。

家庭や事務所の個人ユーザー向け：

- ABBYY FineReader - 光学式文字認識システム
- ABBYY Lingvo - デスクトップ コンピュータ、携帯機器用の電子辞書
- ABBYY PDF Transformer - PDF ファイルを編集可能な形式に変換したり、文書を PDF 形式で保存したりする文書変換アプリケーション

企業ユーザー向け：

- ABBYY FlexiCapture - オールインワンのデータ キャプチャ ソリューション
- ABBYY Recognition Server - OCR および PDF 変換処理を自動化するサーバー ソリューション
- ABBYY FineReader Bank - 支払指図書等の銀行取引書類を処理するためのデータ キャプチャ ソリューション

開発者向け：

- ABBYY FineReader Engine - Windows、Linux、MacOS、FreeBSD アプリケーションに OCR および 文書変換テクノロジーを統合するための開発キット
- ABBYY FlexiCapture Engine - Windows アプリケーションにデータ キャプチャおよび文書処理テクノロジーを統合するための開発キット
- ABBYY Mobile OCR SDK - さまざまなモバイル プラットフォーム向けのコンパクトなテキスト認識アプリケーションを作成するための開発キット

世界各地で、印刷されたドキュメントを取り扱う企業が ABBYY ソフトウェアを使用し、手間のかかる作業を自動化してビジネス プロセスを最適化しています。ABBYY の製品は、オーストラリア税務局、ラトビア共和国税務局、ロシア連邦教育省、ウクライナ教育省、米国モンタゴメリー郡役所など、大規模な政府機関のプロジェクトで利用されています。

ABBYY

が開発したテクノロジーは以下の企業にライセンス供与されています：BancTec、キャノン、EMC/Captiv

a、Hewlett-Packard、Microsoft、NewSoft、Notable Solutions、Samsung Electronics。光学式文字認識ソフトウェアは、以下の世界的な大手メーカーの製品にバンドルされています：BenQ、エプソン、富士通、富士ゼロックス、Microtek、パナソニック、Plustek、東芝、Xerox、他。

弊社はモスクワに本社を置き、ドイツ、米国、日本、ウクライナ、台湾に地域オフィスを設けています。

ABBYY および ABBYY 製品の詳細については、www.abbyy.com を参照してください。

ABBYY FineReader のライセンス認証と登録

ソフトウェアの海賊行為は、ソフトウェア メーカーだけでなくエンドユーザーにも損害を与えます。違法な製品の使用は、安全とはいえません。正当なソフトウェアは、サードパーティ企業が有害なコード変更を加えることを確実に阻止します。ABBYY は、さまざまな海賊行為対策措置を通じて、自社の知的所有権を保護するとともにお客様のセキュリティを確保することに全力を注いでいます。

ABBYY のソフトウェアには、ABBYY の使用許諾契約書に同意していないユーザーによるソフトウェアコピーの不正使用を阻止する特別な保護テクノロジーが組み込まれています。

ABBYY FineReader をフル モードで実行するには、ライセンス認証を行う必要があります。

登録は任意ですが、登録することによりさまざまなメリットが得られます。

トピック

- ABBYY FineReader のライセンス認証
- ABBYY FineReader の登録
- プライバシー ポリシー

ABBYY FineReader のライセンス認証

ABBYY FineReader 11 をインストールした後、フルモードで実行するには、ライセンス認証を行う必要があります。制限付きモードでは、一部の機能がご利用いただけません。無効になる機能は、ご使用のバージョンや地域によって異なります。

プログラムのライセンス認証は、組み込みの**ライセンス認証ウィザード**を使用すればごく短時間で終わります。ライセンス認証ウィザードは、ご使用の製品のライセンス認証を行うために必要なデータを ABBYY に送信し、それに対して発行されたライセンス認証コードを受け取るお手伝いをします。

重要事項

製品のバージョンによっては、ライセンス認証がインターネットを介して自動的に行われ、ユーザーによる追加的な確認を必要としません。

ABBYY FineReader をライセンス認証するには

1. [ヘルプ] メニューから、[ABBYY FineReader をライセンス認証する...] を選択します。
2. ライセンス認証ウィザードに表示される手順に従います。

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

電話または電子メールでライセンス認証を行う場合は、ライセンス認証ウィザードの該当するダイアログボックスでライセンス認証コードを入力するか、またはライセンス認証ファイルへのパスを入力する必要があります。

ライセンス認証が完了したら、ABBYY FineReader がフル モードで実行されるようになります。

ライセンス認証方法の詳細

- **インターネット経由**
ライセンス認証は自動的に処理され、数秒間で完了します。この方法でライセンス認証するには、インターネット接続が必要です。
- **電子メールを使用する**
ABBYY FineReader をライセンス認証するために必要な情報を入力した電子メール メッセージを ABBYY 宛てに送信するように指示されます。この電子メール メッセージは、自動生成されます。返信メールでライセンス認証コードが送られてきます。

重要事項 電子メール ロボットから迅速に返信を受け取れるようにするために、生成された電子メール メッセージの件名と本文は変更しないようにしてください。

- **電話を使用する**
ライセンス認証ウィザードの該当するダイアログボックスで、お住まいの国を選択します。お住まいの地域の最寄りの ABBYY オフィスまたは ABBYY パートナーの電話番号がウィザードに表示されます。シリアル番号とライセンス認証ウィザードに表示された Product ID をテクニカル サポートの担当者にお知らせください。

重要事項 ライセンス認証コードは非常に長いため、電話でお伝えするには多少時間がかかります。

- **使用登録**
ご利用のオペレーターの請求システムでシリアル番号を更新することを選択した場合、ライセンス認証は自動的に行われます。

ABBYY FineReader ライセンス認証ウィザードでは、固有の **Product ID** パラメータを作成します。このパラメータは、ライセンス認証を行うときのコンピュータ設定に基づいて作成されます。パラメータには、個人情報またはコンピュータのモデル、インストールされているソフトウェア、ユーザー設定、保存データに関する情報は含まれません。ライセンス認証の際には、**Product ID** に加えて、シリアル番号、製品名とバージョン、および ABBYY FineReader のインターフェイス言語がサーバーに送信されます。この情報は、ライセンス認証結果メッセージの言語と内容を適切に選択するために必要となるもので、その他の目的に使用されることはありません。

ABBYY FineReader

は、ライセンス認証を実行したコンピュータであれば何度でも再インストールできます。再度ライセンス認証を行っていただく必要はありません。ABBYY FineReader のライセンス認証ウィザードは、ご使用の PC の構成に加えられた変更を検出し、柔軟に対応します。多少のアップグレードでは、ライセンス認証の再実行は不要です。システムに大きなアップグレードを加えた場合（ハードディスクのフォーマットやオペレーティング システムの再インストールを行った場合など）は、新しいライセンス認証コードを入手する必要があることがあります。

ABBYY FineReader 11 Corporate Edition のライセンス認証を行うと、ABBYY Business Card Reader も使用できるようになります。ABBYY Business Card Reader は、名刺をスキャンし、連絡先データを取り込んで、その連絡先をさまざまな電子的な形式でエクスポートできる便利なアプリケーションです。

ABBYY FineReader の登録

ABBYY では、ABBYY FineReader 11 ソフトウェアの登録ユーザーになる機会を提供しております。

ABBYY FineReader 11 ユーザーズ ガイド

注: フリーウェア

バージョンの一部は、登録が必須となっていることがあります。そのような場合、登録を完了するまでソフトウェアは動作しません。

ご使用の ABBYY FineReader を登録するには、次のいずれかの操作を行います。

- プログラムのライセンス認証を行うときに登録フォームに必要事項を入力します。

注:

ライセンス認証時にプログラムを登録しなかった場合でも、登録は後からいつでも行うことができます。

- [ヘルプ] メニューから [今すぐ登録...] を選択し、表示される登録フォームに必要事項を記入します。
- ご使用のコピーを ABBYY Web サイトで登録します。
- お近くの ABBYY 代理店に問い合わせます。

登録のメリット

1. 無料のテクニカル サポート
2. ABBYY 製品の新しいバージョンに関する電子メール通知
3. 特典アプリケーション - ABBYY FineReader 11 Professional Edition の登録を行うと、ABBYY Screenshot Reader を無料で入手できます。ABBYY Screenshot Reader では、画面の任意の部分のスクリーン ショットを作成し、テキストを含む領域で OCR を実行できます。*

* ABBYY FineReader 11 Corporate Edition では、ABBYY Screenshot Reader がすでに有効になっているため、登録を行う必要はありません。

プライバシー ポリシー

お客様は、ABBYY FineReader 11 ソフトウェアの登録の際に ABBYY に個人データを送信することに同意します。また、お客様は ABBYY が使用許諾契約書の規定に従い、**機密保持を条件とし、適用法を遵守して**、お客様から提供されたデータを収集、処理および使用することに同意します。お客様から提供された個人情報 は ABBYY のグループ会社内でのみ使用し、使用許諾契約書に従って適用法に規定されているか、または使用許諾契約書そのものに規定されているために必要となった場合を除き、第三者には一切提供されません。

ABBYY

は製品に関するニュース、価格情報、特別なプロモーションおよびその他の企業情報や製品情報が記載された電子メール

メッセージをお客様に送信する権利を有しますが、メッセージの送信は、登録の際にユーザーが該当するオプションを選択して、このような情報を ABBYY

から受け取ることに同意した場合に限られます。お客様は、ABBYY

に連絡することにより、いつでもご自分の電子メール アドレスを購読者リストから削除できます。

テクニカル サポート

ABBYY FineReader の使用方法についてご不明な点がある場合は、テクニカル サポート サービスにご連絡いただく前に、すべてのドキュメント（ユーザーズ ガイドとヘルプ）をご覧ください。また、弊社 Web サイトのテクニカル サポート セクション www.abbyy.com/support をご覧ください。このセクションをご参照いただくことで問題を解決できることがあります。

テクニカル サポート サービス担当者が迅速に対応するには、次の情報が必要です。

- お客様の氏名
- 会社名または組織名（企業ユーザーの場合）
- お客様の電話番号（または FAX 番号あるいは電子メール アドレス）
- ご使用の ABBYY FineReader パッケージのシリアル番号またはサポート ID。サポート ID はシリアル番号の固有の識別子で、ライセンスとコンピュータに関する情報を含んでいます。サポート ID を表示するには、[ヘルプ] > [バージョン情報...] > [ライセンス情報] を選択します
- ビルド番号（[ヘルプ] > [バージョン情報...] を参照し、[ビルド] フィールドで確認）
- 問題の説明と、エラー メッセージの全文（エラー メッセージがある場合）
- コンピュータとプロセッサの種類
- Windows オペレーティング システムのバージョン
- その他の重要な情報

これらの情報の一部は自動的に収集できます。

1. [ヘルプ] > [バージョン情報...] を選択します。
2. [ABBYY FineReader について] ダイアログ ボックスで、[システム情報...] ボタンをクリックします。

上記情報の一部が含まれるダイアログ ボックスが開きます。

重要事項 無料のテクニカル

サポートを受けられるのは、登録ユーザーのみです。ご使用のプログラムの登録は、ABBYY Web サイトにて行うこともできますし、[ヘルプ] > **今すぐ登録...**